

258. 2-101  
\*1200600237498\*

258.2  
101

X 複写



始



ナ 5N 74

258.2  
101

# 成田山五事業昭和貳年報

昭和貳年七月發行



主山木荒の中在滞敦倫

目次

成田中學校一覽	一
成田高等女學校一覽	四一
成田幼稚園一覽	六五
成田山感化院一覽	七三
成田圖書館一覽	八九
以上	



主 山 木 荒 の 中 在 滞 敦 倫

目 次

成田中學校一覽	一
成田高等女學校一覽	四一
成田幼稚園一覽	六五
成田山威化院一覽	七三
成田圖書館一覽	八九
以 上	

### 荒木山主の歸朝

回顧すれば大正十四年三月十八日、横濱港を解纜して、萬里遠征の途に上られたる荒木山主は、約二箇年弱、豫定の視察を終了し、其間何等の障礙なく、風水病魔等の患もなく、強健に、愉快に、十二分の目的を遂げて、去る二月十九日午後一時、再び横濱港に歸着せられた。吾人は山主を埠頭に迎ひて、佛蹟参拜の爲めの印度内地旅行、熱帯海上の長き航海に由り、少しく日焦けに黝みたる健康そのものゝ如き、山主僧正を船橋に仰きたる時、歡喜と感謝と、何とも謂ひ知れぬ熱涙が溢れた。

斯く無事に豫期以上の成果を収めて歸朝せられたことは、本尊明王の御加護は申すも畏し。全國幾百萬信徒諸氏の熱誠。外務文部等官憲の方々より、多大の御便宜をお與え下されたこと。海外に支店や出張所を有せらるゝ諸會社等の渾き御援助。歐米各地に於ける在留同胞諸氏の深き御同情等。數え来れば際限のない各方面の御蔭を蒙りたることは、今更申すまでもない次第であります。一面には我山主僧正の人格と、身體の極めて強健であられたことが、總てを有利に導きて、此の結果を齎

致用者等贈本  
らしたものと推す。

歸朝の際は折からの御諒問、新勝寺に於ては極力歡迎様のこととを辭退し、其出迎とてもホンの止むなき方面丈に限りて、他は總て御遠慮申上げた。夫れにも拘はらず、横濱埠頭、野毛山東京驛、深川不動堂、翌日の兩國橋驛、成田着等。アノ大多數の肅然として然も熱誠の籠れる出迎に、我々は唯感謝あるのみであつた。御留主中は新勝寺は勿論、其經營に係る我々五事業の同人は、何と云ふても主人の不在、精神の抜けた形骸のように、なんとなく或る寂寥味を感じずには居られなかつた。夫れが山主歸朝の期日が發表されると與に、一種の活氣を恢復し來つた。二月二十日午後零時三十七分、愈々之を成田驛頭にお迎ひした時は、長き闇夜から覺めて、暉々たる朝暾を拜したと同じような心地がした。

何分歸朝早々、長途旅行の始末、留主中山積の要件機務、折から春暖繁忙期、我々も未だ御旅行中の談話を承るの寸暇を得ない。乍併視察旅行の目的は十分達せられたとのこと。近き將來に於て、其詳細を聽くを得るであらう。憶ふに山主の誠見人格を以て、所有便宜と後援とを得て、充分の視察研究を遂げら



れたることなれば、其獲る所決して尠なからざるべく、而して其結果は他日事實の上に顯はれ來るであらう。(三柿園生)

○奥山新公園の竣功

前山主石川大僧正在職二十五年紀念として、大正九年起工せられたる成田山新公園は、前後八年の歳月を経て、此程大略の工事を畢つた。大略とは申すは、其規模計畫の大體に於て具體化したるを指したるにて、今や最後の仕上げたる、所謂駄目の整理に急ぎつゝあるが、夫れも此處二三ヶ月で完了するであらう。此事業は、元來新勝寺自發的經營で、信徒諸氏の寄附行爲を目標としたものでなかつた。然して起工の本趣意は、毎年數百萬の參拜行香の信徒諸氏に、多少にても慰安を寄與したいと云ふ、極めて淨純なる目的に外ならぬのである。完成に比較的長歲月を要したことは、關東大震災、石川山主の病氣及御遷化、新山主の晋山及洋行等、極めて事故多かりしことも其一であつた。四萬五千餘坪の敷地の交渉等も、相當面倒であつたらしく夫れに天然的不利も多かつた。何分茫々たる下總の平野、百尺と云ふ丘陵もない。涓滴の自然流もない。指頭大の小石もない。由來庭園は石と木とが要素である。夫れが全然缺如せる白地に於て、此一大盛氣樓を現出せる努力は、十分之を認めねばならぬ。此公園築造の着手せらるゝや、信徒講中の隨喜應援亦甚だ盛

んで、各種の寄附申出蜚集し來つた。就中齋藤末吉氏の瀑布の如き、其狀形を野州鹽原の奥なる雄飛瀧に擬したるものにて、其莊嚴雄威本尊明王の御威徳に相應したる一大偉觀である。又其御瀧に安置すべき尊像は、山本瑞雲氏參籠精進の傑作である。古者文王の靈圖を作るや「庶民子來」とあるが、我成田山公園も亦「經之營之不日成之」の感があつた。而して其事業は石川僧正の發意に創まり、現山主の歸朝を紀念すべく竣功した。従來成田山五事業の名は、多少世に知られて居た、それは重に教育事業だ。今回落成せる者は、全然趣を異にせるものであるが現代の焦燥に日夜疲勞を感ぜらるゝ人々に、家族朋友相携へて本尊參拜後の半日を此靈園に優遊して、積日の塵垢を洗ふことは精神的にも、肉體的にも、寧ろ當面の急務ではあるまいか。吾人は高松の栗林、金澤の兼六、岡山の後樂等、世に所謂天下の名園も多く歴遊した、皆各々の長所ありて結構である。仍て私かに是れ等と比較して見た、聊か手前味噌の嫌あるが、必ずしも以上の數者に下るものではないことを斷言するに憚からぬ。此事業に隨喜して、錦上更に花を添へられたる、講中信徒諸賢に對し、滿腔の謝意を表すると與に、設計の任に當られたる林修巳先生、百般の事に執掌せられた病臥中の三橋重郎兵衛氏其他本工事に努力せられたる諸君に對し、深甚の敬意を表する次第である。

成田中學校一覽

大正十五年重要記事	一
沿革大略	二
學 階	三
成田中學校校則	五
職員表	一〇
生徒表	一一
英漢藝塾卒業生人名	一七
卒業生人名及現況表	一八
卒業生及生徒別表	三九
經費	三九

れたることなれば、其獲る所決して尠なからざるべく、而して其結果は他日事實の上に顯はれ來るであらう。(三柿園生)

○奥山新公園の竣功

前山主石川大僧正在職二十五年紀念として、大正九年起工せられたる成田山新公園は、前後八年の歲月を経て、此程大略の工事を畢つた。大略とは申すは、其規模計畫の大體に於て具體化したるを指したるにて、今や最後の仕上げたる、所謂駄目の整理に急ぎつゝあるが、夫れも此處二三ヶ月で完了するであらう。此事業は、元來新勝寺自發的經營で、信徒諸氏の寄附行爲を目標としたものでなかつた。然して起工の本趣意は、毎年數百萬の參拜行香の信徒諸氏に、多少にても慰安を寄與したいと云ふ、極めて淨純なる目的に外ならぬのである。完成に比較的長歲月を要したことは、關東大震災、石川山主の病氣及御遷化、新山主の晋山及洋行等、極めて事故多かりしことも其一であつた。四萬五千餘坪の敷地の交渉等も、相當面倒であつたらしく夫れに天然的不利も多かつた。何分茫茫たる下總の平野、百尺と云ふ丘陵もない。涓滴の自然流もない。指頭大の小石もない。由來庭園は石と木とが要素である。夫れが全然缺如せる白地に於て、此一大盛氣樓を現出せる努力は、十分之を認めねばならぬ。此公園築造の着手せらるゝや、信徒講中の隨喜應援亦甚だ盛

んで、各種の寄附申出蜚集し來つた。就中齋藤末吉氏の瀑布の如き、其狀形を野州鹽原の奥なる雄飛瀧に擬したるものにて、其莊嚴雄威本尊明王の御威徳に相應したる一大偉觀である。又其御瀧に安置すべき尊像は、山本瑞雲氏參籠精進の傑作である。古者文王の靈囿を作るや「庶民子來」とあるが、我成田山公園も亦「經之營之不日成之」の感があつた。而して其事業は石川僧正の發意に創まり、現山主の歸朝を紀念すべく竣功した。從來成田山五事業の名は、多少世に知られて居た、それは重に教育事業だ。今回落成せる者は、全然趣を異にせるものであるが現代の焦燥に日夜疲勞を感ぜらるゝ人々に、家族朋友相携へて本尊參拜後の半日を此靈園に優遊して、積日の塵垢を洗ふことは精神的にも、肉體的にも、寧ろ當面の急務ではあるまいか。吾人は高松の栗林、金澤の兼六、岡山の後樂等、世に所謂天下の名園も多く歴遊した、皆各々の長所ありて結構である。仍て私かに是れ等と比較して見た、聊か手前味噌の嫌あるが、必ずしも以上の數者に下るものでないことを斷言するに憚からぬ。此事業に隨喜して、錦上更に花を添へられたる、講中信徒諸賢に對し、滿腔の謝意を表すると與に、設計の任に當られたる林修己先生、百般の事に執掌せられた病臥中の三橋重郎兵衛氏其他本工事に努力せられたる諸君に對し、深甚の敬意を表する次第である。

成田中學校一覽

大正十五年重要記事	一
沿革大略	二
學 曆	三
成田中學校校則	五
職員表	一〇
生徒表	一一
英漢義塾卒業生人名	一七
卒業生人名及現況表	一八
卒業生及生徒郡別表	三九
經費	三九

校

東京女子高等師範學校教授  
文學博士 柴尾上八郎氏作歌

學習院 教官  
嚴玉 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をとよもす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈城は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗のもとに

つどへつどへ成邱の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたたかひ

おそろしき智識のいくさ

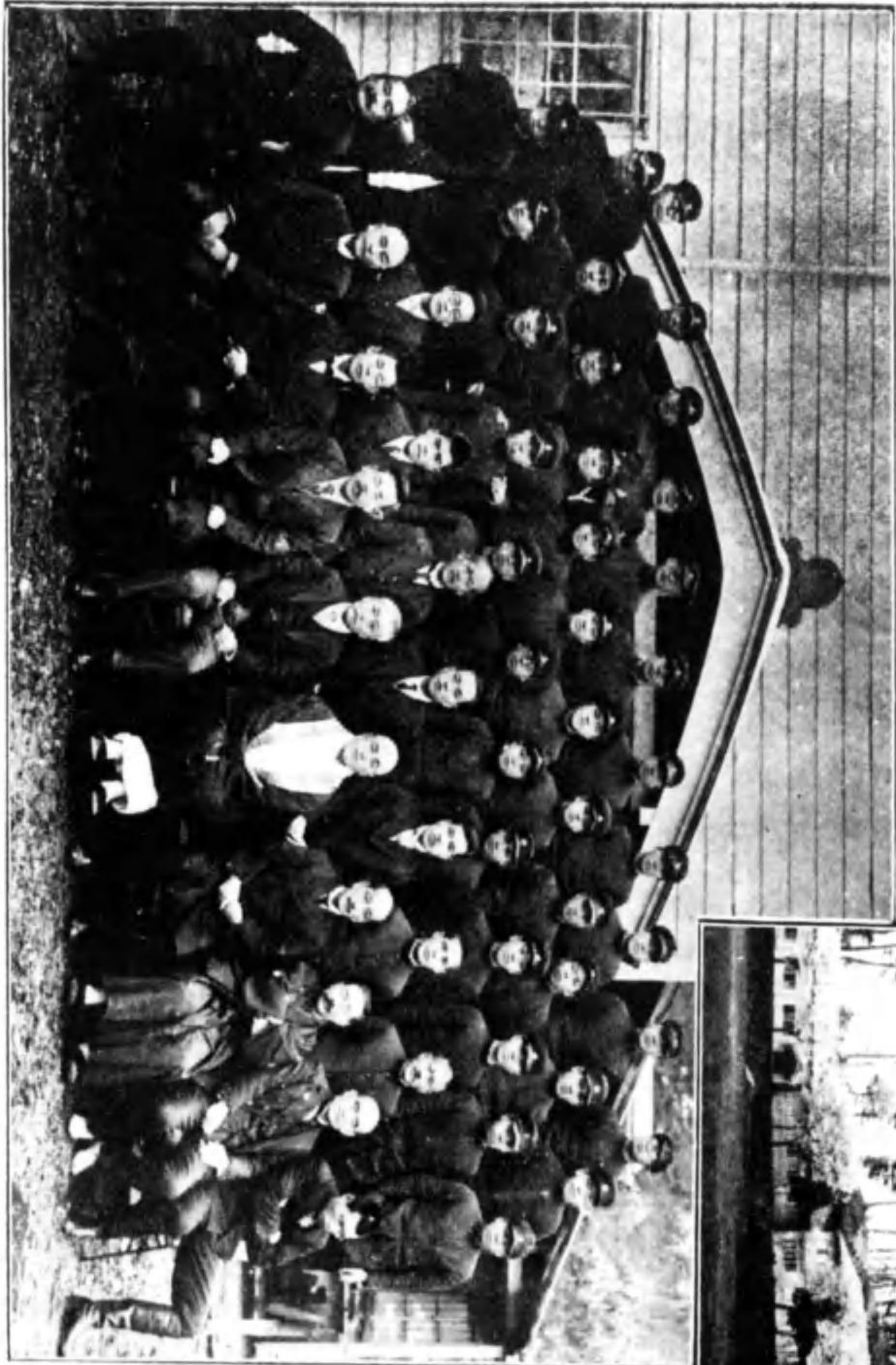
國のため勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

(備考 音城高き時は八調にて歌ふも可なり  
メトロノオム 182)

校 學 中 田 成



生 業 卒 回 六 十 二 第 及 員 職 教



校歌

東京女子高等師範學校教授  
文學博士 柴 尾上八郎氏作歌

學習院 教官

玉 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて  
うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をとよもす  
さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈城は不落のとりで  
御すがたは降魔の守<sup>まも</sup>  
葉牡丹の校旗のもとに  
つどへつどへ成邱の健兒

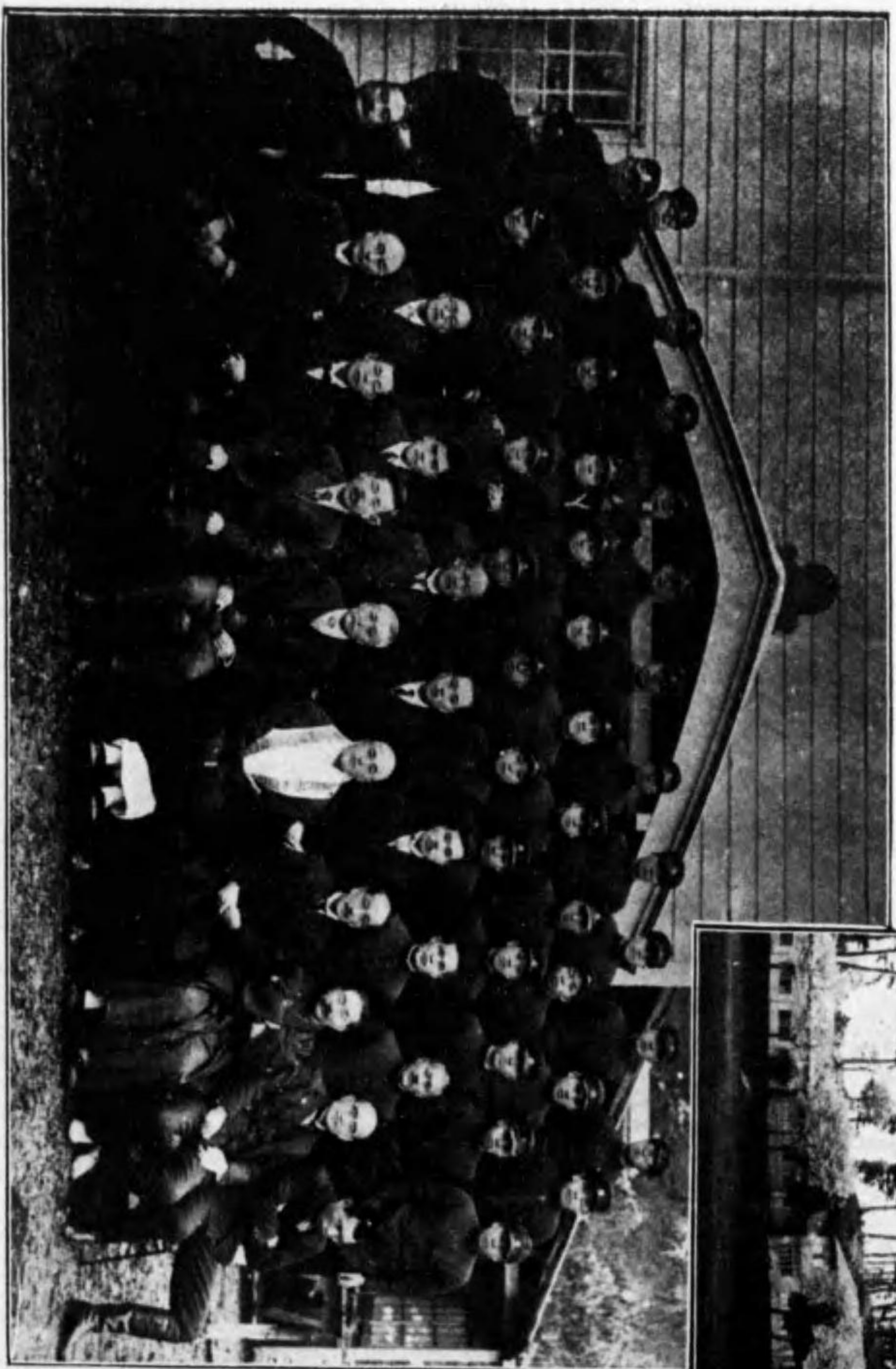
(三) 勤勉と克己と慈悲と  
忠勇と剛毅と素朴  
稲となし劍となして  
立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたたかひ  
おそろしき智識のいくさ  
國のため勝利の冠  
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

(備考 音域高き時はへ調にて歌ふも可なり)  
考メトロノオム

校 歌 中 田 成



生 業 卒 回 六 十 二 第 及 員 職 教

# 私立成田中學校一覽

(昭和二年四月現在)

## ◎中學校十五年度重要記事

(一)校舎の増築校庭の擴張 中學校々舎の増築は兼ての懸案なりしが新勝寺當局に於て凝議の結果外遊中なりし山主の認許を得て其増築及び擴張の事を決定し木造二階建生徒百名を收容し得る普通教室及び二階建鐵筋コンクリートの理化學教室及び講堂を増築することとなり演武場及び校庭は倍大せり從來の理化博物教室は既設校舎の北東に移して博物教室専用とし二階建普通教室を其跡に新設して校舎は西に延長せられ鐵筋コンクリートの講堂及び理化學教室の二階建は既設校舎の東部に連接して校舎は東に延長せられ今や本校建物の前面は其延長六拾有餘間に及びり土地は高燥にして南東に面し採光通風等保健上遺憾なしと信ず

(二)卒業生及び其志望 本年度の卒業生は其數四十八名にして入學當時の人員七十名に對し中途退學或は轉學しせ者二十二名に及びり卒業年齢は最長二十年十一月最少十七年一ヶ月平均十八年六ヶ月なり其志望は

高等學校	七	高等工業學校	五
商船學校	一	高等師範學校	一

私立成田中學校一覽

三)昭和二年度入學志望者及び入學者 本年度は新入一年生八十名を募集せり之に對して其應募者百四十二名に上れり志望者を出身小學校別とするときは左の如し

神宮皇學館	一	海軍經理學校	一
逓信官吏練習所	一	慶應義塾大學	一
智山大學	二	齒科醫專門學校	一
明治大學	二	師範學校第貳部	五
實業	一四	未定	六
成田小學校	四二	富里小學校	十五
八生小學校	八	中郷小學校	七
公津小學校	九	遠山小學校	六
久住小學校	六	布鎌小學校	六
安食小學校	四	豊住小學校	四
木下小學校	二	久住東小學校	一
長沼小學校	一	北疋田小學校	一
本埜小學校	一	川上小學校	一
多古小學校	三	小御門小學校	二
高岡小學校	一	前林小學校	一
滑河小學校	一	津富浦小學校	二

- 岩山小學校 四 千代田小學校 六
- 菱田小學校 二 二川小學校 一
- 金江津小學校 二 岩瀬小學校 一
- 大原小學校 一 與瀬小學校 一

以上百四十二名に對し本年度は國語算術二科の學力試驗及び別に口答試驗を行ひ八十名を選抜して入學を許可せり

(四年中行事 年中行事は學曆豫定の通り遂行せしが大正天皇崩御あらせ給ひし爲全校生徒を臨時に召集して奉悼式を挙げ又御大葬當日遙拜式を舉行せしことは本校職員及び生徒一同の今尙は哀傷恐懼の感に堪えざる所なり是より先き十一月三日の全國體育デーには運動場擴張の感謝と祝意を表する爲の野球庭球の試合及び陸上競技大會を行ひ其二十七日には神官を聘して恭しく道場開場式を行へり本年二月二十日には本校々主名譽校長たる山主親下の歸朝を成田驛に奉迎し三年級以上は武裝嚴かに校旗を先頭に御本山本坊まで奉送し本坊前に於て親下の懇篤なる御挨拶に接せり増築の普通教室は工事既に成りて生徒を收容し新講堂及び理化學教室亦將に其功を竣らんとす成田山新勝寺の施設として社會奉仕九牛の一毛にも貢獻することを得ば本懐の至なり

(五)沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、及び感化院と共に成田山新勝寺の施設せる社會奉仕五事業の一に屬す。

(一)英漢義塾時代 明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎し、有志石川甚兵衛(先代)諸岡勝太郎(先代)其他の諸氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして、修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することとせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり。宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむること貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和氏は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事安部浩氏の實地視察となり。遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ヶ月。此間塾長の交迭は宮村三多以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及びり。當時塾舎は成田町字東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二)現中學校時代 明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舎の新築土工を起し、淺井造、宮田半

左衛門(先代)、諸岡市郎左衛門(先代)、飯倉郁太郎諸氏及び評議員三橋金太郎氏建築委員となり。多大の努力の下に三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徵兵猶豫の特典を附與せられ。又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらるゝあり。遂に六月二十七日を卜して落成式を舉行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、二十六回卒業生を送り。其數七百七十五名に及びり、此間文部次官奥田義人、商工局長木内重四郎、板垣退助伯文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原巳一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會奉仕の努力に深甚の同情且つは賛辭を寄せらる。回顧すれば二十一年英漢義塾創立以來年を閲すること實に四十其中學と改稱せしより、三十ヶ年に及びり。

英漢義塾第一回の卒業なる三橋金太郎氏が本校創立以前より今尙ほ引續き評議員、理事として勤務せらるゝは多とすべし。石川長兵衛氏亦本校理事として常に本校の爲めに盡瘁せらる今次の校舎増築校庭擴張の爲めには兩氏の盡力に負ふこと多大なり。校長及び教務主任の去就に左の如き記録を有す。

喜田 貞吉 明治三十一年十一月校長就任  
竹内 楠三 明治三十二年八月喜田氏に代はる

- 校主 石川 照勳 明治三十四年七月竹内氏辭任に付校長兼任  
栗根 鐵藏 明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる  
白鳥 庫吉 明治四十一年九月本校顧問を囑托す  
葛原運次郎 明治四十一年九月栗根氏に代り校務主監として就任
- 佐竹 元二 大正三年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる  
佐藤 禮云 大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる  
濱田丑之助 大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる  
名川 彦作 大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる  
笹川 種郎 大正十三年二月校長に任ぜらる  
小林 力彌 大正十四年三月笹川氏に代りて校長に任ぜらる

◎學 曆

- 四月 一日 第一學期開始、始業式、入學式、午前八時始業、  
下旬 身體検査  
廿九日 天長節
- 五月 中旬 修學旅行  
六月

一日 夏服着用、服装検査、  
 初旬 野球小會、庭球小會、文藝會、武道小會  
 七月  
 中旬 第一學期試験、第一學期終業式  
 廿一日 夏季休業始  
 八月  
 卅一日 第一學期終  
 九月  
 一日 第二學期開始、始業式  
 十月  
 一日 冬服着用、服装検査  
 七日 創立記念日  
 中旬 武道小會、野球大會、庭球大會、文藝會  
 十一月  
 一日 午前九時始業  
 三日 明治節  
 上旬 遠足又は長距離競走  
 中旬 發火演習  
 十一月  
 中旬 第二學期試験  
 下旬 第二學期終業式

二十五日 大正天皇祭  
 廿六日 冬季休業始  
 卅一日 第二學期終  
 一月  
 一日 第三學期開始、新年拜賀式  
 七日 冬季休業終  
 八日 第三學期始業式  
 中旬 五年級生徒志望調査  
 自中旬 武道寒稽古  
 至下旬 次學年教科書選定  
 二月  
 十一日 紀元節  
 中旬 武道大會、文藝會  
 下旬 校友會誌發行 五年級卒業試験  
 三月  
 上旬 第五年級卒業式  
 中旬 第四年級以下學年試験、第四年級以下終業式  
 下旬 入學試験、入學試験合格者發表  
 卅一日 第三學期終

### ◎成田中學校々則

第一章 總 則  
 第一條 本校は男子に須要なる高等普通教育をなすを以て目的とし特に國民道德の養成に力む  
 第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る  
 第三條 一學年を分ちて三學期とす左の如し  
 第一學期 四月一日より八月三十一日に至る  
 第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る

第三學期 一月一日より三月三十一日に至る  
 第四條 休業日左の如し  
 各日曜日、開校記念日(毎年十月七月)大祭日、祝日、夏季休業(七月二十一日より八月卅一日に至る)冬季休業(十二月二十五日より一月七日に至る)  
 第二章 學科課程及授業時間  
 第一條 各學科の配當並に毎週時間數は別紙に依る  
 第三章 試 験  
 第一條 試験を分ちて學期試験學年試験の二種とす  
 第二條 學期試験は其學期間に授業せし科目に付之れを行ふ

學科課程 每週教授時數表

科目	學年		修 身	國語及漢文	外 國 語	歷 史	地 理	數 學
	第一學年	第二學年						
第一學年	一	一	一	八	七	三	三	四
第二學年	一	一	一	九	七	三	三	四
第三學年	一	一	一	六	六	三	三	六
第四學年	一	一	一	五	六	三	三	五
第五學年	一	一	一	三	六	三	三	五

博	二	植物、動物	二	同上
物理及化學	二	同上	二	動物、衛生
法制及經濟	四	同上	四	物理、化學
圖	一	自在	一	同上
唱	一	歌	一	同上
體	五	體操、技、劍道及柔道	五	同上
計	三		三	同上

第三條 學年試驗は學年の終に於て該學年間に授業せし全學科に付之れを行ふものとす

第四條 試驗の評點は各一學年毎に百點を以て最高點とす

第五條 各教員は其受持學科に就き日課點を附す

第六條 各學科の學期試驗評點は其學期中に於ける日課點の平均點と學期試驗點とを加へ其和を三除したるものとす

第七條 各學科の學年試驗評點は第一第二學期試驗評點と學年試驗評點とを加へ其和を三除したるものとす

但第三學期の平常點は學年試驗の成績に參酌するものとす

第八條 各學年の學年評點五十點以上總約點六十點以上を得るにあらざれば進級するを得ず但一學科四十點以上のもの三學

科以內なるときは進級せしむることあるべし

第九條 學年試驗に正當の事故の爲め豫め届出の上缺席したるものは追試驗を行ふことあるべし但此の場合に於ては其得點の十分の二を減じ之れを試驗點と定む

第四章 入學及退學

第一條 生徒の入學は每學年の始とす但缺員あるときは學期の始めに於て募集することあるべし

第二條 本校第一學年級に入學を許すべきものは尋常小學校第六學年卒業のものは其卒業證により其他の志願者は入學試驗に合格せるものを取る但尋常小學校第六學年卒業の者と雖も志願者の數募集人員に超過するときは入學試驗を執行すべし

第三條 第一學年級の入學試驗は國語、算術並に日本歴史、地理理科の内一科若くは數科に就き尋常小學校卒業程度に依りて之を行ふ

第四條 第二學年級以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達し其學級に相當する學力試驗に合格したるものに限る

第五條 他の中學校より轉學せんと欲する者ある時は缺員ある場合に限り入學を許可することあるべし但前學校と學科の配當に差異あるときは其學科に限り試驗を行ひ前學校と同年齢或は一級下に編入す

第六條 凡て本校に入學せんと欲するものは體格検査を施行し合格せざるものは入學を許可せず

第七條 入學志願者は左の書式に依り入學願書に履歷書を差出すべし但尋常小學校六學年以上の課程を了へたる入學志願者は更に修業證書又は卒業證書を添へ該書なき者は校長又は首席訓導の證明書を添ふべし

入學願書 (用紙半紙 二つ折)

私儀御校何年級に入學志願に付御許可相成度此段奉願候也

年 月 日

私立成田中學校一覽

住所族籍

戸主誰子弟

姓 名 印

成田中學校長 何 誰 殿

履歷書 (用紙半紙 二つ折)

本籍 何府縣何市何郡町村何番地

現在 族籍、戸主に非れば誰子弟

姓 名 生年月日

一何年何月より何年何日まで何學校に何學修業

一何年何月何學校を卒業

一何年何月の廉に付何賞或は何罰を受く  
右之通相違無之候也

年 月 日 右 姓 名 印

第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍抄本を差出すべし

第九條 保證人は父兄親戚又は後見人中丁年以上の男子にして

一家計を立つる者に限る  
第十條 保證人は豫め本校長の承諾を得たるものたるべし

在學證書 (用紙半紙) 印  
保證人の印

參 錢 紙入 印

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令等堅く遵奉可仕候也

誰子弟

族 籍

姓

生年月日 名 印

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

年 月 日 住 所

年 月 日 族 籍 職業

成田中學校長 何 某 殿 保證人 姓 名 印

右保證人は丁年以上の男子にして本町(村)内に於て一家計を立つ者に相違無之候也

何府何縣何郡何市何町村長 何 某 印

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

第十一條 保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十二條 左の場合に於ては退學を命ず

- (一) 性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
  - (二) 學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者
  - (三) 引續き一箇年以上缺席したる者
  - (四) 正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者
  - (五) 授業料意納二ヶ月以上に亘るもの
  - (六) 疾病事故に因り學業を履修する能はざる者と認むる者
  - (七) 出席常ならざるもの
- 第十三條 中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第五章 授業料

- 第一條 授業料は一ヶ月金貳圓五拾錢とす
- 第二條 生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず
- 第三條 授業料納付期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは納入済まで停學を命じ保證人をして之を納めしむ
- 第四條 入學の許可を得たるものは入學金壹圓を納むべし
- 第五條 左の各項に該當するものは授業料を減免す
  - 一 學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの
  - 一 戦時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟
  - 一 貧困にして資力なく學力品行中等以上なるもの但此第三の

場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六章 賞 罰

- 第一條 品行方正學術優等の者には一學年間の授業料を免除し又は賞品賞狀を授與することあるべし
- 第二條 規則命令に違背し又は風紀を害するものは戒飭、留置停學、放校の罰に處す
- 第三條 學校の建物器具標本等を毀損又亡失したるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第七章 寄 宿 舎

- 第一條 寄宿舍は本校生徒にして父兄及保證人の住宅より通學し能はざるものをして寄宿せしむる所とす但場合により下宿を命ずることあるべし
- 第二條 寄宿生は食費及舍費を毎月五日以内に納むべし若し故なくして期間内に納めざる者は退舍を命じ未納の費額は保證人より追徴す
- 但食費の外電燈料の實費を徵集す
- 第三條 入舎の許可を得たるものは左の保證書を差出すべし

參 錢 紙入 印

保證書 (用紙半紙) 二ツ折

御校何年生某儀今般寄宿舍へ入舎致し候上は本人入舎中金員物品の辨償は勿論本人身上に關する一切の事件負擔可仕候仍て保證如件

年 月 日 住 所 番 地 族 籍

成田中學校長 何 誰 殿 保證人 姓 名 印

- 第四條 保證人に異動あるときは直ちに届出相當の手續をなすべし
- 第五條 退舍せんと欲するものは事由を記し保證人連署の上願書を差出し許可を受くべし

第八章 服 制

- 第一條 生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし
- 第二條 制帽の地質は黒羅紗にして本校の徽章を附すべし
- 第三條 制服はジャケット製ホツク止めにして地質は紺色又は黒のヘル若しくは小倉織を用ふべし
- 但し夏服は小倉の霜降とす
- 第四條 制服を未だ調製せざるもの若しくは汚損したるものは許可を得て代用服を着用すべし
- 第五條 代用服は筒袖にして袴を着用すべし
- 第六條 制服又は代用服を着用するにあらざれば教場に入るを許さず但新人學生に限り指定の期間中制服調製の間は代用服を許す









岩井源助 印 本 全 成 田 本 塾

第壹學年乙組 (四拾名)

△土肥義邦 全 印 成 田 公 津

主任教諭

三門健一

△湯淺重雄 印 成 田 本 塾  
 成田敬二 全 成 田 本 塾  
 菅澤忠孝 印 成 田 本 塾  
 大久保喜八郎 全 成 田 本 塾  
 小川重平 全 成 田 本 塾  
 伊藤彰平 全 成 田 本 塾  
 吉田正勝 全 成 田 本 塾  
 青木茂雄 全 成 田 本 塾  
 石井美夫 全 成 田 本 塾  
 鈴木香取 全 成 田 本 塾  
 加藤傳 全 成 田 本 塾  
 岩館衛 全 成 田 本 塾  
 篠原文太郎 全 成 田 本 塾

內田啓二 印 成 田 本 塾  
 稻葉宗三 全 成 田 本 塾  
 石井文三 全 成 田 本 塾  
 伊佐治 全 成 田 本 塾  
 金子倉八 全 成 田 本 塾  
 小倉八 全 成 田 本 塾  
 武田光 全 成 田 本 塾  
 林川光 全 成 田 本 塾  
 小林川光 全 成 田 本 塾  
 大木川光 全 成 田 本 塾  
 長谷川芳能 全 成 田 本 塾  
 櫻井芳能 全 成 田 本 塾  
 大久保芳能 全 成 田 本 塾

△三池 正道 全 成 田 本 塾  
 鈴木 全 成 田 本 塾  
 萩原 全 成 田 本 塾  
 小川 全 成 田 本 塾  
 高木 全 成 田 本 塾  
 鈴木 全 成 田 本 塾  
 寺內 全 成 田 本 塾  
 椎名 全 成 田 本 塾  
 五利 全 成 田 本 塾  
 後藤 全 成 田 本 塾  
 林田 全 成 田 本 塾  
 長谷川 全 成 田 本 塾

◎成田英漢義塾卒業生人名 (×死亡)

第一回卒業生 (明治二十三年三月)

法學士 北田彦三郎

第五回卒業生 (明治二十八年三月)

伊藤幸次郎

第二回卒業生 (明治二十五年三月)

×山田兵治

第六回卒業生 (明治二十九年三月)

山崎傳一

第三回卒業生 (明治二十六年三月)

法學士 石井佐次馬

×石川昌三郎

第四回卒業生 (明治二十七年三月)

砲兵大佐 林政次郎

×藤崎欽哉

藤崎仁三郎

赤谷由助

第八回卒業生 (明治三十一年三月)

木内 民雄  
 米津 重次郎  
 湯淺 恒暉  
 石波 恒三郎  
 林田 恒三郎  
 × 郡司 喜太郎  
 並木 弘  
 (山本改) 河津 金四郎  
 岡本 保  
 醫師 堀井 富五郎

選科履修生 (明治三十一年三月)

石井 喜一  
 長谷川 慶  
 × 小野寺 弘  
 木内 啓司  
 玉造 泰助  
 細田 孝司  
 原 久藏  
 山口 要太郎  
 山口 喜助  
 戸村 友吉  
 香取 友吉  
 唯 謹 吾

第九回卒業生 (明治三十二年三月)

◎中學校卒業生人名及現況表

(×死亡)

第一回卒業生(六名) (明治三十五年三月)  
 千葉縣立安房中學校長 文學士 小野寺精一郎 印旛成田  
 朝鮮總督府通信局工務課長 工學士 飯倉文甫 全成田  
 ×三橋 信吉 全成田  
 ×竹尾 丑之助 全成田  
 秋山 篤英 全富里  
 成田中學校教諭(早大文科卒業)

日本石油會社東京本社(早大商科卒業) 黑田 政吉 印旛成田  
 第二回卒業生(八名) (明治三十六年三月)  
 ×京須 幸 印旛成田  
 日本興業會社社員(早大卒業) 神崎 義俱 成田遠山  
 日本大學商工學校長 (藤崎改) 加納 金助 全遠山  
 山口縣技師(水産講習所卒業) 高橋 照文 山武南郷

東京時事新報社社員(步兵中尉)

實業

渡米實業

大成火災保險株式會社大阪支店在職(早大商科卒業)

第三回卒業生(十八名) (明治三十七年三月)

小川 克己 印旛八生  
 吉岡 彌猛 全酒々井  
 加藤 芳之助 香取大須賀  
 黒川 信 印旛成田  
 × 渡邊 政助 印旛成田  
 小川 源一郎 全公津  
 × 額賀清右衛門 鹿島白鳥  
 飯倉 貞造 印旛成田  
 寺内 一夫 印旛成田  
 後藤 七郎 全八生  
 × 瀧澤 德治郎 全成田  
 遠藤 與惣平 全公津  
 木内 茂助 全成田  
 小川 利太郎 全公津  
 × 藤倉 精助 全成田  
 佐々木 收治 千葉實業  
 田中 重衛 埼玉北足立  
 加藤 右二 印旛中郷  
 神崎 庄助 全成田  
 那須 文治 香取飯田

醫師(慈惠醫學士)

實業

芝浦製作所技師(東京高工卒業)(加藤改)

大日本農會在勤

中華民國上海大康紗廠在職

醫師(千葉醫學卒業)

金澤醫科大學教授

埼玉縣熊谷聯隊區司令部步兵大尉

宮崎縣立福島高等女學校教諭(早大卒業)

實業

醫師(千葉醫學卒業)

小學校教師

實業

× 山本 順 印旛成田  
 多田 亨 全公津  
 第四回卒業生(廿二名) (明治三十八年三月)  
 農學士 萩原 義重 山武千代田  
 工學士 宮野 源一郎 全千代田  
 (椎名改) 野村 竹男 茨城北相馬  
 醫學博士 泉 仙助 香取滑川  
 秋山 三省 印旛中郷  
 (伊藤改) 吉岡 保 全富里  
 大木 榮次郎 全中郷  
 × 坪井 節爾 千葉千葉  
 秋葉 有一郎 山武千代田  
 小幡 久 石川金澤  
 安藤 胤治 山武千代田  
 (鈴木改) 鈴木 亮 印旛公津  
 × 辻 英吉 東京荏原  
 高仲 喜代松 印旛遠山  
 湯淺 儀三郎 印旛八生  
 藤崎 倭一 全富里  
 藤崎 宗平 全遠山

私立成田中學校一覽

實業 小川 明 印旛中郷  
實業 黒川 傳 全 成田

實業(在朝鮮) × 石原泰次郎 全 成田  
松本 保 大分字佐

第五回卒業生(廿二名) (明治三十九年三月)

實業 × 小倉榮二郎 印旛成田  
長谷川治吉 全 成田  
實業 土肥 多助 全 富里  
實業 三橋 英治 全 成田  
東京高商卒業 (藤川改) × 土屋 圓 山武瑞穂  
醫 師(慈惠醫學士) 佐藤 重俊 安房由基  
日本生命保險會社々醫、京都醫專卒業 (繁藏改) × 山野 衿三 印旛成田  
澤田 信三 全 久住  
× 小野寺英二郎 全 成田  
仁科 一 靜岡靜岡  
小川改) 鈴木 七郎 印旛八生  
× 山野 隆治 全 成田  
萩原 長三 山武千代田  
丸 良輔 印旛公津  
石原 清泉 全 成田  
南滿鐵道本社在勤

實業(步兵少尉) 作田 紋平 山武鳴濱  
東京瓦斯會社淀橋研究所(慶大卒業) 淺井 信之 印旛成田  
第三銀行本店員 (加藤改) × 石橋 堯之助 全 成田  
實業 松本 頼三 東京京橋  
實業 古矢 誠助 印旛成田  
實業 宮田 七右衛門 全 八生  
清宮 俊平 全 八生

第六回卒業生(廿二名) (明治四十年三月)

實業(步兵少尉) 丸 武夫 印旛公津  
水承講習所技手 藤田 正己 全 八生  
實業 × 三橋 達也 全 富里  
龍崎 源 全 酒井  
東勝寺貫首(國學院大學卒業) 三好 照嘉 山武千代田  
× 香取 實 全 二川  
× 石橋 清 印旛富里  
飯倉 汎三 全 成田  
鈴木 三郎 東京品川  
× 稻垣 保治 印旛成田  
三好 照正 全 酒々井  
× 大島 慎三 全 成田  
織原 三郎 全 八生  
× 林 正四郎 全 八生  
藤原 昇 全 富里  
高野 照實 全 成田  
木内喜右衛門 全 成田  
× 松本 修一 高知安藝  
山田 逸作 印旛八生  
石原 岩治 全 成田

實業 香川縣木田農學校長 農學士 大塚 靜 印旛成田  
北海道警察部長 法學士 石川 芳太郎 全 安食  
小御門農學校教諭 (伊藤改) × 石井 金次郎 全 安食  
ハルビン駐在副領事 櫻井 重助 香取遠山  
小學校教師 泉 顯藏 茨城行方  
小學校教師 黒川 孝 印旛成田  
小學校教師 石橋 昇 全 豊住  
小學校教師 石井 孝司 全 豊住  
實業(步兵少尉) 篠田 憲次郎 全 八生  
實業(小倉改) 葛生 孝作 全 八生  
× 川島 芳夫 市原瀧津  
藤崎源一郎 印旛遠山

實業 加藤 光太郎 印旛成田  
東京不動銀行在職(慶大卒業) 吉田 新 全 成田  
小學校教師 (廣瀬改) 勝田 海治 印旛木下  
小學校教師 (小川改) 大木 義徳 山武千代田  
實業 (成毛改) 鈴木 啓次郎 印旛安食  
丸 善助 全 公津  
實業 (山口改) 鈴木 忠治 全 遠山  
橋爪 石民 茨城稻敷  
長谷川 利吉 印旛成田  
藤崎 勇三郎 全 遠山  
官 吏 藤崎 勇三郎 全 遠山

第七回卒業生(廿二名) (明治四十一年三月)

實業 × 五木田 康吉 印旛成田  
石井 延太郎 全 遠山  
實業 × 三橋 治平 全 富里  
竹村 克之 全 富里  
× 飯島 貞雄 東京芝  
土井 彌一 印旛公津  
藤崎 翠 全 遠山  
× 稻生 恭平 全 木下  
三浦 照芳 全 佐倉  
東京鐵道郵便局員

實業(步兵少尉) 丸 武夫 印旛公津  
現代公論社(騎兵少尉) (神原改) × 大島 慎三 全 成田  
齒科醫 織原 三郎 全 八生  
× 林 正四郎 全 八生  
齒科醫 藤原 昇 全 富里  
實業 高野 照實 全 成田  
木内喜右衛門 全 成田  
× 松本 修一 高知安藝  
山田 逸作 印旛八生  
石原 岩治 全 成田

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

一一一

第八回卒業生(廿二名) (明治四十二年三月)

陸軍一等主計(在四街道) 蛭田 玄美 印旛豊住  
 × 金澤 光雄 香取多古  
 × 加藤 保 印旛八生  
 小學校教師 邊田 金次郎 印旛滑川  
 × 櫻井 千太郎 全 佐倉  
 (小倉改) 藪崎 久太郎 全 中郷  
 東京市區劃整理局在職 土肥 忠衛 全 公津  
 實業 平山 勘一 印旛遠山  
 遠山村役場書記 川崎 金吾 印旛公津  
 實業 秋葉 義之 山武二川  
 (新行寺改) 荒木 照定 山武縁海  
 成田山新勝寺貫首(東洋大學文學士) (野平改) 永瀬 謙吉 印旛八生  
 實業 鈴木 五兵衛 全 成田  
 芝鏡照院住職(東洋大學卒業) 志田 照猛 東京京橋  
 小學校教師 秋葉 昇 印旛富里  
 小學校教師 (遠藤改) 村島 隆治郎 全 公津  
 小學校教師 (大助改) 藤崎 大八 全 富里  
 實業 石橋 茂夫 全 久住  
 實業 (本多改) 藤崎 靜 全 遠山

明治大學卒業

第九回卒業生(廿二名) (明治四十三年三月)

實業 × 小川 潔 印旛八生  
 野平 與全 豊住  
 橋本 修造 全 公津  
 實業 (加藤改) × 竹村 健 印旛中郷  
 (土肥改) 諏訪原 克己 印旛公津  
 實業 大塚 篤三 全 成田  
 (加藤改) 竹下 清吉 全 成田  
 陸軍輜重兵大尉(目黒) 石井 榮治 山武千代田  
 日本製粉會社馬關支店 坂宮 浩 印旛八生  
 (東京高商卒業) 加勢 胖 愛媛宇和島  
 陸地測量部修技所卒業 高橋 毅一 印旛公津  
 實業 椎名 憲三 全 久住  
 齒科醫(東京齒科醫專卒業) (三橋改) 鈴木 重五郎 全 中郷  
 實業(松戸高等國藝學校卒業) (中村改) 小川 保 全 彌富  
 小學校教師 (和田改) 卯之木 照文 全 公津  
 小學校教師 平野 清司 市原高瀧  
 日光清瀧製鋼所在職 廣瀬 保 印旛豊住  
 實業 小倉 甚四郎 全 成田

八生農學校教諭(松戸高等國藝學校卒業) 小倉 英次 印旛八生  
 實業 吉岡 米吉 全 酒々井  
 齒科醫 宮島 昇 全 成田  
 中央新聞編輯部長 下村 保 全 八生  
 (渡邊改) × 櫻井 昇 全 成田  
 × 黒川 幹 全 成田  
 × 澤邊 保 全 八生

第十回卒業生(廿三名) (明治四十四年三月)

千葉井上病院(千葉醫專卒業) 醫學博士 椎名 泰三 印旛久住  
 日本鋼管株式會社在勤(千葉醫專卒業) 法學士 石原 貞三 全 成田  
 山口 清 全 八生  
 醫師(千葉醫專卒業) (平三郎改) 藤崎 公道 全 遠山  
 海軍機關大尉(三十九潜水艦乘組) 藤田 精一 全 八生  
 醫士(千葉醫專卒業) 織田 貞 市原菊間  
 實業 (九改) 內田 省吾 印旛公津  
 小倉壯五郎 全 中郷  
 林松之助 全 八生  
 大坂商船會社在職(商船學校機關科卒業) × 鈴木 雄一 山武山邊  
 × 川島 勝信 印旛富里  
 × 三橋 衛 全 成田

小學校教師 額賀 誠司 茨城白鳥  
 朝鮮銀行浦羅支店在職 小川 清 山武二川  
 (東洋協會專門學校朝鮮語科卒業) 河野 毅一 長生東郷  
 實業 岡部 秀澄 印旛遠山  
 在久留米三菱試驗事務所 (石井改) 小出 清 全 富里  
 × 野平 四郎次 全 豊住  
 東京市道路橋梁課在職 (右馬之助改) 秋葉 昌己 全 富里  
 (改玉社工學校高等研分科卒業) 額賀 忠孝 茨城白鳥  
 小學校教師 蛭田 眞民 印旛豊住  
 小學校教師 吉岡 七郎兵衛 全 中郷  
 實業 (衛改) 小川 新 全 成田

第十一回卒業生(卅二名) (明治四十五年三月)

內務省內務事務官警保局在職 法學士 三橋 孝一郎 印旛成田  
 齒科醫(日本齒科醫專卒業) (秋山改) 鈴木 靜 全 中郷  
 成田山感化院主任 (本宮改) 大友 惟誠 宮城志田  
 (東洋大學文學士) 梶谷 循一 印旛安食  
 實業 京都帝大工科卒業 工學士(小野寺改) 瀧川 俊雄 全 成田  
 (大坂市技師) 渡邊 和一 全 成田  
 實業(步兵少尉) 渡邊 由松 全 成田  
 醫師(新潟醫專卒業)

私立成田中學校一覽

一一一



私立成田中學校一覽

實業	清宮忠雄	印旛八生	實業	長谷川英一	印旛成田
實業	石井順全	成田	實業	加藤暢全	公津
第十四回卒業生(卅二名) (大正四年三月)					
海軍主計大尉	岡部美磨	印旛遠山	東京富澤町川崎銀行支店在職	齋藤健雄	全公津
宇都宮工業學校教諭	三橋藤太郎	全成田	(早大商科卒業)	京須芳雄	全成田
千葉醫科大學生理學教室在職	木川浩逸	香取東條	內務省土木監督署河川工事事務所	高柳榮三郎	全豊住
(千葉醫專卒業)	藤崎總三郎	印旛遠山	八生農學校教諭(步兵少尉)	鈴木金候	山武二川
大阪商船株式會社在勤(拓殖大學卒業)	小倉要	印旛成田	實業(步兵少尉)	岩井儀太郎	印旛富里
成田町役場吏員	石井操	全遠山	南滿洲鐵道株式會社	片野純三	岐阜大垣
帝國電燈株式會社社員	戸村晋	山武千代田	京城管理局工務課	鈴木秀之輔	印旛成田
齒科醫	大木嘉平	印旛中郷	實業	柳澤吉藏	全成田
實業	茂手木篤三郎	印旛遠山	小學校教師	榎田正巳	印旛成田
實業	黑羽順教	栃木那須	成田中學校教師兼書記	高安盈仁	印旛成田
僧侶(智山大學卒業)	丸善一	印旛公津	慈惠病院助手(東京慈惠醫專卒業)	藤波潔	印旛成田
實業	大須賀清光	全酒々井	小學校教師(麻布獸醫學校卒業)	若月義宏	安房西條
小學校教師	萩原正雄	香取多古	僧侶	第十五回卒業生(卅五名) (大正五年三月)	
實業	吉岡博	印旛中郷	醫師(千葉醫專卒業)	伊藤茂	香取飯高
東北帝大農科大學卒業	加藤浩	印旛八生	(大木改)	藤澤武雄	印旛成田
東北帝國大學農學部	藤崎源一郎	全遠山	醫學士	板倉誠	長生茂原
畜産教室助手	所晃一	香取多古	栗林商船株式會社在勤(小樽高商卒業)	木村亮都	印旛遠山
小學校教師	石井與四郎	印旛成田	小學校教師	小川團次	印旛安食
小學校教師			栃木縣立栃木中學校教諭		
			(東洋大學卒業)		

私立成田中學校一覽

實業	湯淺健一	印旛八生	實業	伊藤保次	印旛成田
醫師(日本醫專卒業)	戸村達郎	山武二川	實業	紺谷旭	全遠山
佐原川崎銀行在職	藤崎穰	印旛遠山	實業	小川吉之助	全成田
醫師(千葉醫專卒業)	本多傳	印旛遠山	實業	鈴木治郎	全公津
實業	内田信一	山武二川	實業	池田喜一	全富里
商船學校機關科卒業	柏原富吉	印旛成田	實業	萩原賢治	全富里
高山房編輯部在職(國學院大學卒業)	石川富士雄	全成田	官業	宇賀近治	全白井
小學校教師	安達國一	埼玉大宮	實業	岩井平男	全大杜
實業	八角彌	山武千代田	實業	平山久一郎	全成田
實業	手島徹	全千代田	實業	飯高多一郎	香取大國
小學校教師	大竹茂	香取滑川	第十六回卒業生(三十六名) (大正六年三月)		
古河電氣工業會社在職	瀧澤榮一	印旛成田	千葉醫科大學附屬病院醫員	秋山寅雄	香取多古
(外國語學校支那語科卒業)	河野八郎	印旛八生	(千葉醫專卒業)	堀田彌太郎	印旛久住
都留中學校教諭(早稻田大學卒業)	秋葉一吉	山武蓮沼	實業	諸岡照保	全成田
醫學研究中	熊切儀一	夷隅古澤	東京蠶絲專門學校卒業	秋葉仲	全富里
(京都醫專專門學校卒業)	片野春吉	岐阜大垣	東京市吏員	齋藤陽一	全成田
千葉縣道路技手兼土木技手	齋藤七司	印旛公津	大日本赤十字社病院産婦人科醫局在職	深山浩一	全旭
實業	阿部良策	全豊住	(新潟醫專卒業)	長竹達三	全成田
小學校教師	伊藤功全	富里	鐵道省東部經理局員	鶴澤邦藏	千葉榎橋
醫學研究中(日本醫專卒業)	山内誠全	成田	實業(步兵少尉)	神山雅一	印旛成田
			明治生命保險株式會社在職		
			(早稻田大學卒業)		





私立成田中學校一覽

110

丸 善 衛 印旆公津  
 福田直四郎 東京本郷  
 飯泉隆二郎 印旆遠山  
 山内 貞 全 中郷  
 池田春之助 全 富里  
 伊藤 公平 全 八生  
 椎名 操 香取本郷  
 小川 太郎 印旆八生  
 大三川 弘之 香取多古  
 瀧澤 徳治 印旆成田  
 小倉 仁 全 成田  
 猪瀬 堯澄 全 布織  
 武藤 行敬 全 永治  
 山崎 信男 香取高岡  
 榎垣 省吾 印旆久住  
 四宮 操 全 富里  
 吉川 巖 全 中郷  
 神崎 俊之助 全 遠山  
 相原 理三郎 全 公津  
 石橋 進 印旆富里  
 伊藤 源石 全 中郷

第十九回卒業生(卅四名) (大正九年三月)  
 京成電氣會社在職(東京高工卒業)  
 新潟醫科大學助手(新潟醫專卒業)  
 東京帝國大學經濟科卒業  
 東京日本橋郵便局在勤  
 實業  
 少尉(海軍機關學校卒業)  
 醫師(新潟醫專卒業)  
 北海道札幌病院助手(千葉醫專卒業)  
 實業  
 帝國電燈會社在職  
 神職(法政大學卒業)  
 早稻田大學在學  
 實業  
 東京齒科醫專卒業  
 實業  
 齒科醫(東京齒科醫專卒業)

(甲田改)  
 福田 郁次郎 茨城金江  
 深山 陽 印旆 旭  
 若命 富郎 横濱吉田町  
 岩立 源一郎 香取滑川  
 高橋 勇雄 印旆公津  
 加藤 武夫 全 成田  
 山崎 一雄 全 永治  
 鈴木 藤吉 全 安食  
 木内 芳雄 全 成田  
 大野 龜之助 全 酒々井  
 宮崎 廣則 全 成田  
 藤崎 章 全 遠山  
 伊藤 豊 全 久住  
 小川 俊一 全 公津  
 竹村 秀壽 全 成田  
 下村 好一 全 八生  
 石井 權之尉 全 遠山  
 石井 庄平 全 酒々井  
 萩原 英一 全 成田  
 小倉 與市 全 遠山

早稻田大學卒業  
 早稻田大學卒業  
 實業  
 實業  
 明治大學卒業  
 日本齒科醫專在學  
 小學校教師  
 安田銀行支店在勤  
 神奈川縣藤澤時宗宗學林卒業  
 實業  
 實業  
 日本齒科醫專在學  
 實業  
 第二十回卒業生(卅六名) (大正十年三月)  
 東京高等工業學校卒業  
 東北帝國大學醫科在學  
 成田圖書館司書  
 (文部省圖書館講習所卒業)  
 東京商科大學專門部在學  
 慶應醫科大學在學  
 小學校教師  
 千葉 實乘 茨城五箇  
 林 稜二 印旆八生  
 平山 榮昌 香取多古  
 石井 美雄 印旆富里  
 山崎 守 全 木下  
 阿部 規矩治 全 豊住  
 竹村 利雄 全 富里  
 篠崎 忠男 全 遠山  
 大貫 平吉 神奈川縣藤澤名  
 磯山 儀一 印旆公津  
 寺内 五市 全 中郷  
 寺内 五市 全 中郷  
 寺内 五市 全 中郷  
 寺内 五市 全 中郷  
 藤崎 慶司 全 成田  
 飯田 榮亮 香取大須賀  
 萩原 良作 印旆豊住  
 原 義雄 全 富里  
 高田 定吉 全 成田  
 安達 一郎 全 遠山  
 齋藤 光治 全 成田  
 日暮 勝重 全 遠山

早稻田大學在學  
 海軍少尉  
 實業  
 僧侶(智山大學卒業)  
 實業  
 小學校教師  
 小學校教師  
 中央大學在學  
 小學校教師  
 小學校教師  
 千葉醫科大學附屬藥學科在學  
 小學校教師  
 實業  
 小學校教師  
 實業  
 實業  
 實業

鈴木 徐人 印旆大森  
 高野 照典 全 成田  
 大宮 竹雄 全 遠山  
 菅澤 英 香取高岡  
 松田 照應 印旆成田  
 内藤 榮 茨城會津  
 和田 英 全 酒々井  
 大貫 貞吉 全 安食  
 泉瑞 敏正 夷隅古澤  
 小倉 良太郎 印旆八生  
 椎名 永良 全 安食  
 小海川 昌則 全 久住  
 手島 英 山武市田  
 秋山 榮吉 印旆八生  
 齋藤 貞雄 全 公津  
 萩原 道三 海上銚子  
 後藤 慎平 印旆安食  
 山崎 信夫 全 遠山  
 磯山 宣 全 公津  
 福田 登 全 酒々井  
 藤崎 巖 全 遠山

私立成田中學校一覽

三二

實業 寺內 彌茂 印旛中郷  
實業 宇井 聖 全 成田

千葉縣廳庶務課勤務(慶應義塾卒業)

實業 石川 秀雄 全 成田

實業 丸 善兵 全 公津

實業 山倉 文雄 全 久住

實業 關川 雅司 全 成田

實業 小倉 桂 全 成田

實業 小川 勳 全 富里

實業 永山 敬榮 全 富里

實業 大島 仁 印旛成田

實業 根本 五郎 全 富里

實業 竹村 猛壽 全 成田

實業 石橋 廣吉 香取滑川

實業 羽方 章 全 成田

實業 平山 諱 全 成田

實業 關谷 重雄 全 公津

實業 淺井 義一 全 成田

實業 島村 治助 全 成田

實業 太田 家倚 印旛公津

實業 飯高 治夫 山武二川

實業 早稻田大學在學

實業 東京商船學校在學

實業 實業 實業

實業 實業 實業

實業 實業 實業

實業 實業 實業

第二十一回卒業生(卅八名)

(大正十一年三月)

(楓田改)

實業 山田 忍 印旛公津  
實業 加藤 北二郎 全 八生  
實業 伊能 春夫 山武二川  
實業 吉岡 順 印旛中郷  
實業 吉田 義法 安房田原  
實業 竹田 正吉 印旛成田

實業 早稻田大學在學  
實業 東京商船學校在學  
實業 實業 實業  
實業 明治大學卒業  
實業 小學校教師  
實業 弘前高等學校在學  
實業 日本火災保險會社在職  
實業 小學校教師  
實業 明治大學在學  
實業 小學校教師  
實業 無線電信講習所卒業  
實業 明治大學在學  
實業 小學校教師  
實業 樺太小學校校教師  
實業 明治大學在學

(八郎改)

實業 岩澤 丈夫 印旛遠山  
實業 藤崎 昇 全 和郷  
實業 野平 統一 全 中郷  
實業 岩澤 多門 全 遠山  
實業 小林 博 全 成田  
實業 高橋 清 全 成田  
實業 相川 己一郎 全 富里  
實業 關川 安正 全 成田  
實業 木内 正夫 全 成田  
實業 渡邊 三郎 全 成田  
實業 桑原 啓次郎 全 安食  
實業 伊藤 巖 全 富里  
實業 根本 克己 全 八生  
實業 本多 巳代治 全 遠山  
實業 諸岡 一次 全 成田  
實業 加藤 曉治 全 成田  
實業 藤崎 勘司 全 遠山  
實業 石木 晃 廣島縣竹仁  
實業 丸山 正臣 長野縣明盛  
實業 萩原喜知太郎 印旛豊住  
實業 湯淺 秀雄 全 八生

實業 朝鮮水原道高等農林學校在學  
實業 實業  
實業 小學校教師  
實業 小學校教師

第二十二回卒業生(卅八名)

(大正十二年三月)

實業 山田 忍 印旛公津  
實業 加藤 北二郎 全 八生  
實業 伊能 春夫 山武二川  
實業 吉岡 順 印旛中郷  
實業 吉田 義法 安房田原  
實業 竹田 正吉 印旛成田

實業 小學校教師  
實業 東京外國語學校在學  
實業 橫濱高等工業在學  
實業 小學校教師  
實業 安田銀行在職  
實業 中央大學在學  
實業 小學校教師  
實業 東洋大學在學  
實業 小學校教師

成田中學校教諭  
(國學院大學卒業)  
慶應義塾大學在學  
東京帝國大學在學  
靜岡高等學校在學  
慶應義塾大學在學  
小學校教師  
東京市役所在職  
南洋興業株式會社在職  
(大倉高等商業卒業)  
實業

(小川改)

實業 三門 健一 全 木下  
實業 小泉 國衛 全 成田  
實業 三橋 監物 全 成田  
實業 大塚 麟太郎 全 八生  
實業 大塚 謹三 全 成田  
實業 石井 傲男 山武千代田  
實業 山口 忠 印旛八生  
實業 大須賀 誠 全 安食  
實業 香取 忠裕 山武千代田

實業 小學校教師  
實業 東京商科醫專在學  
實業 日本大學高等師範科卒業  
實業 實業  
實業 日本大學在學

實業 香取 利雄 印旛久住  
實業 加藤 文一 全 成田  
實業 石橋 三郎 全 安食  
實業 多田 清 全 公津  
實業 長澤 博 全 布録  
實業 鈴木 三郎 全 公津  
實業 松崎 正重 全 八生  
實業 篠崎 操 全 遠山  
實業 平山 正夫 香取多古  
實業 新村 新助 山武二川  
實業 原 公 印旛富里  
實業 島 照康 東京市本所  
實業 青柳 信雄 印旛公津  
實業 篠原 幸次郎 全 成田  
實業 平山 祝 香取吉田  
實業 渡邊 泰亮 印旛成田  
實業 平山 幸一 香取多古  
實業 片岡 勇 印旛遠山  
實業 桑名 善雄 茨城縣野呂  
實業 小川 重雄 印旛中郷  
實業 石川 明 印旛遠山

私立成田中學校一覽

實業  
 通信省官吏  
 實業  
 實業  
 第二十三回卒業生(三十三名)(大正十三年三月)  
 三井銀行名古屋支店在職(明治大學卒業)  
 東京帝國大學法科在學  
 北海道大學農學部在學  
 日露協會學校在學  
 北海道大學工學部在學  
 小樽高等商業在學  
 神戸商船學校在學  
 小學校教師  
 海軍兵役  
 日本大學在學  
 東京鐵道局千葉運輸事務所在職  
 國學院大學卒業  
 千葉醫科大學藥學部在學  
 新勝寺事務員(東京主計學校卒業)

竹尾 隆 印旛 井  
 石渡 四郎 山武 南郷  
 石山 堯 山武 二川  
 鈴木 平 印旛 公津  
 藤崎 浦治 印旛 遠山  
 水野 岩雄 全 成田  
 牧野 佐次郎 全 成田  
 遠藤 與惣次 全 公津  
 加藤 韓三 全 八生  
 諏訪 原四郎 全 八生  
 渡邊 進一 全 成田  
 山内 康夫 全 成田  
 土屋 清 山武 二川  
 篠田 光治 茨城 金江津  
 神崎 謙三 印旛 遠山  
 岩内 貢 全 遠山  
 加藤 岡武 全 成田  
 谷上 勝太郎 全 成田  
 三橋 新一 全 成田  
 行方 喜一 山武 大總

實業  
 日本大學在學  
 中央大學在學  
 東京鐵道局千葉運輸事務所在職  
 川崎銀行佐原支店在職  
 南洋瓜哇島マラン市佐伯商會在職  
 福井縣高岡高等商業學校在學  
 實業  
 米澤高等工業在學  
 小學校教師  
 實業  
 實業  
 慶應義塾醫學部在學(第二高等學校卒業)  
 慶應義塾醫學部在學(四拾五名)  
 實業  
 小學校教師

三四

日本大學在學  
 早稻田大學在學  
 米澤高等工業學校在學  
 兵 役  
 東京商科醫專在學  
 東京高等師範學校在學  
 川崎銀行千葉支店在職  
 大阪高等學校在學  
 中央大學商科專門部在學  
 實業  
 小學校教師  
 第一高等學校在學  
 實業  
 實業  
 小學校教師  
 東洋大學在學  
 成田圖書館々員

伊藤 汎 山武 松尾  
 石川 仁一郎 印旛 成田  
 石川 豊 全 遠山  
 石田 亨 香取 高岡  
 石井 雅衛 印旛 富里  
 圓城寺 次郎 全 公津  
 林田 武雄 全 富里  
 林 清 風 全 遠山  
 大友 廣高 宮崎 仙臺  
 岡野 秋夫 印旛 安食  
 大木 丈夫 匝 須賀  
 渡邊 市左衛門 印旛 成田  
 金子 忠治 全 中郷  
 神崎 勉太郎 茨城 金江津  
 海保 芳郎 印旛 久住  
 海保 香苗 茨城 金江津  
 神崎 武夫 印旛 遠山  
 勝又 勝伊 香取 多古  
 海瀬 健爾 安房 稻都  
 高川 俊夫 印旛 成田  
 高安 愛之助 印旛 成田

日本商科醫學專門學校在學  
 朝鮮小學校教師  
 實業  
 實業  
 慶應義塾在學  
 明治大學商科在學  
 帝國電燈會社在職  
 東京商科大學在學  
 明治大學商科在學  
 實業  
 小學校教師  
 帝國電燈會社在職  
 實業  
 早稻田大學商科專門部在學  
 小學校教師  
 早稻田大學專門部在學  
 弘前高等學校在學

私立成田中學校一覽

三五

× 田中 純一郎 茨城 龍崎  
 中村 賢爾 印旛 白井  
 内海 門廣 全 八生  
 山本 愛 全 安食  
 山田 彌 全 安食  
 武士田 讓 全 成田  
 神戶 剛 全 成田  
 寺内 一 郎 全 成田  
 寺内 秀雄 全 成田  
 淺井 銳次 全 成田  
 淺井 隆 全 成田  
 相田 重義 埼玉 柏壁  
 秋山 鏡虎一 印旛 富里  
 秋山 寬 全 遠山  
 櫻井 泰 全 安食  
 木内 浩 全 成田  
 湯淺 栽樹 全 安食  
 宮内 喜夫 全 八生  
 清水 文治 山武 安都  
 新橋 重三 全 豊住  
 關川 安世 印旛 成田

私立成田中學校一覽

實業

第二拾五回卒業生(四拾四名) (大正拾五年三月)

清宮 博 印旛八生  
 石橋 浩 印旛安食  
 池田 芳洋 全 富里  
 磯部 貢 全 久住  
 石橋 與七 全 成田  
 石井 昌治 山武千代田  
 萩原 章 山武大里  
 大竹 清 香取本大須賀  
 大木 普市郎 印旛中郷  
 大木 得三 全 八生  
 大久保 貞治 全 安食  
 小川 茂 全 遠山  
 小川 忠雄 全 八生  
 小海川 重雄 全 久住  
 小川 進 全 豊住  
 大須賀 信乃 全 六合  
 海保 三千三 全 久住  
 川島 千秋 香取本大須賀  
 金澤 俊亮 茨城金沢  
 加藤 正則 印旛中郷

小學校教師  
 小學校教師  
 青山師範學校二部在學  
 小學校教師  
 日本醫學專門學校在學  
 明治大學在學  
 早稻田高等學院在學  
 官吏  
 小學校教師  
 川崎銀行佐原支店在職  
 小學校教師  
 東京高等師範臨時教員養成所  
 京都智山大學在學

塚本 克巳 香取滑河  
 鶴岡 大中 石川輪島  
 根本 菊次 印旛豊住  
 中村 一 山武睦岡  
 村山 信次 印旛公津  
 内田 正信 山武千代田  
 黒田 正信 香取多古  
 久保田 潔 印旛成田  
 山崎 博 香取高岡  
 山田 一雄 印旛八生  
 丸三 郎 全 公津  
 松本 重雄 君津久留里  
 福田 廣 印旛安食  
 藤崎 廣夫 全 遠山  
 藤崎 傳 全 遠山  
 佐久間 誠一 全 豊住  
 佐藤 智雄 香取大須賀  
 齋藤 仲次 印旛八生  
 吉祥 照芳 東京四谷  
 密島 和一 東京神田

早稻田高等學院在學  
 京都智山大學在學  
 實業  
 京都智山大學在學  
 青山學院高等學部在學  
 四年終了者  
 (水戸高等學校在學)

第二拾六回卒業生(四拾八名) (昭和二年三月)

平山 岩雄 香取多古  
 森谷 義正 山武東郷  
 諸岡 薫 印旛成田  
 鈴木 照澄 全 志津  
 諏訪原 貞夫 印旛成田  
 三橋 誠一 全 成田  
 石井 竹松 印旛遠山  
 石井 章 全 富里  
 今關 忠三 香取多古  
 伊藤 倉三 印旛遠山  
 伊井 與助 全 富里  
 石井 三郎 全 豊住  
 石橋 瑞穂 全 成田  
 幡谷 有吉 全 成田  
 萩原 治房 香取多古  
 萬來 親 印旛八街  
 大木 賢三 全 成田  
 小倉 敏夫 全 中郷  
 大野 正 全 豊住

實業  
 山梨高等工業學校在學  
 實業  
 明治大學在學  
 實業  
 鐵道從業員養成所  
 千葉師範二部在學  
 千葉師範二部在學  
 法政大學在學  
 臺灣高等學校在學  
 明治大學在學  
 實業  
 京都智山大學在學  
 京都智山大學在學  
 京都智山大學在學  
 千葉師範二部在學  
 慶應義塾文科在學  
 中央大學在學  
 小學校教師

(藤崎改)

小川 德英 山武千代田  
 大三川 正 印旛中郷  
 小川 政巳 全 中郷  
 渡邊 操 全 成田  
 渡邊 昇司 香取滑河  
 吉岡 一二 印旛中郷  
 吉岡 四郎 全 久住  
 吉岡 俊男 全 中郷  
 多田 實 全 公津  
 高橋 忠 全 成田  
 高橋 健吉 全 成田  
 高橋 重雄 全 成田  
 武田 利良 全 成田  
 武田 豊 全 八生  
 瀧澤 利一 全 成田  
 村田 榮量 安房豊房  
 上野 頼榮 山武野野  
 鶴澤 廣吉 印旛公津  
 葛生 幸常 全 安食  
 郡司 辰二 香取日吉  
 山室 勝身 山武千代田

私立成田中學校一覽

實業 實業 實業  
千葉業範二部在學  
東洋大學在學  
日本商科醫學專門學校在學  
中央大學在學  
小學校教師

山崎 巖 香取飯塚  
福田 茂重郎 群馬日野  
後藤 愛 印旛八生  
後藤 重司 全安食  
菅田 菊治郎 全成田  
秋山 禎康 全中郷  
南山 正 全中郷  
南井 重 全成田  
實川 賢雄 全成田  
清水 定雄 香取多古  
平野 新藏 香取神崎  
泉水 淳 全公津  
清宮 清介 全八生  
鈴木 善照 全中郷

卒業生及生徒別郡表

(昭和二年四月現在)

卒業生	計	一學年		二學年		三學年		四學年		五學年	區別郡別
		乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組	乙組	甲組		
		二四	三	三	三	三	三	三	三		
三六	三〇	三	三	三	三	三	三	三	三	六	香取
三三	二二	二	三			一	一	二	一	二	山武
三三	二										千葉
三四											市原
三二	一									一	東葛飾
三三	四					一	一			二	匝瑛
三一											海上
三五	一		一								長生
三五											夷隅
三五	二										君津
三七	一										安房
六八	三三		一								他府縣
七四	七〇										計

年 度	俸 給	雜 給	需用費	雜 費	賞 與	營繕費	手當金	豫備金	合 計
大正十五年度決算	二四四三,〇〇〇	二二八,〇〇〇	六三三,一九〇	一三六,一七〇	三三七,一〇〇	二四六,〇〇〇	—	—	三,三七〇,六六〇
昭和二年度豫算	二四七〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	一七九,〇〇〇	三三八,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	—	五〇〇,〇〇〇	三,四一七,〇〇〇

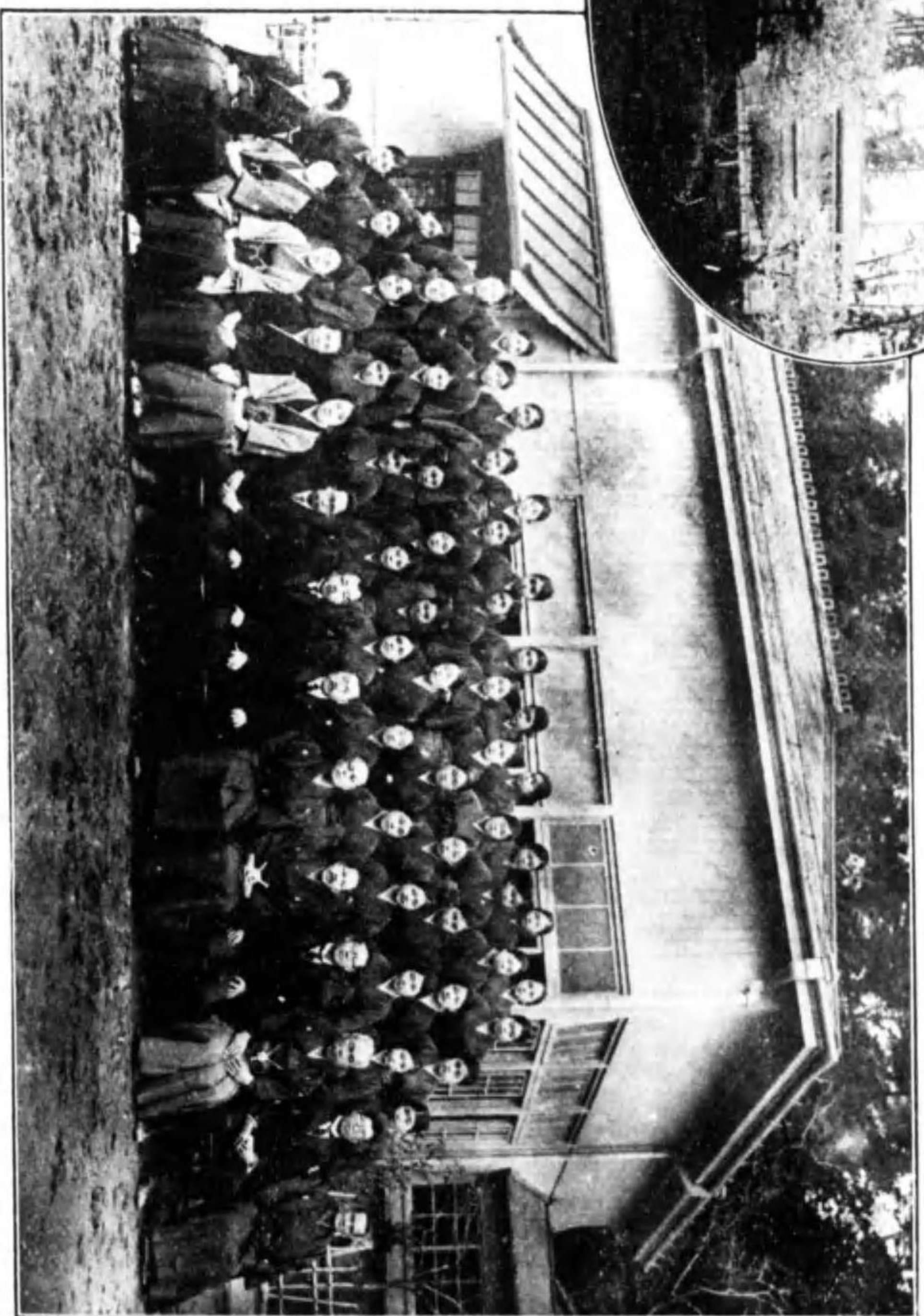
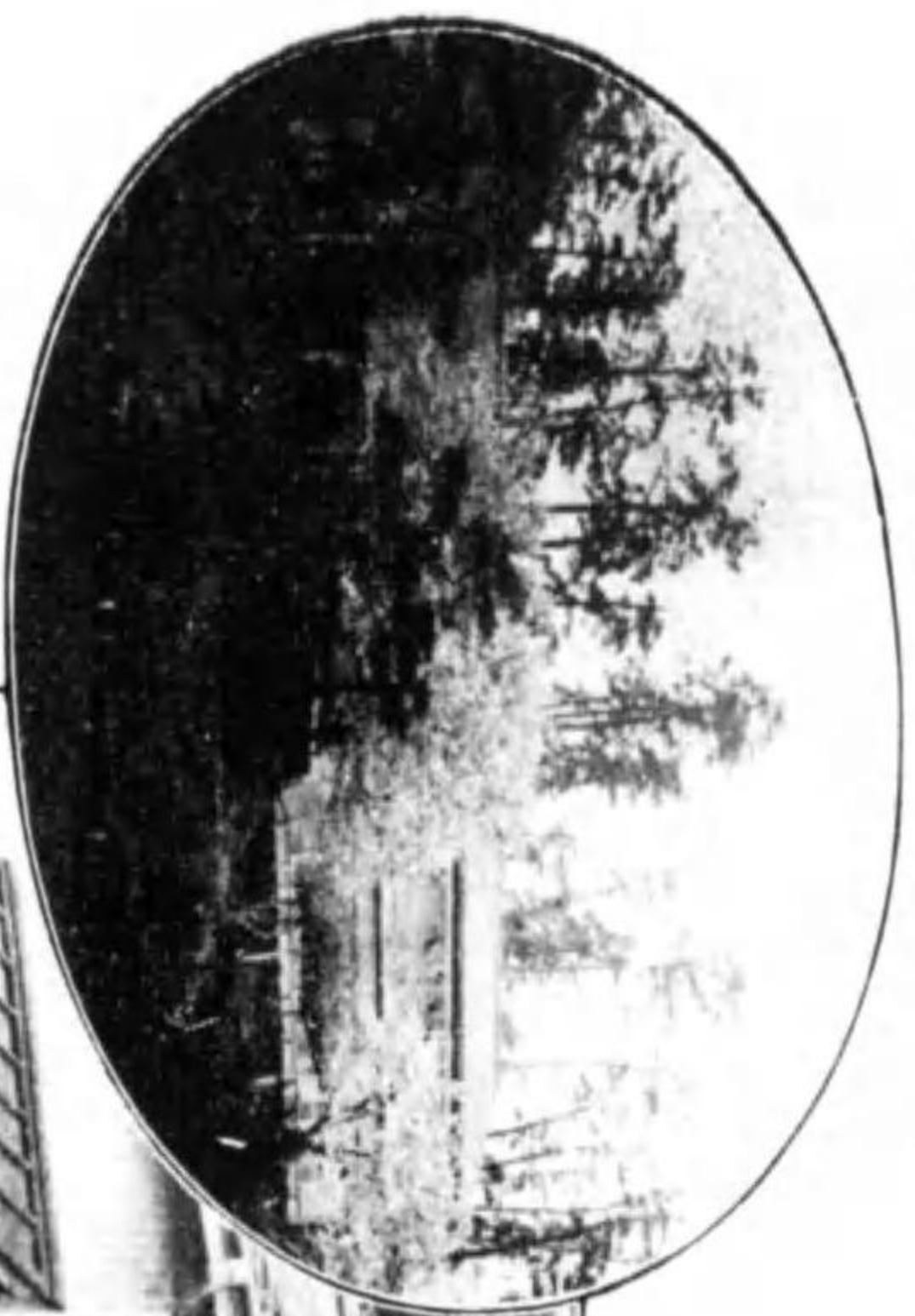
# 成田高等女學校一覽

學 曆	四一
教育方針及施設概要	四一
沿革略	四一
大正十五昭和元年度重要記事	四二
學 則	四三
職員表	四六
成田山女學校卒業生人名	四七
卒業生人名及現況	四七
經費統計概表	六一

露光量違いの為重複撮影

昭 和 二 年 度	
學 曆	
第一學期 自四月一日至八月三十一日	十六日 第一學期授業終
第二學期 自九月一日至十二月三十一日	廿日 成績發表、終業式
第三學期 自一月一日至三月三十一日	九日 始業式
每月 第二第四土曜日大掃除	一月 新年祝賀式
四月	一日 始業式
五日 始業式、入學式、新入生父兄會	中旬 教授豫定記入
六日 午前八時十分始業	下旬 四學年志望調査
中旬 教授豫定記入	十月
下旬 身體検査	中旬 校友會學藝部會
五月	十一月
中旬 修學旅行四、三、二學年	三日 遠足
廿七日 海軍記念日	上旬 縣下中等學校女子競技會
六月	十二月
廿日 第二學期授業終	廿四日 成績發表終業式
廿四日 成績發表終業式	同 校友會雜誌原稿募集
同 校友會雜誌原稿募集	廿五日 大正天皇祭
七月	一月
	九日 始業式
	中旬 教授豫定記入
	中旬 來學年度教科書選定
	二月
	十一日 紀元節祝賀式
	十三日 創立記念祝賀式
	同日 校友會學藝部會
	三月
	十日 陸軍記念日
	十二日 第三學期授業終
	十五日 成績發表、終業式
	十八日 證書授與式
	未定 入學試驗及入學試驗成績發表表

校 學 女 等 高 田 成



生 業 卒 回 六 十 第 及 員 職 教

昭和二年

學 曆

第一學期	自四月一日至八月三十一日	十六日	第一學期授業終	一月	一日	新年祝賀式
第二學期	自九月一日至十二月三十一日	廿日	成績發表、終業式	九月	九日	始業式
第三學期	自一月一日至三月三十一日				中旬	教授豫定記入
每月	第二、四、土曜日大掃除				中旬	來學年度教科書選定
四月	五日	始業式、入學式、新人生父兄會		一月	十一日	紀元節祝賀式
六月	六日	午前八時十分始業		十一月	十三日	創立記念祝賀式
中旬	旬	教授豫定記入		十二月	同日	校友會學藝部會
下旬	旬	身體検査				
五月	三日	遊足		十二月	十日	陸軍記念日
中旬	旬	修學旅行四、三、二學年			十二日	第三學期授業終
廿七日	廿七日	海軍記念日		十二月	十五日	成績發表、終業式
六月	廿日	第二學期授業終		十二月	十八日	證書授與式
	廿四日	成績發表終業式		十二月	未定	入學試驗及入學試驗成績發表
七月	廿五日	校友會雜誌原稿募集				
		大正天皇祭				

校學女等高田成



生業卒回六十第及員職教



れの上  
きがつ  
のらき

成田高等女学校々歌

はみ  
つり  
にきん

# 成田高等女學校々歌

笹川臨風作曲  
山田耕作作曲

曉の榮ある光

永の夜の闇を破る

眠より覺めし乙女ら

なれの世ぞ今日の前に

美しき望は滿てり

學びの窓は樂しき園生

幸ある前途いざことほかん

さきがけし色匂やかに

清き香は四方に漂ふ

學びの窓は……

幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに

御堂より森へと響く

怠るな勤めはけめと

我等をば教へ導く

澄み渡る心耳に冴えて

學びの窓は……

幸ある前途……

リ  
フ  
1.  
2.  
3. [ま び の まど は た の し ゃ そ の ー ム さ  
T  
mf

ら ら ら い - て い り こ と う が ん  
f  
sempre  
mezzo-forte

ら は ひ り と き の し を と め ら な れ の よ  
ノ ク ヌ ユ キ シ ヌ レ ノ ら ハ ツ タ カ ガ  
U U U  
お こ たら な つ と め は げ の と り ら を

ぞ い と の ま へ に う つ - く ら の ゑ み は ん  
と ら ち ゃ ら ち ゃ ら ち ゃ ら  
は ら し は ら び ぐ ら - ち ゃ ら こ ち ゃ ら ち ゃ ら



贈 寄 生 業 卒 回 三 十 第

成田高等女學校校歌

笹川臨風作歌

山田耕作作曲

Musical score for the first system of the school song. It features a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The lyrics are: 朝の空に水の花の園に花の影を風に吹かれ散らばる

Musical score for the second system of the school song. It features a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The lyrics are: 花の影を風に吹かれ散らばる

傳音にかがやかに。  
 また編むらく力強く。(M.M.J-76)

Koeçak Yamada

Soprano  
 1. あつきのほろあはれと はのよのやみを  
 2. ナリタチノカノヘニ 干枝五百枝ヨリ枝

Alto  
 3. のねはあつちやまに ちたりのりへと

Piano-Porte  
 mf

Musical score for the second system of 'Koeçak Yamada'. It features a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The lyrics are: どのよのよにいつくしあつちやまに

Musical score for the third system of 'Koeçak Yamada'. It features a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The lyrics are: さあゆいていざことほ

## 私立成田高等女學校一覽

### ◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すと雖も確實に高等女學校令に準據し、絶対に宗教的布教宣傳の機關に供せず。専ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し。學業を勵み、淑徳を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山五事業の精神に鑑み質實勤儉を旨とし、他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を軽減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり。獎學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として挿花、茶の湯、按摩を課し。音樂科にもオルガン、數基の外、ピアノ、二基を備へ、生徒に指導練習せしめ。一昨年三月には校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに勉む。

大正十四年度よりは更に校服を制定し、尙ほ體操科に難刀を加へ、第四學年課外に、救急療法を課し千葉醫科大學に講師を

(昭和貳年四月現在)

委屬せり。

### ◎沿革 畧

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山五事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫首石川僧正の慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を輔佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大略左の如し

- 一 明治四十四年三月廿一日本校々則を制定す
- 一同 四月一日成田中學校教諭中島喜一(高等師範)校務主  
監兼教諭に任せらる。
- 一同 四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入  
試験を行ふ。
- 一同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四  
學年以下の各學年に分編し、同日始業式を行ふ。
- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席

- 一 明治四十四年十二月増築に着手せし雨中體操場、理科教室及普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
- 一 大正二年三月第二回卒業生出づ
- 一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一 同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一 大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一 同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一 同 十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正七年第七回卒業生を出せり
- 一 大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一 大正八年十月中村校務主監死去
- 一 大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
- 一 大正九年三月第九回卒業生を出し
- 一 大正十年三月第十回卒業生を出せり
- 一 大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
- 一 大正十二年三月第十二回卒業生を出す
- 一 大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命

- 一 大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
- 一 大正十三年二月成田山貫首荒木僧正校長の認可を受く
- 一 大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
- 一 大正十三年三月第十三回卒業生を出す
- 一 大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正十四年三月第十四回卒業生を出す
- 一 大正十四年三月笹川文學士校長辭任
- 一 大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
- 一 大正十四年四月校務主監佐藤國二校長に任ぜらる
- 一 大正十四年七月理事小野寺精三郎死去
- 一 大正十五年三月第十五回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月第十六回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
- 一 昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隠退す

大正十五年重要記事

昭和元年度重要記事

四月七日 入學式、始業式、及白鳥、櫻井兩教師の新任式舉行

- 四月六日 石井教師の告別式舉行
- 四月廿六日 渡貫教諭の告別式舉行
- 四月三十日 身体検査施行
- 五月二日 同窓會開催
- 五月三日 小川教師の新任式
- 五月九日 四學年關西方面に修學旅行
- 五月十三日 二學年は日光に三學年は箱根に修學旅行
- 六月九日 校長會議に佐藤校長千葉に出張
- 六月十日 李王殿下の哀悼式舉行
- 六月廿五日 地久節祝賀式舉行後運動部會開催
- 七月廿日 淺井教諭の告別式
- 九月一日 大橋教諭の新任式
- 九月十一日 北海道視察報告のため佐藤校長東金に出張
- 九月十七日 競技大會參加選手の身体検査施行
- 十月三日 縣下女子中等學校競技大會の爲め一同千葉高等女學校に出場
- 十月廿二日 長慶天皇親告祭祝賀式舉行
- 十月三十一日 天長節祝賀式舉行
- 十一月六日 パザール開催
- 十二月十一日 陛下の御平癒祈願式舉行
- 十二月二十九日 奉悼式舉行

- 二月七日 大正天皇御大葬遙拜式舉行
- 二月廿日 校主歸山歡迎
- 二月廿八日 四學年多摩御陵參拜
- 三月三日 校長會議に佐藤校長千葉に出張
- 三月十八日 第十六回卒業式舉行
- 三月廿二日 入學試験施行五十名に對し入學を許可す

◎學 則

第一章 總 則

- 第一條 本校の修業年限は本科四箇年とす
- 第二條 生徒定員は二百人とす
- 第三條 休業日左の如し
  - 一、祝日、大祭日
  - 二、日曜日
  - 三、皇后陛下御誕辰
  - 四、記念日、二月十三日
  - 五、夏季休業七月廿一日より八月卅一日に至る
  - 六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る
- 第一章 學科課程教授時數
- 第四條 本校の學科目に編物袋物插花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす

第五條 學科課程及び教授時数は左の如し

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	人倫道德ノ要旨、作法	同上	同上	法制大意
國語	講義、習字	同上	讀方、譯解、書	漢文、講義、作文
英語	讀方、譯解	同上	讀方、譯解、書	同上
歴史	本邦、歴史	外國、地理	外國、歴史	地理、通論
地理	本邦、地理	外國、地理	外國、歴史	地理、通論
數學	算術、小數、諸等數、珠算	約數、倍數、分數、比例、代數、初歩	比例、歩合、代數、初歩、珠算	開平、幾何、初歩、珠算
理科	植物、動物	前學年ノ讀、生理衛生、礦物	化學、物理	同上
圖畫	自在畫	同上、幾何畫	同上	同上
家事			三衣、食住	家政、看病、育兒等
裁縫	縫方、裁方	同上、繕方	同上	同上
音樂	單音、唱歌	同上	複音、唱歌	同上
體操	普通、體操	同上	同上	同上
教育			同上	大要論ノ
計三				
袋物	編物	同上	袋物	同上
茶湯	同上	同上	同上	同上

按摩

四四 (一) 按 摩 (一) 同 上

備考 編物袋物茶湯按摩ハ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章 入學及退學

- 第六條 生徒募集は學校長期H學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし
- 第七條 入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし
- 第八條 第一學年入學志願者に就きては試験によりて其力を檢定す
- 第九條 前條の試験は國語算術に就き尋常小學校卒業程度に依り之を行ふ
- 第十條 第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力試験に合格したるものたるべし
- 第十一條 入學を許可せられたる者は在學證書に戶籍謄本を添へて差出すべし
- 第十二條 (在學證書は別に印刷しあるを以て省略す) 保證人は親權者若しくは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし
- 第十三條 保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるときは一里以内に在所を有し一家計を立つるものを以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に届

出つべし

- 第十四條 學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし
- 第十五條 保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に届出づべし
- 第十六條 生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出つべし
- 第十七條 生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難きときは期間を定め休學を願出づることを得ず但し期間は一ヶ年を超ゆることを得ず
- 第四章 修了及卒業
- 第十八條 各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の成績を考查して定め又は平素の學業及試験の成績を考查して之を定むべし
- 第十九條 卒業證書及修業證書は所定の形式に依る
- 第五章 授業料及入學料
- 第二十條 授業料は月額金二圓とし毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したるときは其當日之を納むべし但毎年八月は之を徴收せず
- 第二十一條 入學料は金一圓とし入學許可の際之を徴收す

第六章 賞 罰

私立成田高等女學校一覽

- 第二十二條 品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若しくは賞品褒狀を與ふ
- 第二十三條 學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず
  - 一、 性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
  - 二、 成業の見込なしと認めたる者
  - 三、 出席常ならざる者
- 第二十四條 規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す
- 第七章 寄宿舎及生徒取締
- 第二十五條 生徒は自宅より通學する者及び學校長の許可を受けたる者の外總て學校の指定する場所に寄宿せしむ
- 第二十六條 寄宿は自治炊制とし舎生をして輪番に之を處理せしむ
- 第二十七條 生徒取締に關する規程は學校長之を定む
- 第八章 附 則
- 第二十八條 本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
修身、國語、歴史	校長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
化學、博物、地理、歴史、薙刀	顧問	笹川種二	東京府	大正十三年五月
數學、物理	文藝	佐藤國香	新潟縣	大正十四年五月
英語、歴史	校長兼教諭	島田正三	高知縣	大正十四年四月
國語、習字	教諭	小川源三	滋賀縣	大正十五年四月
教育、作法、家事、地理、國語	教諭	武村愛仙	京都府	大正十五年四月
裁縫	教諭	青木三井	鳥取縣	大正十五年四月
體操	教諭	大白鳥光	千葉縣	昭和二年四月
裁縫	教諭	大木倉	千葉縣	大正十四年四月
音樂	教諭	山内春枝	東京府	大正九年十一月
插花	同	古川ソノ	新潟縣	大正十三年六月
按摩	同	櫻井文吉	千葉縣	大正十四年三月
	同	酒井泰作	千葉縣	大正十四年四月
	同	伊藤總平	千葉縣	明治四十四年四月
	同	山内平治郎	千葉縣	明治四十四年四月

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月)

(○は結婚の印)

姓名	原籍	就職年月
藤崎好	千葉縣	大正十三年二月
伊藤みき	千葉縣	大正十三年五月
石原も	千葉縣	大正十三年五月
幡谷り	千葉縣	大正十三年五月
長谷川さ	千葉縣	大正十三年五月
長谷川ひ	千葉縣	大正十三年五月
戸塚と	千葉縣	大正十三年五月
小川垣	千葉縣	大正十三年五月
小田と	千葉縣	大正十三年五月
吉田あ	千葉縣	大正十三年五月
田中あ	千葉縣	大正十三年五月
杉山い	千葉縣	大正十三年五月
藤崎好	千葉縣	大正十三年五月
伊藤みき	千葉縣	大正十三年五月
石原も	千葉縣	大正十三年五月
幡谷り	千葉縣	大正十三年五月
長谷川さ	千葉縣	大正十三年五月
長谷川ひ	千葉縣	大正十三年五月
戸塚と	千葉縣	大正十三年五月
小川垣	千葉縣	大正十三年五月
小田と	千葉縣	大正十三年五月
吉田あ	千葉縣	大正十三年五月
田中あ	千葉縣	大正十三年五月
杉山い	千葉縣	大正十三年五月

◎卒業生人名現況表

(いろは順)

(○は結婚の印×死亡の印)

姓名	原籍	就職年月
藤崎好	千葉縣	大正十三年五月
伊藤みき	千葉縣	大正十三年五月
石原も	千葉縣	大正十三年五月
幡谷り	千葉縣	大正十三年五月
長谷川さ	千葉縣	大正十三年五月
長谷川ひ	千葉縣	大正十三年五月
戸塚と	千葉縣	大正十三年五月
小川垣	千葉縣	大正十三年五月
小田と	千葉縣	大正十三年五月
吉田あ	千葉縣	大正十三年五月
田中あ	千葉縣	大正十三年五月
杉山い	千葉縣	大正十三年五月

私立成田高等女學校一覽

四七

第二回卒業生 (大正二年三月) (二二)

松戸高等女學校教諭

小學校教員

小學校教員

- (丸改)。香取てい 全 公津
- 。山野か代 全 成田
- (木内改)。生田欣 印 成田
- ×木内けい 全 成田
- 三橋たい 全 中郷
- (池田改)。勝田ゆき 印 成田
- 池田みち 全 成田
- 。石原静 全 成田
- (林改)。川村くに 全 八生
- (渡邊改)。林清喜 安房 湊
- (加藤改)。竹村きん 印 成田
- (田中改)。横山菊子 全 成田
- 。竹村きく 全 富里
- (中島改)。齋藤朝 君津 青堀
- (大友改)。石井光子 宮城 仙臺
- (小林改)。武津キン 東京 牛込
- (秋葉改)。土屋ふて 山武 城東
- (伊藤改)。澤田ひさ 印 成田

第三回卒業生 (大正三年三月) (二一)

小學校教員

東京和洋裁縫學校卒業

小學校教員

- 。飯泉しけ 印 成田
- 。石原ひろ 全 成田
- (林改)。谷田部ゆき 全 成田
- (幡谷改)。師岡幸 印 成田
- (土井改)。永塚わか 全 桒原
- 。加藤あい 全 成田
- (吉岡改)。鈴木てい 全 公津
- (吉岡改)。鈴木とし 全 公津
- (谷平改)。平山かね 全 久住
- (露崎改)。荒木キク子 長生 五郷
- (成田改)。綿貫きよ 印 成田
- (武藤改)。渡邊さだ 全 永治
- (大島改)。石橋のぶ 全 八生
- 。大須賀ゆう 全 安食
- (桑原改)。加藤くに 全 安食
- (山下改)。藤崎たか 全 成田
- (藤崎改)。茂木包 全 富里
- 。佐竹和歌子 東京 下谷
- (宮崎改)。土屋けい 印 成田
- (鹽田改)×。北村菊代 全 布織

第四回卒業生 (大正四年三月) (二八)

小學校教員

戸板裁縫女學校卒業

小學校教員

- (岩井改)。大木美津 印 成田
- ×。土井わか 全 公津
- ×。藤くみ 全 公津
- (綿貫改)。青柳うめ 茨城 取手
- (加藤改)。安田もと 印 成田
- 。神戸もと 全 成田
- ×川島フサ 全 富里
- 。竹村しけ 全 富里
- 。根本菊 千葉 椎名
- (並木改)。打木すづ 印 成田
- 。武藤きみ 茨城 文
- (猪野改)。松戸その 山武 源
- (平山改)。伊藤ゑい 印 成田
- 。大竹たい 香取 小門
- (大木改)。鈴木あやめ 印 成田
- (黒川改)。行方りき 全 成田
- (桑原改)。岩井なみ 全 安食
- 。山野いく 全 成田
- (山田改)。土井満喜 全 安食

小學校教員

東京高等師範學校保育科卒業

第五回卒業生 (大正五年三月) (二六)

小學校教員

小學校教員

- (山田改)。柴宮よし 全 八生
- (山田改)。齋藤わか 全 豊住
- 。増岡りき 埼玉 藤田
- 。秋山うめ 印 成田
- ×。天野眞知 夷隅 大妻
- ×。浅倉みつ 印 成田
- 。湯村とよ 宮城 仙臺
- (宮内改)。篠原みや 印 成田
- 。谷とく 全 公津
- (磯部改)。大野イタ 印 成田
- 。石原ゆう 全 成田
- 。飯倉きく 全 成田
- 。馬場ちよ 全 宗像
- (土井改)。佐羽内とし 全 六合
- 。小川敬 全 志津
- 。高橋きく 香取 滑河
- ×。上原こう 印 成田
- 。野平吉野 全 豊住
- (野平改)。横堀ゆき 全 豊住



私立成田高等女學校一覽

東京裁縫女學校卒業

(大三川改)。尾形本子 香取多古  
 (大木改)。廣澤てい 印旛成田  
 (奥澤改)。染谷春野 全 白井  
 (山内改)。土肥徳子 全 成田  
 山本くに 全 安食  
 京増たか 全 酒々井  
 相京くに 全 酒々井  
 (藤崎改)。小坂ひめ 全 酒々井  
 圓城寺てい 全 公津  
 齋藤こう 全 成田  
 湯淺うら 全 八生  
 三橋みち 全 富里  
 (三橋改)。東たか 全 成田  
 平野香根 市原高瀬  
 (關川改)。藤崎鳳 印旛成田  
 鈴木けい 東葛飾明

和洋裁縫女學校卒業

日本女子大學卒業

東京共立女子職業學校卒業

第六回卒業生 (大正六年三月) (二九)  
 ×岩館かね 印旛遠山  
 石原やす 全 成田  
 (小川改)。吉原晃 全 八生

戸板裁縫女學校卒業

萩原美子 全 千代田  
 渡貫はる 全 根津  
 (川口改)。森田コウ 全 佐倉  
 (川崎改)。齋藤よし 全 公津  
 吉岡豊子 全 木下  
 高川綾子 全 成田  
 (露崎改)。上原君子 長生五郷  
 (夏海改)。岩井千代 印旛遠山  
 大友らく 宮城仙臺  
 (武藤改)。井口ミヤ 印旛永治  
 ×大木道子 全 成田  
 ×大野千代 全 旭  
 (國本改)。佐久間とし 全 富里  
 (山本改)。鈴木せき 全 豊住  
 山本米 全 成田  
 山崎たけ 全 阿蘇  
 瀧澤よし 全 成田  
 東京女子高等師範學校保育科卒業 (淺井改)  
 相京ひな 全 公津  
 齋藤ヨシ 全 遠山  
 京須菊江 全 成田

佐倉大石裁縫女學校卒業

(宮川改)。水野しま 印旛成田  
 (篠田改)。寺口きよ 新潟源  
 廣瀬てい 印旛成田  
 諸岡米 全 成田  
 (須藤改)。五十嵐けよ 全 六合

女子醫學專門學校卒業  
千駄ヶ谷鐵道病院在勤

第七回卒業生 (大正七年三月) (二七)

日本女子大學卒業  
 (岩井改)。石野ふち 印旛本埜  
 (岩井改)。近藤こう 印旛大森  
 (石井改)。杉野えい 全 豊住  
 石川てい 全 成田  
 土井きく 千葉大和田  
 (土肥改)×。鈴木はな 全 印旛公津  
 土肥なつ 全 公津  
 神崎りん 全 遠山  
 加瀬千代 香取多古  
 大徳三枝 印旛久住  
 谷よし 全 公津  
 (玉村改)。三橋千代 茨城布川  
 山口ふじ 印旛成田

小學校教員

山田よし 印旛豊住  
 藤崎いし 全 遠山  
 小林とし 全 阿蘇  
 小坂てる 全 酒々井  
 高橋とき 全 安食  
 (後藤改)。石井はる 全 公津  
 (遠藤改)。蒔慶子 全 酒々井  
 (深山改)。押尾とく 全 六合  
 (宮内改)。丸きよ 全 八生  
 (宮内改)。石橋三千江 長生一  
 檜垣千代 印旛久住  
 ×關川利子 全 成田  
 諏訪原てる 全 八住  
 鈴木きよ 全 成田

第八回卒業生 (大正八年三月) (三一)

小學校教員

五十嵐ゆき 東葛飾布佐  
 石原つや 印旛西町  
 (石上改)。梶谷圭 海上瀧郷  
 (池田改)。北村喜代 福岡城内  
 長谷川よし 埼玉小林

小學校教員

○岡部雪子 三重浦田  
 ○伊藤はつ 印旛八生  
 ×小川喜美 東京淺草  
 ×小川きい 印旛八生  
 ×勝田ふみ 全安食  
 ○吉田勉 全公津  
 ○瀧澤喜久 全成田  
 ○高川種子 安房並原

東京共立女子職業學校卒業

○中村はる 印旛成田  
 ○加瀬清子 長野西島  
 ○上野なをゑ 東京麻布  
 ○大久保しげ 印旛本塾

女子美術學校卒業

小學校教員

○石橋さい 全成田  
 ○加藤みつ 全豊住  
 ○山田満壽 全安食  
 ○山内とわ 全成田  
 ○佐野泰子 全成田  
 ○小倉三代 千葉更科  
 ○福田とら 印旛成田  
 ○石岡いし 全成田

成田高等女學校教諭

(坂本改) ○伊藤はま 茨城文間  
 ○湯淺達 印旛八生  
 ○島田恵 全酒々井  
 ○日暮てい 全中郷  
 ○清宮いつ 全八生  
 ○本橋こう 全本塾  
 ○原郁 全成田  
 (關川改) ○岩館やす 印旛成田  
 ○石井やす 全酒々井  
 ○鶴岡タケ 全遠山  
 ○伊藤喜代 印旛里  
 ○伊藤てる 全成田  
 ○飯田敏子 茨城八原  
 ○菊地きよ 印旛富里  
 ○小出とみ 印旛公津  
 ○土井とし 全公津  
 ○大木とし 全成田  
 ○小川きよ 全公津

第九回卒業生 (大正九年三月) (三一)

女子醫學專門學校卒業

千葉縣醫

東京女子高等師範學校卒業

京華女學校教諭

群馬縣太田高等女學校教諭

和洋裁縫女學校卒業

(小川改) ×小川かく 印旛公津  
 ○山田静 全八生  
 ○香取操 全船穂  
 ○川上きく 全白井  
 ○谷川はな 全酒々井  
 ○竹村きみ 全富里  
 ○根本テル 全豊

小學校教員

小學校教員

○仲山千代 全公津  
 ○宇井幾久子 全成田  
 ○山田喜代 全八生  
 ○山本あう 山武日向  
 ○山内貞子 印旛成田  
 ○山本しけ 全和田  
 ○福田光子 全酒々井  
 ○伊藤せい 全白井  
 ○寺内三枝 全成田  
 ○坂田コウ 全富里  
 ○宮島頼子 全大森  
 ○高知衣 全川上  
 ○杉田はな 全安食

小學校教員  
東京津田英學塾卒業  
大阪府立原尾高女教諭

第十回卒業生 (大正十年三月) (二六)

小學校教員

東京共立女子職業學校卒業

東京裁縫女學校卒業

東京女子高等師範學校保育科卒業  
成田幼稚園保母

(石川改) ○吉田婦久 印旛成田  
 ○伊東とも 山武上堺  
 ○湯淺君代 印旛八生  
 ○尾崎サト 山武松尾  
 ○根本てい 印旛公津  
 ○小野寺千代子 全成田  
 ○高田よしえ 安房稻都  
 (海潮改) ○遠藤あい 印旛遠山  
 ○吉岡珠子 全木下  
 ○榎垣うめ 全公津  
 ○中山たつ 全成田  
 ○中越加津子 全成田  
 ○葛生かつ 全安食  
 ○山田布知 印旛八生  
 ○藤崎勢い 全八生  
 ○中野哲子 香取高岡  
 ○松田さだ 印旛成田  
 ○丸みち 全公津  
 ○古田改) ○湯淺千代 東葛布佐

小學校教員  
帝國女子專門學校卒業

女子醫學專門學校卒業

兒島 愛 茨城會津  
 後藤 たま 印旛安食  
 篠田 みつ 全 遠山  
 (遠藤改) 石井 ゆう 全 公津  
 (須藤改) 富井 静子 全 六合  
 鈴木 好枝 茨城布川  
 (鈴木改) 佐山 いく 印旛六合

第十一回卒業生 (大正十一年三月) (三八)

(石橋改) 伊藤 喜代 印旛成田  
 飯倉 ひさ 全 成田  
 × 秦野 とく 全 公津  
 堀 千代 東京大久保  
 堀内 三鶴 高知津呂  
 大木 みつ 印旛八生  
 加藤 くに 全 八生  
 神崎 やす 印旛遠山  
 × 川村 長子 全 成田  
 川島 まつ 全 酒々井  
 田中 はな 茨城龍崎  
 高橋 こと 印旛大森

小學校教員

成田高等女學校教諭  
 小學校教員

東京女子高等師範學校  
 專攻科卒業

東京女子職業學校在學  
 東京裁縫女學校卒業  
 長野縣篠井高女教諭

女子醫學專門學校卒業  
 千葉女子師範二部卒業

小學校教員

(山田改)

高川 興子 安房北三原  
 谷 すい 印旛公津  
 × 竹村 嘉代 全 富里  
 増淵 才 印旛安食  
 小倉 松 全 成田  
 黒田 くに 全 成田  
 山本 たか 全 安食  
 小倉 てい 全 八生  
 矢野 敬 愛媛久米  
 藤崎 シン 印旛遠山  
 藤崎 たい 全 遠山  
 藤崎 ふみ 全 遠山  
 小坂 とめ 全 酒々井  
 寺本 きみ 全 八生  
 齋藤 けい 市原八幡  
 × 齋藤 てい 印旛遠山  
 佐瀬 より 全 八生  
 神崎 はな 全 八生  
 宮崎 秀子 長生八積

(湯淺改)

東京女子美術學校卒業

(日暮改) 篠原 芳枝 印旛木下  
 西谷 トミ 全 中郷  
 泉 對ヒロ 千葉豊富

小學校教員

菅 壽美 匝瑛椿海  
 鈴木 とし 印旛成田  
 鈴木 錦 秋田本莊

第十二回卒業生 (大正十二年三月) (三九)

保 姆  
 伊藤 きわ 印旛中郷  
 岩井 きく 全 大森  
 井浦 多美 香取小島  
 石橋 なか 印旛成田  
 × 飯沼 つね 全 酒々井  
 石原 とみ 全 富里  
 林 八千代 全 八生  
 原 えい 全 佐倉  
 細川 喜與 全 遠山  
 土井 ゑい 全 公津  
 野平 きい 印旛公津  
 × 土井 よし 全 公津  
 岡田 はな 茨城龍崎

小學校教員

和洋裁縫速成科卒業

小學校教員

小學校教員

小學校教員

大澤 しけの 印旛本莊  
 大木 美代 全 八街  
 × 小野 寺シゲ 全 成田  
 小倉 茂子 全 成田  
 太田 鹿子 全 公津  
 勝田 俊 全 八生  
 海保 けい 茨城會津  
 吉橋 きん 印旛旭  
 椿 たき 香取滑川  
 並木 菊子 印旛遠山  
 鶴澤 喜代 山武藤沼  
 山本 くに 印旛八生  
 山木 佐多 全 和田  
 増田 温子 全 成田  
 京増 はる 全 酒々井  
 藤崎 まつ 全 安食  
 後藤 瑞子 全 八生  
 小池 よし 全 遠山  
 安達 靖子 印旛遠山  
 相京 いく 全 酒々井

小學校教員

京都同志社在學

第十三回卒業生 (大正十三年三月)(四七)

秋山ツヤ 印旛中郷  
 櫻井けい 香取小郷門  
 ×島田輝代 印旛酒々井  
 平野江榮 全八生  
 平山まさ 全成田  
 平山さつ 全成田  
 石川ふけ 印旛成田  
 岩田ま美 全布織  
 石原節 印旛安食  
 豊田登代 全成田  
 土井てい 全公津  
 及川ナカ 匝瑳榮  
 岡田けい 印旛本塾  
 大木まつ 全中郷  
 大久保ちか 全本塾  
 小川貞女 全八生  
 小川ふじ 全八生  
 綿貫綾子 全酒々井  
 片岡と勉 印旛成田

小學校教員  
 小學校教員  
 小學校教員

小學校教員

日本女子大學家政科在學

小學校教員

吉岡誠 印旛中郷  
 玉村ハナ 茨城布川  
 高槻洋子 福島本郷  
 高橋しのぶ 香取滑河  
 瀧澤喜代 印旛成田  
 中島さき 全安食  
 仲山勢い 全公津  
 野口とき 全豊住  
 山田かつ 全成田  
 山内總江 全成田  
 山口ひで 全八生  
 松田ふく 全成田  
 増田とき 香取加藤  
 藤原せつ 全小御門  
 船橋ツネ 印旛成田  
 紺谷満枝 全成田  
 小泉繁子 全成田  
 秋山みつ 全八生  
 青野むつ 香取高岡  
 相京タケ 印旛公津

女子職業學校卒業

東京女子大學在學  
和洋裁縫學校卒業

第十四回卒業生 (大正十四年三月)(四四)

實踐女學校專攻科在學

小學校教員

齋藤あい 印旛遠山  
 齋藤きよ 全酒々井  
 ×佐伯とみ 長生土睡  
 湯浅ゆう 印旛八生  
 湯浅つね 全八生  
 ×三橋孝子 全成田  
 宮川幾子 全酒々井  
 宮内はる 全八生  
 島田清 全酒々井  
 平山とし 香取多古  
 關川昭 印旛成田  
 鈴木トシ 全公津  
 鈴木つる 茨城布川  
 菅谷とし 全白鳥  
 ×石井かつ 印旛富里  
 岩館はる 全成田  
 飯田ちよ 茨城金井  
 伊藤みつ 印旛八生  
 石橋あき 全中郷

體操學校在學  
 女子藥學校在學  
 女子職業學校在學

小學校教員

小學校教員

實踐女學校專攻科在學  
小學校教員

(牧野改)

(古川改)

林バ子 印旛成田  
 長谷川のぶ 全成田  
 大澤敦 全八生  
 岡田喜美 埼玉與野  
 小倉治子 印旛成田  
 小倉まさ 全富里  
 大木ヤ井 印旛中郷  
 大木ゆき 全八生  
 小川春子 全八生  
 大竹かね 全富里  
 竹尾きよ 印旛和田  
 中野美津子 香取高岡  
 永田順子 印旛成田  
 野島律 全豊住  
 小林とし 全成田  
 丸よし 全公津  
 京須八重 全成田  
 藤崎けい 全遠山  
 藤倉しけ 全成田  
 文屋壽 全成田

櫻井女塾卒業

和洋裁縫學校卒業

小學校教員

小學校教員

第十五回卒業生 (大正十五年三月) (四五)

小林ハル 茨城金江  
 越川富美子 印旛木下  
 後藤てる 印旛八生  
 後藤歌 全 安食  
 遠藤ゆき 全 公津  
 手島せつ 全 遠山  
 秋山ふさ 全 八生  
 相川とく 全 公津  
 青柳のぶ 全 公津  
 齋藤きよ 全 公津  
 坂田信 全 富里  
 木内つね 全 酒々井  
 湯浅てい 全 八生  
 莊司つる 全 成田  
 諸岡ます 全 成田  
 諸岡以喜子 全 成田  
 關口しげ 全 久住  
 鈴木こと 全 富里  
 齋藤いと 全 木下

千葉高女補習科卒業  
 土岐裁縫女學校在學

和洋裁縫女學校卒業

土岐裁縫女學校在學

小學校教員

女子音樂學校在學

女子高等學園在學

女子師範二部卒業小學校教員

石橋たみ 印旛成田  
 石橋つたい 香取滑河  
 石橋とよ 印旛中郷  
 石原せつ 印旛富里  
 石川せつ 全 富里  
 伊藤千代 全 白井  
 池田頼子 山武千代田  
 今井春子 印旛成田  
 堀江智恵 全 成田  
 戸村千代 全 和田  
 小川つぎ 全 八生  
 小川みち 全 公津  
 小倉梅 全 成田  
 小野寺アイ 全 成田  
 小倉とり 全 成田  
 渡邊愛 全 成田  
 加藤きん 全 成田  
 勝田倭 全 安食  
 吉岡たか 全 北須賀  
 多田喜代 全 公津

女子師範専攻科在學

女高師保育科卒業  
小學校教員

茨城女子師範二部在學

日本女子大學校在學

女子高等學院在學

高橋さゆり 香取滑河  
 高橋さだ 茨城金江  
 野々宮みつ 印旛成田  
 葛生ちよ 全 久住  
 柳本喜恵子 印旛成田  
 山崎きく 全 豊住  
 淺井壽 全 成田  
 麻生菊枝 山武千代田  
 青木こう 印旛本塾  
 青山まつ 茨城金江  
 佐久間かつ 印旛成田  
 佐伯智恵子 全 成田  
 木村よし 香取多古  
 木下けい 印旛成田  
 龍崎しつ 全 遠山  
 湯浅公己 全 八生  
 湯浅みつ 全 八生  
 椎名静 全 大森  
 柴崎ゆき 全 大森  
 平山いち 全 成田

家政學院在學

第十六回卒業生 (昭和二年三月) (四六名)

女子美術學校在學

小學校教員

和洋裁縫女學校在學

女子高師保育科在學

女子職業學校在學

千葉高女家庭科在學

千葉高女家庭科在學

檜垣 額 印旛久住  
 森谷ミネ 全 成田  
 菅谷幾世 全 成田  
 鈴木とみ 全 成田  
 鈴木喜恵 全 船穂  
 石井イワ 印旛豊住  
 石原あや子 全 富里  
 岩澤利子 全 遠山  
 岩瀬かつ 全 成田  
 伊藤登美 全 永治  
 林田まさ 全 成田  
 豊田喜美 全 成田  
 大竹さと 全 富里  
 大久原節 全 成田  
 勝田よし 全 八生  
 梶谷ミツ 全 安食  
 吉岡 薫 香取滑河  
 高橋あゑ 印旛公津  
 高橋よね 全 成田  
 瀧澤由子 全 成田

私立成田高等女學校一覽

年 度	俸 給	備 給	手 當	賞 與	旅 費	需用費	管 轄 費	雜 費	準 備 費	合 計
昭和元年年度決算	111,041.00	100,000.00	2,000.00	112,141.00	7,191.00	3,078.85	2,600.71	3,868.00		265,118.56
大正十四年度決算	111,000.00	700,000.00	2,000.00	1,013,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00		2,024,000.00
大正十三年度決算	117,336.00	456,000.00	6,000.00	1,635,336.00	5,400.00	2,900.00	4,800.00	3,000.00		2,051,236.00
大正十二年度決算	97,600.00	456,000.00	6,000.00	1,065,600.00	2,700.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正十一年度決算	96,800.00	456,000.00	6,000.00	1,054,800.00	4,900.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正十年度決算	96,800.00	456,000.00	6,000.00	1,054,800.00	4,900.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正九年度決算	107,176.00	456,000.00	6,000.00	1,265,176.00	2,800.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正八年度決算	83,360.00	456,000.00	6,000.00	1,001,360.00	2,800.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正七年度決算	51,875.00	456,000.00	6,000.00	563,875.00	9,700.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正六年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正五年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正四年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正三年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正二年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正一年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91

◎經費統計概表

私立成田高等女學校一覽

年 度	俸 給	備 給	手 當	賞 與	旅 費	需用費	管 轄 費	雜 費	準 備 費	合 計
昭和元年年度決算	111,041.00	100,000.00	2,000.00	112,141.00	7,191.00	3,078.85	2,600.71	3,868.00		265,118.56
大正十四年度決算	111,000.00	700,000.00	2,000.00	1,013,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00		2,024,000.00
大正十三年度決算	117,336.00	456,000.00	6,000.00	1,635,336.00	5,400.00	2,900.00	4,800.00	3,000.00		2,051,236.00
大正十二年度決算	97,600.00	456,000.00	6,000.00	1,065,600.00	2,700.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正十一年度決算	96,800.00	456,000.00	6,000.00	1,054,800.00	4,900.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正十年度決算	96,800.00	456,000.00	6,000.00	1,054,800.00	4,900.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正九年度決算	107,176.00	456,000.00	6,000.00	1,265,176.00	2,800.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正八年度決算	83,360.00	456,000.00	6,000.00	1,001,360.00	2,800.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		1,586,166.82
大正七年度決算	51,875.00	456,000.00	6,000.00	563,875.00	9,700.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正六年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正五年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正四年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正三年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正二年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91
大正一年度決算	44,460.00	456,000.00	6,000.00	506,460.00	7,000.00	3,377.61	6,691.85	2,091.75		778,146.91

小學校教員  
和洋裁縫女學校正學  
補 習

大妻裁縫女學校在學

補 習  
土岐裁縫女學校在學

中島こう 印旛成田  
中野雪子 香取大福田  
桑原米 印旛豊住  
古矢春子 全成田  
藤倉さだ 全成田  
荻原あい 全豊住  
小倉みち 全八生  
小倉タケ子 全成田  
渡邊すま 全成田  
渡邊よし 全成田  
渡邊ゆき 全成田  
加藤淑 全八生  
片岡てる 香取多古  
片岡く 印旛遠山  
神崎榮 全遠山  
福田やす 茨城金江  
秋山テル 印旛中郷  
秋山る 全八生  
手島愛 全千代田  
寺内八重 全成田  
堺けい 全成田

千葉高女家庭科在學  
女子美術學校在學  
土岐裁縫女學校在學  
土岐裁縫女學校在學

坂田リウ 印旛富里  
齋藤よし 全公津  
齊藤なみ 全公津  
木内ふじ 香取多古  
湯淺とし 印旛八生  
水野愛子 全成田  
宮田節 全成田  
平山しづ 香取多古  
諸岡貞子 印旛成田  
諸岡琴子 全成田

# 成田幼稚園一覽

園歌	.....
沿革略	..... 六五
職員經費	..... 六六
入退園及年度末現員調	..... 六七
保育修了幼兒數	..... 六九
規則	..... 六九
保護者心得	..... 七一

兒園るけ於に園庭

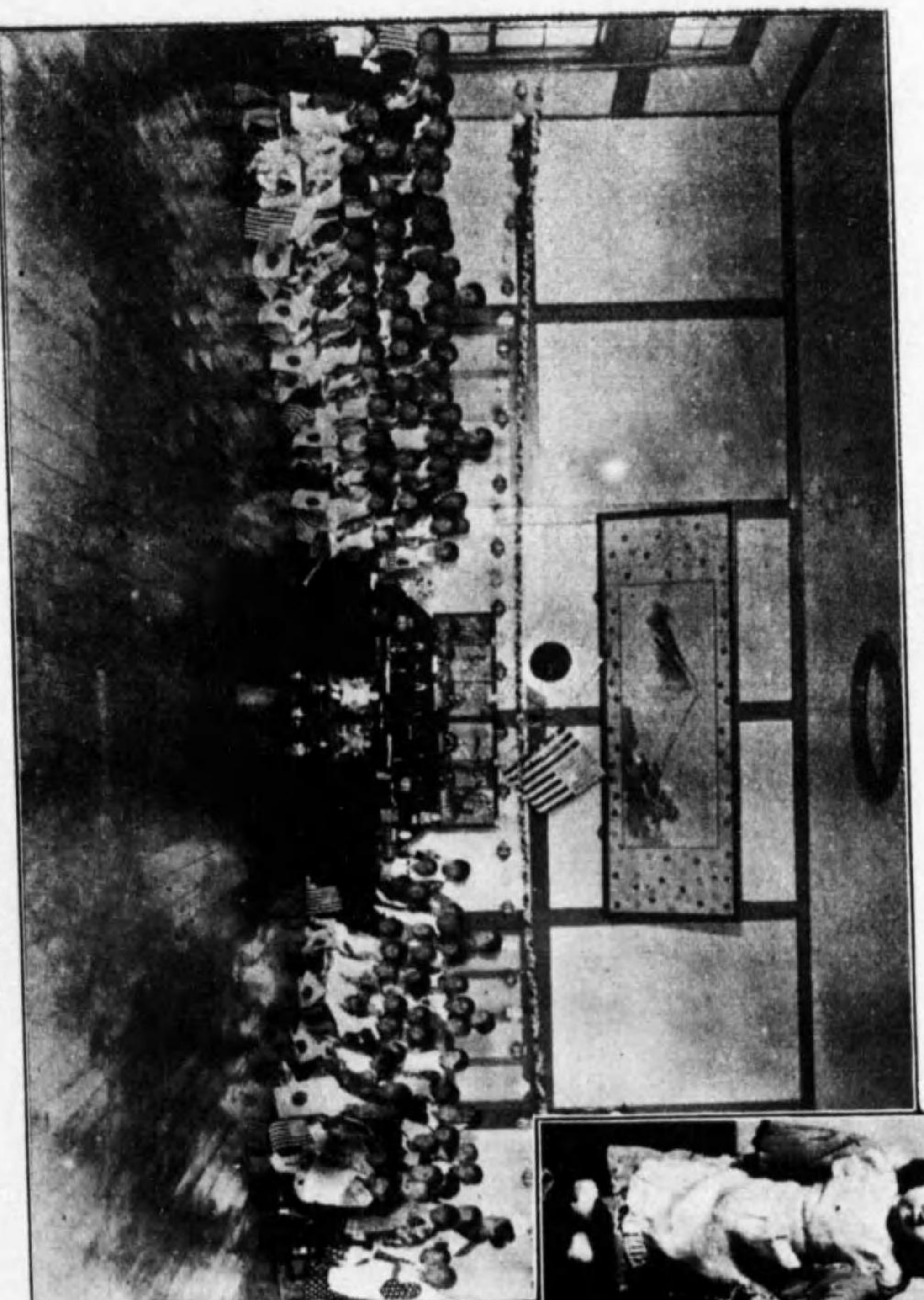


者了修育保回二十二第及員職





亞米利加人形と日本のお友達



亞米利加人形サービスの迎會

# 園歌

大和田 建樹氏作歌  
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあげ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

花にめくみの露しけし

我等も日々に集りて

雲雀こなりて謠はまし

その、恵の嬉しさを

御代の恵のたのしさを



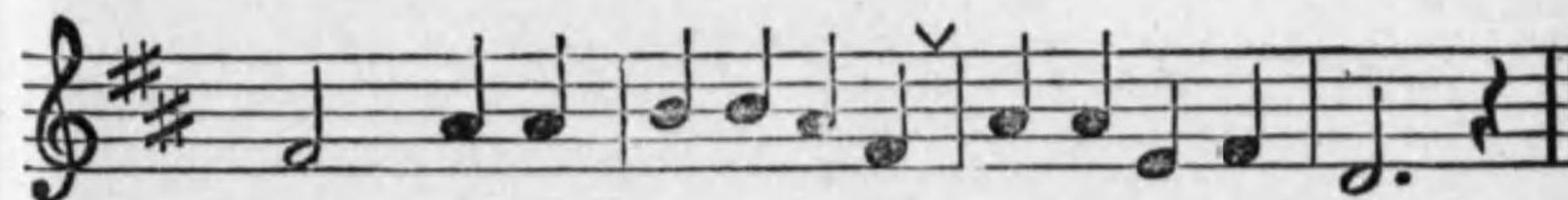
ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ  
われらも ひ びに あつまり て



ミワタス ナリタノ ヨーチェン  
ひばりと なーりて うたはまし



ソ ノニ オヒタツ ナデシコ ノ  
そ のの めぐみの うれしさを



ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ  
み よの めぐみの たのしさを

### 私立成田幼稚園一覽

(昭和二年四月現在)

#### ◎小 供 會

大正十五年十一月十九日幼児の保護者一同を招き小供會を開く此日唱歌、遊嬉、談話、各室に於ける自由講自由遊食事の模様等を保護者に示し談話を交へ折柄園内樹々の紅葉もいろ美しく午後二時樂しく會を終る。

#### ◎アメリカ寄贈人形歡迎會

米國にある世界兒童親善會と云ふ團體を代表して年寄も若い者も子供も大そう大よろこびで人形に思ひよりのきものをきせて先頃一萬個を日本へ送つて参りましたお人形さんを愈々日本へ送るときに諸所にお人形さんの送別會が行はれました其内から一個を園へ寄贈されましたので丁度五月のお節句に三月のお雛様や武者人形などを飾り幼児は皆其まわりに集まつて「海のあちらの友達のまことの心のこもつてる可愛い、可愛い、人形さんあなたをみんなで迎へます」と歡迎の歌をうたひ園児は皆手に手を取つて歌つたりお遊嬉したり日米兩國々旗をかざして一緒にお寫眞をとりましたお人形さんの名はホビーさんで百九十八號と云ふ特別旅行免狀を所持し寝衣までもつて参りました

眼をあけてママーと申しますほんとうに可愛い、ホビーさんでありますこれから幼稚園のお人形さんのお友達として永久に大切に致します。

#### ◎沿 革 略

本園は明治三十八年五月の創立にして保育を開始せしは其月の二十四日也而して開園式は六月一日町立成田尋常小學校内假園舎に於て舉行せり

假園舎の狹隘なるにも拘はらず幼児入園の申込は月毎に増加して行くの趨勢なるが故に園舎新築の必要を生じ同年の十月地を成田山の東南、向臺と稱する一區域をトし此所に工事に着手することと爲り而して翌三十九年六月三日園舎新築落成の式典を擧ぐる事を得たり

新築に關する工事費並に諸般の設備費は概算約一萬餘圓内二千圓は成田町よりの寄附にかゝり餘は悉く新勝寺に於て負擔支辨せり

園内の位置は成田町成田小字向臺と稱する所にして町の東南方に位し四方の眺望極めて佳く四季の風光亦大に推稱するに足る高燥なる地域也

園の總敷地は三千百八十九坪内遊園に屬するもの約二千六百坪花壇、砂場、築山、藤棚等を設け自餘は所々に樹木を植えて大に趣を添へたり而して園舎の總建坪は二百四十餘坪其内譯左の如し

- 一昇 降 口 一 十二坪
  - 一保 育 室 四 四十九坪五合
  - 一園 長 室 一 三坪
  - 一恩物室兼保母室 一 八坪
  - 一遊 戲 室 一 四十八坪
  - 一應 接 室 一 四坪
  - 一靜 養 室 一 四坪
  - 一廊 下、便 所 六十四坪五合
  - 一保 姆 住 宅 二 三十四坪
  - 一小使室等附屬建物 十七坪二合五勺
- 大略右の如くにして其構造上特色とも見るべきものなきも只主として幼兒の出入の便を計るが爲めに廣き昇降口を園舎の正面に置きて有觸たる支關構を設けず南面にして空氣の流通光線の射入等に意を注ぎ専ら保育上の便宜を旨とし又華美に渉るを避けて質實を旨としたり、而して全般に亘る工事の設計は斯道に名ある服部文部省技手之に當られたり。
- かくて園舎の新築落成と同時に幼兒保育の効果を完うせんが

- 一金壹萬四百七十一圓八十五錢 敷地買入及新築費、落成式費
- 一金參千五百八圓八十五錢 (自三十八年六月至四十年三月)
- 一金壹千八百八圓十七錢 (四十年 度)
- 一金壹千九百四十四圓四十錢 (四十一年 度)
- 一金壹千五百二十七圓三錢 (四十二年 度)
- 一金壹千七百二十五圓四十三錢 (四十三年 度)
- 一金壹千九百三十五圓七十錢 (四十四年 度)
- 一金壹千九百二圓九十五錢 (大正元年度)
- 一金貳千一百四十四圓十五錢 (大正二年度)
- 一金貳千三百四十一圓十五錢 (大正三年度)
- 一金參千一百四十六圓五十一錢 (大正四年度)
- 一金壹千九百九十一圓三十五錢 (大正五年度)
- 一金壹千九百五十四圓七十九錢 (大正六年度)
- 一金貳千四百五十九圓七十三錢 (大正七年度)
- 一金參千四百九十五圓九十七錢 (大正八年度)
- 一金參千六百九十五圓二十六錢 (大正九年度)
- 一金四千九百四十九圓九十錢 (大正十年度)
- 一金六千六百九十九圓九十八錢 (大正十一年 度)
- 一金五千一百五十一圓八十錢 (大正十二年 度)
- 一金五千六百五十八圓二十四錢 (大正十三年 度)

爲に家庭との連絡を計り屢次保育懇話會を開きて園兒の保護者を招集し或は不定期刊行の雜誌『撫子』を發刊して其連絡の機關とし聊か得る所ありき。

保育の事は保母専ら其の任に當り保育主任之を指導監督す其他全般の庶務等に至りては園長之を總攬し理事之が諮問の任に當る而して園長は園主之を兼ね理事は園主之を囑託す外に會計主任、園醫あり共に園主の任命する所たり。

園主兼園長は成田山貫首荒木僧正にして理事は石川甚兵衛、三橋重郎兵衛、關川博道の三人なりしが三橋理事病氣辭任のため新たに淺井儀助事務理事となり會計主任を兼ね關川理事は園醫を兼ね右の外現在職員は保育主任以下保母四名たり左の如し

職 名	族 籍	姓 名	就 職 年 月
保育主任	徳島縣士族	山口 政子	大正三年十月
保 姆	神奈川縣平民	若 命 幸 子	大正十年三月
保 姆	千葉縣平民	瀧 澤 幸 子	大正七年十一月
保 姆	千葉縣平民	高 田 幸 子	大正十年五月
保 姆	千葉縣平民	那 須 幸 子	大正十五年十月

本園の新築費及經費は左の如くにして保育料以外は凡て新勝寺の負擔支出する所のもの也。而して保育料として一ヶ月一人金一圓二人以上半減とす

- 一金五千三百九十八圓八十九錢 (大正十四年度)
- 一金五千八百三十二圓九錢 (昭和元年度)
- 合計金七萬九千六百六圓十九錢
- 最近三箇年經費平均額 金五千六百二十九圓七十四錢

◎入退園及年末現員調

年 度	入 園		卒 業		退 園	死 亡	現 年 度 末 現 員
	女	男	女	男			
明治三十八年度	四二	一三	三九	九	六	一	二五
明治三十九年度	三三	一五	二二	九	七	〇	二四
明治四十年 度	三〇	二二	二六	一〇	七	一	二二
明治四十一年 度	二六	二二	二六	一〇	四	〇	一八
明治四十二年 度	二六	二〇	二六	一〇	六	〇	二六
明治四十三年 度	二六	一五	二四	七	七	〇	二六
明治四十四年 度	三一	二〇	三一	一	五	〇	二五
明治四十五年 度	三一	一九	三一	一	五	〇	二五

年	度		入園	卒業	退半 園途	死亡	現年度 員末
	女	男					
明治四十三年度	二二	一九	二二	一七	七	〇	三〇
明治四十四年度	四九	二二	四九	二二	一七	〇	三九
大正元年度	二五	一九	二五	一九	二	〇	四三
大正二年度	二〇	一九	二〇	一九	四	〇	二五
大正三年度	二〇	一三	二〇	一三	六	三	二二
大正四年度	二六	九	二六	九	九	〇	三一
大正五年度	二四	一五	二四	一五	九	〇	三二
大正六年度	二八	一八	二八	一八	六	〇	三五

昭和大正 元年度	大正十四年度		大正十三年度		大正十二年度		大正十一年度		大正十年度		大正九年度		大正八年度		大正七年度	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
二五	三二	二一	三〇	二一	二八	三二	一九	二五	二六	三一	一九	二二	二二	二六	二八	二五
一七	二〇	二一	二一	二四	二六	一七	二〇	一九	二二	二二	一六	二一	二四	二一	二〇	二一
五	七	〇	六	三	七	九	四	一	七	七	七	二	六	四	四	〇
一	〇	三	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	〇	〇	一	四
二七	三七	二五	三二	二八	三〇	三四	二九	二九	二七	三四	二七	三四	二九	三七	三九	三六

右の外昭和二年四月末日調査現在園兒數

男 五十六人 女 五十四人 計 百十人

◎ 大正十五年度 保育修了幼兒數 男 二〇 女 一七 計 三七

期保 育	修了幼兒姓名	期保 育	修了幼兒姓名	期保 育	修了幼兒姓名
三年	清水喜久枝	二年	森定雄	一年	諸岡とみ
ク	杉山キク	ク	本橋誠	ク	櫻井静子
ク	加藤三保子	ク	紺谷智恵子	ク	大木昌一
ク	寺内光子	ク	藏重富士登	ク	辻ケイ
ク	金井誠一	ク	田中よし子	ク	瀧澤宵次
ク	小泉勝子	ク	京須彌	ク	諸岡文衛
ク	宮田三	ク	諸岡勝次	ク	日暮善政
ク	小倉季夫	ク	高橋米吉	ク	信田とよ子
ク	須田ひろ	ク	小田垣次郎	ク	伊能けい
ク	若林正英	ク	古郷富美子	ク	牧野雅男
ク	小野寺豊	ク	日暮久彌	ク	三橋とし子
ク	平野君	ク	青柳武		
ク	京増廣吉	ク	木内ヒデア		

◎ 私立成田幼稚園規則

第一條 本園は満三歳より學齡までの幼兒を收容保育するを

第二條

以て目的とし満二ヶ年以上在園の者に限り入園を許す  
但他の幼稚園より本園へ轉ずるものは二ヶ年以内と雖も入園を許すことあり  
本園保育課目を分つこと左の如し  
遊嬉。唱歌。觀察。談話。手技。

第三條

従來幼稚園規定は小學校令の中に含み居りしも大正十五年四月新幼稚園令制定發布となり之と同時に保育上重要な課目として新に觀察の一項目を加ふ  
保育時間は一日五時間以内とす

第四條

本園收容兒の定員は百人とし之を四組に編成す  
休業日を定むること左の如し

第五條

一 祝日 大祭日及日曜日

第六條

一 春期休業 自三月二十日至三十一日

第七條

一 紀念日 六月一日

第八條

一 皇后陛下御誕辰日

第九條

一 夏季休業 自八月一日至八月三十一日

第八條 退園は其理由を具し保護者より申出づべし  
第九條 二年以上在園の幼児にして保育修了に際しては特に  
保育證書を與ふ

但二年以内にも特に入園を許可されし者にも證書を  
與ふ

第十條 幼児若しくは其保護者に於て轉居したる時は直に届  
づべし

第十一條 幼児の缺席は其都度必づ届づべし  
第十二條 保育料は本園の休業全月に亘りたるときの外幼児一  
人に付一ヶ月金壹圓とし幼児出席の有無に拘はらず毎  
月五日迄に保護者より納付すべし

但一族にて在園幼児二名以上なるときは一名を本文  
の通りとし其他は總て半減するものとす

入園證書

何の誰

右は今般貴園に入園御許可相成候に付ては本人に關する  
一切の事件拙者引受可申候也

右幼児保護者

千葉縣印旛郡成田町大字何番地

何の誰

昭和年月日  
私立成田幼稚園長 荒木照定殿

經歷書項目

生父健否	年 齡
生母健否	年 齡
兄	人
弟	人
姉	人
妹	人
生母ノ乳	乳母ノ乳
牛乳	里子
生來重キ病ニ	
カ、リタルコトノ有無	
性質習慣ノ	
著シキモノ	

右御報告申上候也

幼児 保護者

昭和年月日

私立成田幼稚園御中

◎私立成田幼稚園幼児保護者心得

一 家庭と幼稚園の連絡に關する事

幼児の保育に關しては幼稚園と家庭と相待ちて協力するにあ  
らざれば效果を得ること能はざるは云ふまでもなき事なるべ  
しされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應じて保育  
の效を全くせざるべからず今彼此の連絡に關して當園の冀望  
する所を擧げんに概ね左の如し

一 家庭より當園の事に付疑義あるか或は幼児の事に關して  
擔任保母に問合せ又は協議せられたき事あらば何事にて  
も遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし

二 父母兄弟並に直接に幼児の保育に關係ある人は時々來園  
して當園の實況を視察し之を家庭の保育に参考せられん  
こと當園の最も冀望する所也又毎年春秋二回特に保育懇  
話會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり一は實  
地保育の模様を諸君に示し又一は諸君より家庭の状況を  
聞き幼児の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其  
都度通知すべければ成べく來會ありたし

一 幼児付添人に關する事

當園に於ては幼児付添人を要せず  
但往復途中の送迎は隨意たるべし

一 幼児の遊戲に關する事

遊戲は實に幼児の仕事にして心身の發達一に之によるものな  
れば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂  
暴に涉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付き  
ても亦能く其良否を甄別せられたし又幼児の記憶に任せ讀書  
等を授けらるゝ向もまゝあるよしなれども是等は幼児の發育  
に害あるも益なかるべければ注意せられたし

一 幼児服裝に關する事

幼児の服裝は成るべく質素にして遊戲運動等は便利なる者を  
用ひ従つて地質は綿布麻布の類とし仕立方を簡袖とせられた  
し

一 幼児の携帶品に關する事

幼児在園中に用ふべき器具等は總て當園にて貸與すべきが故  
に手拭鼻紙等必要な物品の外に幼児に携帶せしめざる様致  
したし

一 幼児の往復に關する事

幼児の往復は充分に保護せらるべきは勿論なれども風雨其他  
疾病遠路特別の事情ある時の外は成るべく徒歩せしめられた  
し

一 幼児の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼児の缺席一週を越ゆるときは口頭或は書面にて詳に其事由  
 を届出でらるべし凡て多人数の集る所は充分注意を爲すにあ  
 らざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族に  
 傳染病者ある時は直に其病名を記して届出でらるべし  
 但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、  
 發疹瘰扶斯、虎列刺、赤痢、ジフテリア、ペスト等を云ふ  
 一保護者の異動に關する事  
 保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直に  
 届出でらるべし

# 成田山感化院一覽

今日一日の務	七三
平面圖	七三
沿革要項	七四
位置	七五
建物	七五
職員	七五
主要事項	七六
生活	七八
經費	八二
成績	八三
入院	八四
退院	八五
基本金の蓄積	八七

幼児の缺席一週を越ゆるときは口頭或は書面にて詳に其事由を届出でらるべし凡て多人数の集る所は充分注意を爲すにあざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族に傳染病ある時は直に其病名を記して届出でらるべし  
 但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹瘰扶斯、虎列刺、赤痢、ジフテリア、ペスト等を云ふ  
 一保護者の異動に關する事  
 保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直に届出でらるべし

# 成田山感化院一覽

今日一日の務	七三
平面圖	七三
沿革要項	七四
位置	七五
建物	七五
職員	七五
主要事項	七六
生活	七八
經費	八二
成績	八三
退院	八四
入院	八五
基本金の蓄積	八七



### 今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
  - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
  - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
  - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
  - 五、今日一日常に正直を旨として決して虚偽を言はぬ事
  - 六、今日一日能く勉學し能く仕事を働く事
  - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
  - 八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
  - 九、今日一日腹を立てぬ事
  - 十、今日一日仕事に倦まない事
  - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
  - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
  - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
  - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
  - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

習自の夜内室徒生



式拜願るけかたに室編



院化感山田成



活生海臨の濱里九十九



行旅學修面方子鏡



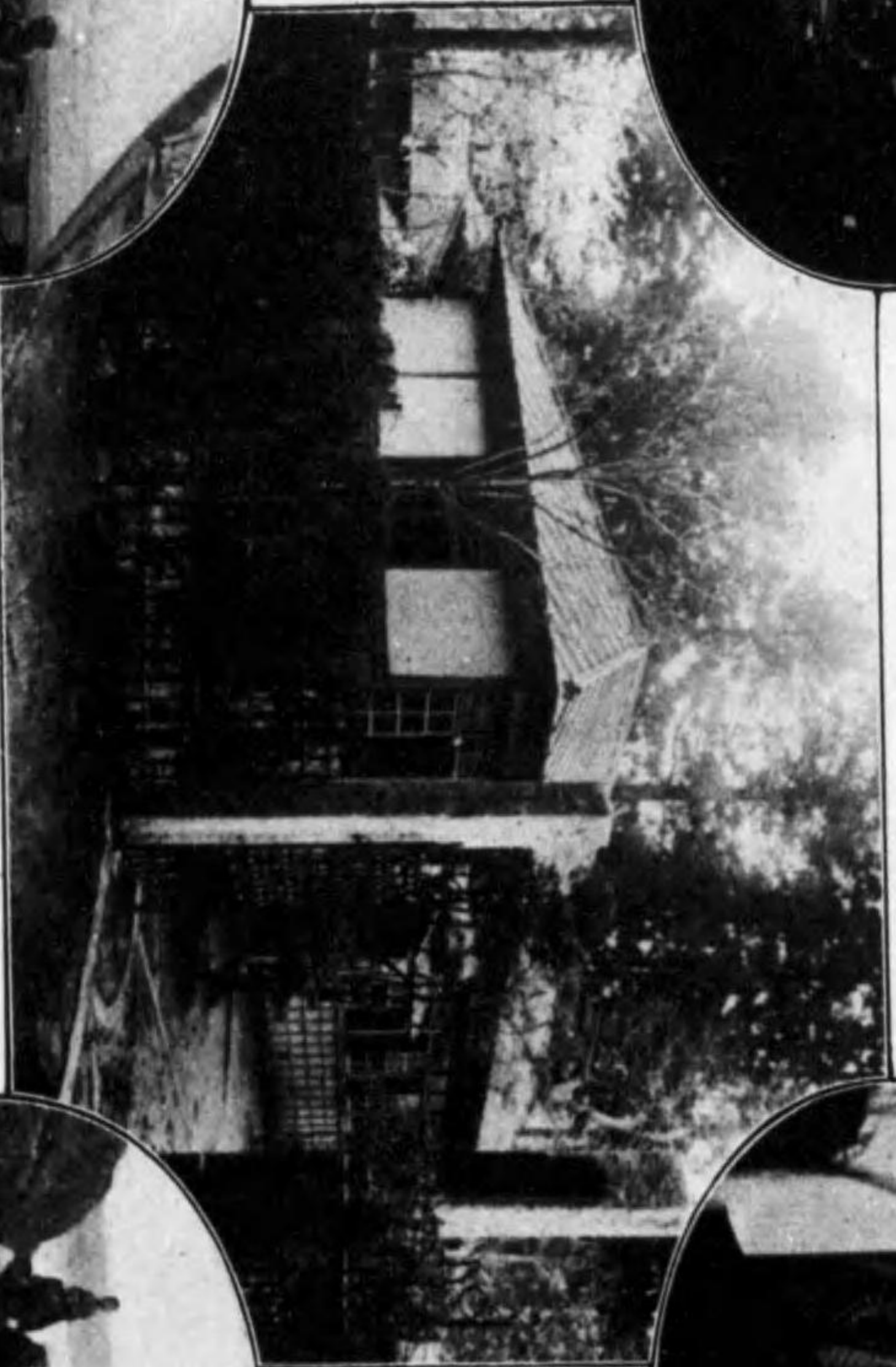
### 今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
  - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
  - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
  - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
  - 五、今日一日常に正直を旨として決して虚偽を言はぬ事
  - 六、今日一日能く勉學し能く仕事を働く事
  - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
  - 八、今日一日人より受けたる恩を忘れぬ事
  - 九、今日一日腹を立てぬ事
  - 十、今日一日仕事に倦まない事
  - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
  - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
  - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
  - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮らす事
  - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

習自の夜内室徒生



式拜朝らけ於に堂講



院化感山田成

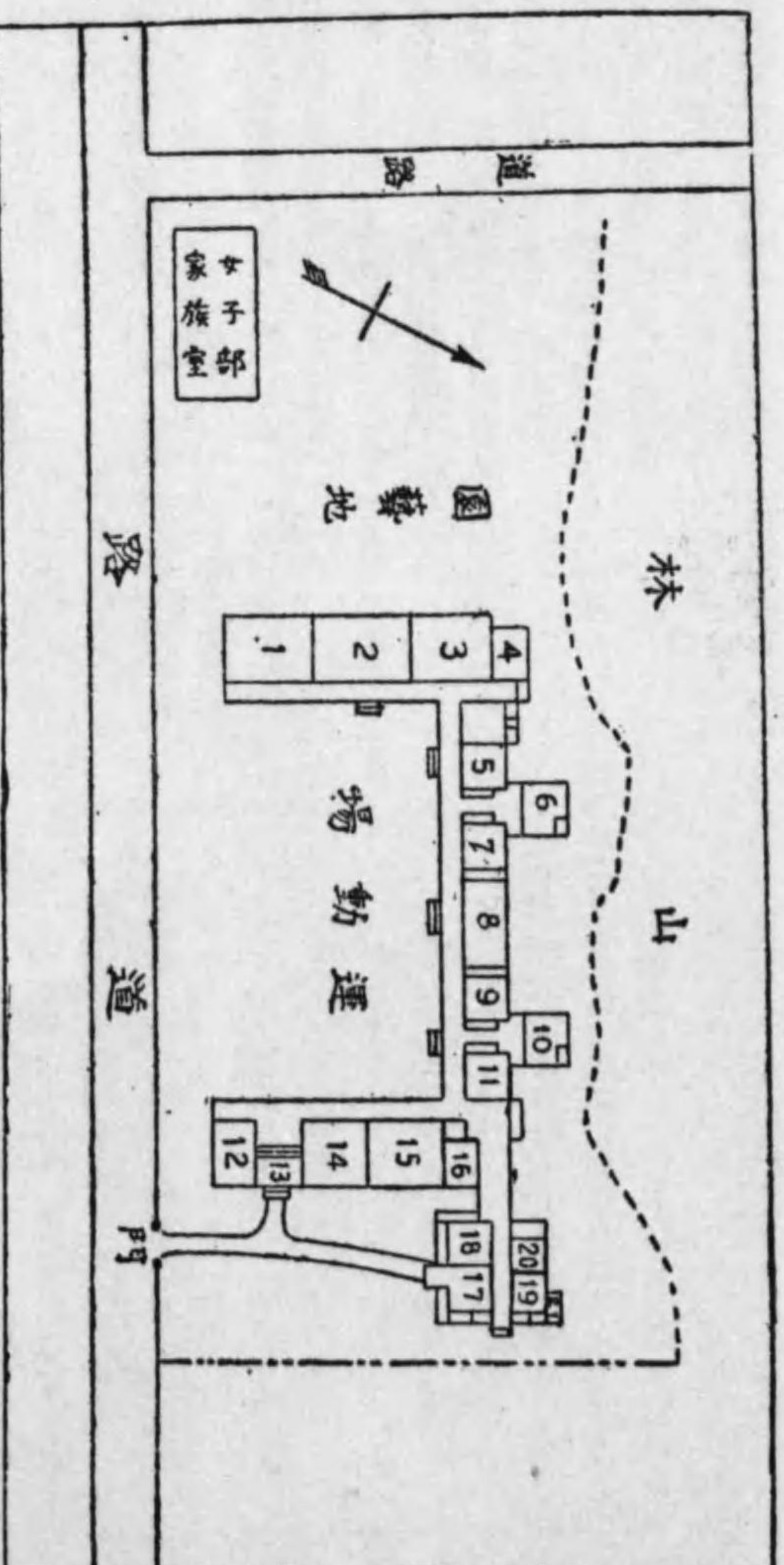
活生海臨の濱里九十九



行旅學修面方子鏡



私立成田山感化院全圖



1	講堂	面積千二百二十五坪
2	圖書室	
3	教室	
4	生徒室	
5	生徒室	
6	教師室	
7	生徒室	
8	手工場	
9	生徒室	
10	教師室	
11	生徒室	
12	事務接室	
13	昇降口	
14	食堂	
15	炊事場	
16	洗風呂場	
17	主任室	
18	同家族室	
19	病室	
20	新入生徒室	
21	物置	總建坪二百坪

### 私立成田山感化院一覽

#### ◎沿革要項

- 一 創立 明治十九年十一月二十八日千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設せらる
- 一 組織の變更 明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本院を經營維持することに變更す
- 一 舊千葉感化院建築竣工 明治二十四年五月三十日
- 一 院長更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現院長就職す
- 一 移轉改稱 明治四十一年三月二十五日現在地に院舎を新築して之に移轉し同時に成田山感化院と改稱す
- 一 御膳本下附 明治四十三年九月七日教育勅語謄本並に戊申詔書謄本各一通下附せらる
- 大正十三年四月五日國民精神作興に關する詔書謄本一通下附せらる
- 一 皇族御來院 明治四十四年十月十七日山階宮芳麿王殿下久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下

(昭和貳年三月三十一日現在)

山階宮藤麿王殿下本院へ御成り被遊尙同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫宮安子女王殿下を御伴はらせられ本院へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本院よりは生徒製作に係る竹籠の内に三里塚名産の初芽を入れたるものを献上したるに直に御嘉納遊さるゝ旨恩命に浴したり

- 一 宮内省より御下賜金及御下賜品 本院事業御獎勵の思召を以て左の通り下賜せらる
- 大正十一年二月十一日 金參百圓
- 大正十二年二月十一日 金四百圓
- 大正十三年二月十一日 金四百圓
- 大正十四年二月十一日 皇太子殿下海外御巡遊日誌一部
- 大正十五年二月十一日 金壹百圓
- 昭和二年二月十一日 金一封
- 一 内務大臣より下附金及下附品 本院事業上從來功績ありと且つ獎勵の趣旨を以て左の通り下附せらる
- 明治四十二年二月十一日 金壹百圓
- 大正四年二月十一日 花瓶壹對(市岡素雲作)  
(綱野松上模様)
- 大正十一年二月十一日 金貳百圓

- 大正十二年二月十一日 金參百圓
- 大正十三年二月十一日 金壹百圓
- 一本縣知事より獎勵金 本院事業獎勵として左の通下附せらる
- 大正十一年一月十三日 金壹百圓
- 大正十二年三月九日 金壹百圓
- 大正十三年三月二十五日 金壹百圓
- 大正十四年三月二十七日 金壹百圓
- 大正十五年三月三十一日 金壹百五十圓
- 昭和二年三月三十一日 金壹百五十圓

一 平和記念東京博覽會より銅牌受領 大正十一年七月十日 先に出陳したる本院一覽に對し銅牌を送らる

#### ◎位置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一(電話成田百三番)にして成田山境内に在り前面成田町幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約九町成田山不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約一丁にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白聖の一家屋を見るべし、本院即是れなり

#### ◎建物

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

- 一 本院敷地面積 一千二百二十五坪
- 一 建坪 二百坪
- 一 建築費 一萬八千二百圓九錢九厘

但し別に女子部家族室を有するも此中に算入せず敷地建物明細圖は別頁に掲ぐ

#### ◎職員

一 院主兼院長	荒木照定
一 主任兼教諭	大友惟誠
一 會計主任	久保田萬吉
一 學科教師	寺西茂樹
一 實科教師	目下欠員
一 教師兼保母	大川友靜
一 保母見習	小川はつ
一 炊女	長井きゑ
一 篤志院醫	關川博道



働といひしをなし来りたるが本年はその他に時宛も養育期にして近隣の桑摘み多忙なるを見て之に奉仕する事を試み朝夕の涼しき間之をなしたり然る所近隣は大いに之を徳として引揚げに際しては却て澤山の謝金を贈られ約するに又來年を以てせられたり此の謝金は子供達の相談により一同の記念品に替へて持ち歸れり、本院が此の臨海生活を開始して既に数年小林一家は定めし御迷惑なる事ならんも一家を擧げて少しもその色なく本院の此舉に非常なる同情をよせられ好意を以て子供達に接せられ剩へ其時期前には必らず御誘ひの手紙を頂戴するなど其厚意には一同と共に深く感謝し居る次第なり

一、修學旅行 五月五日端午の節句を期し銚子方面に旅行す前日佐倉町まで行き寺西教師の實家に一同一泊翌日未明に同地を出發して銚子町に向ひ利根の川口より君ヶ濱犬吠岬と犬若岬まで一周し途中燈臺を見學して一日の歡をつくし終列車にて一同嬉々として歸院せり

三月廿三日多摩御陵參拜 多摩御陵の參拜は一同の熱望したる所なるも可なり遠方なる爲め子供達は無理なる望として諦め居たり然るに突然院長より子供達を連行御陵を參拜すべしとの恩命と共に特に御手許より旅費を給せらる院内一同の欣喜例ふるにももなく三月二十三日天候にも頗る恵まれて難有き參拜をなし尙ほ高尾山にも參拜して夜九時半無事歸院せり

一、職員出張 主任大阪教諭は院長代として左記の諸會に出席せり十一月七日より三日間に亘る關東北感化院長會議に横濱へ十二月一日感化教育會總會同月二日より三日間第一回全國兒童保護大會に東京へ及び一月二十二日第一回縣下社會事業團休會議に千葉へ 寺内教師は二月十九日より四日間縣主催第一回社會事業講習會に千葉市へ出張せり

◎院内生活

本院の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躰をなすと共に信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本院生活の精神と爲すが故に此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れざる様最も注意せり然れ共本院家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらず常に便宜を主とし温き家風自然の慣例等により之を教練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本院の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

日課及其説明を擧ぐれば左の如し

午前五時 起床二十分間の自彊術を終りて直に掃除  
午前七時 朝拜式

- 一、皇室の萬歳を奉祝す
- 二、大廟遙拜
- 三、成田山不動尊禮拜
- 四、各自先祖敬拜

午前八時 朝食  
自午前九時至正午 學科  
正 午 晝食  
自午後一時至四時 實科  
午後五時 夕食

自午後六時至同七時三十分 自習  
自午後七時三十分至同八時 自彊術  
午後八時 就寢

以上の如く定むると雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更することあり

**起床** 朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作り但本院のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

**自彊術** 自彊術なる一種の體操は健康増進上甚良好なるを開き職員先之が實地研究を試むる事數月然後大正九年十二月一日より從來の徒手體操に更へ朝夕二回之を行ふ事として今日に及べり確に効果を認む

**清潔** 清潔は本院の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各生の清潔整頓を検査す

**冷水摩擦** 冷水摩擦は毎朝洗面の時職員生徒一緒に之を行ふ水浴は自由に任せ置けり

**衣類** 普通の衣類を用ゆ會ては制服ありしも今は之を定めず但毎朝禮拜の時及授業の際は袴を着用せしむ

**朝拜式** 毎朝講堂に於て之を行ひ兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員先特に敬虔的態度を持し最も嚴肅を旨とし之を行ふ

本院修身教育の大本として教育勅語戊申詔書並に國民精神作興に關する詔書の聖旨を奉戴する事勿論にして之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信す本院の特色として成田山不動尊を信仰せしむる所以即ちなり

**訓話** 一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就寢前不動尊禮拜の時之をなせ共平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何となれば職員は生徒と起臥を同うし行住座臥の間之が師たり父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなりされど個人に對しては機會を捕へ之に投じて其兒童に適切に徹底的に訓話をなす

**食事** 常に兒童の營養状態に留意し滋養に富める物を選び

居るを以て中流家庭に劣る事なし而して職員(其家族も)生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本院の生活は總てに於て「共に」といふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

**學科** 概ね小學令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後)に及ぶ事あり)の授業をなす但特に重きを讀方書方算術珠算等の實用學科に置けり尋常科を卒業せし後猶ほ向上の見込ある兒童にして且品行最早差支なしと認めらるゝ時は中學へ通學せしむる事あり然らざる者には院内に於て高等科及補習科教育を授く又特に進歩の見込あるものには午前の學科とは別に夜間特殊の學科を授く例へば其兒童の將來に於ける職業を見込み論語英語實業講習録等を教ゆる是なり目下縣立八生農學校へ通學中の者一名あり

**實科** 農業を主とし外に簡易なる手工を課す但冬期は手工のみなり耕地は目下三段歩を有し追々擴張の見込なり院内に於ける實科に對しては生産的職業的技能的を與へ實社會に出で直に夫に依て自活し得るものを選ばざる可らずと論ずる者あり本院固より考量したる事なるも三四の業務を設備したりとて到底全生徒の個性嗜好に悉く適合せしむる事至難にして強て職業を狭き範圍に押込む確あり殊に感化院に適する授業師たる人物を

得る事困難にして施設繁多なる割台に好果を收められざる遺憾あり依て本院は教育終局の目的を主眼とし身體の鍛鍊精神の訓練特に勤勞性の養成を目的とし單に農業手工の二課を設くるのみ

尤も年齢其他の關係よりして在院中職業を興ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰み之に委託して本院より通勤其職業を見習はしむ目下此方法によりて職業教育を施し居る者一名あり

**娛樂** 兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に教化の目的を遂げんとし娛樂には相當の意を用ふ

**一、庭球及フットボール** 娛樂に供する外體力の養成にも資せんと之等を設けたるに一同は喜びて之を遊び晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり

**一、圓球盤** ビンボン、カラム雨天の日には之にて遊ぶ

**一、蓄音機** 祝祭日及日曜日の夜間又は談話會其他の會の際に之をなさしむラヂオはその子供の時間を生徒の時間となしをれり

**一、生徒圖書室** 此所に有益なるお伽噺雜誌(目下希望、のぞみ、泉の花、赤い鳥及ひかり)寫眞、繪畫等を置き兒童の閱覽に供す

**一、自由園藝** 一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、箱

庭作り等自由に興藝の樂を味はしむ

**一、散歩、遠足及旅行** 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に参拜をなさしめ同時に散歩せしむ又附近神社佛閣の参拜水泳船遊魚釣蕨狩茸狩栗拾或は單なる山遊び等にて數々山野を跋渉し郊外に遠足し娛樂に兼て體力の養成をはかり或は臨時に汽車電車等に乗りて遠方への修學旅行をなす

**一、三大節及本院記念日** 當日は祝賀式後種々なる餘興(琵琶浪花節福引の外各生自身の餘興)をなして一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂となし居れり

**一、角力** 院内に土俵を設け夏期は殊に盛にとらしむ尙毎年九月に於て成田素人大角力あり生徒も出場せしむるを習とす

**一、誕生祝** 院長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團樂し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ早朝先不動尊に参詣其立身出世を祈らしめ本院よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又特に御馳走を供す

**一、五月節句** 講堂に幟を飾り柏餅にて茶話會を開く

**一、降誕會及義士祭** 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行いたる後院生の相談なる趣向によりて余興をなす

**一、鸚鵡、鶏、山羊を飼育す**

右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戯例へば輪廻し

獨樂歌留多双六陣取鬼事將棊五目(其他種々)等は大抵自由に任かして徒に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常とす

**賞罰** 總て普通の家庭生活と状態を同うせしむる希望なるが故に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本院の記念日に於て當日は多くの賞與を興ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場合の外賞與を實行せず但賞與を行ふ場合と雖も式場に於て舉行するが如き事なし

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員の見を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

**雜件** **一、祭日** 生徒中若し父母死したる者ある時は勿論其他最も近き先祖の命日に於て特に祭壇を設け香花供物を獻じ一日の休暇を與へ祖先に敬拜の意を表せしめ終日謹慎せしむ

**一、稱號** 生徒在院中は特殊の稱號を用ひ本名は嚴に之を秘して呼ばしめず例へば志道サン爲徳さん好學サンと名稱するが如し生徒よりして院長は御前様主任は先生主任妻女は奥サン他の職員は誰だれ先生と其姓を頭にして先生と呼べり生徒に稱號を用ひるは其依頼者に於て自己の住所氏名及其子供の氏名とは公然世上に發表せらるゝを好まざるの希望あるを知ると共に本

院としては生徒入院の際に於て改めて新なる道徳的の名稱を附するは本人の改善上一種の大きいなる暗示の力あるものと認めたるに由れり

一、**間食** 初は日曜日及毎月一日のみ之を與ふるの定めなりしも特志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せらるゝことあり又院長手許より生徒を慰めよとて特に珍菓水菓子等送り來ること數々なるのみならず院教師へ他より贈られたる菓子等を總て生徒に分配するを以て實際に於ては間食の度數割合に多き方にして是等の方法は總て一般家庭の兒童生活と異なることなし

◎**經費**

本院には嚴密なる豫算なしと云ふ事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし嚴に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず况んや錢厘に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりとて必要なき費途を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本院經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上院長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信頼を與へて濫りに細心の監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は儘に豫

算を限定する以上において更に頗る便利を極め居れり左に記載するは本院移轉後の決算なり

金千六百十圓九十錢	明治四十一年度
金千九百五十九圓四十八錢	明治四十二年度
金二千八百八十五圓四錢	明治四十三年度
金二千三百二十一圓八錢	明治四十四年度
金二千六百七十五圓六十七錢	大正元年度
金二千三百四十五圓六十三錢	大正二年度
金二千三百二十二圓七十四錢	大正三年度
金二千八百三十一圓五十七錢	大正四年度
金二千七百八十六圓五十九錢	大正五年度
金三千〇二十五圓八十八錢	大正六年度
金二千六百〇八圓三十四錢	大正七年度
金三千六百四十圓三十七錢	大正八年度
金四千三百九十圓十三錢	大正九年度
金三千九百三十九圓一錢	大正十年度
金四千六百八十七圓八十七錢	大正十一年度
金四千七百二十一圓四十八錢	大正十二年度
金五千五百四十七圓二十七錢	大正十三年度
金六千九百二圓三十八錢	大正十四年度
金五千九百九十一圓二十錢	昭和元年度

合計六萬六千四百八十二圓六十三錢

◎**教育成績**

明治十九年本院創業以來昭和二年三月末に至る入院生百七十人

内  
 改善退院 百十八人 事故退院 二十五人  
 逃走 二人 不詳 四人  
 不成績 五人 現在生 十六人  
 備考 事故退院とある大部分は明治三十二年本院前院長洋行不在中當時坪井前主任病死の爲め一時生徒を假退院せしめたる事あり此退院生徒を指したるものなり

自明治三十四年 至昭和二年 一、**成績**

(昭和二年三月末日調)

改善者	九三	不成績	五
不詳	五	現在生	一六
逃走	二	計	一一一

二、**入院時教育程度と年齢**

私立成田山感化院一覽

三、**入院時保護者と年齢**

年齢	程度							不 就 學	計
	九 歲	十 一	十 二	十 三	十 四	十 五	十 六		
9							2	2	4
11							1	2	3
7							2	2	4
14					1	2	4	1	8
23					3	3	3	3	12
18					2	2	4	3	11
16	1	2	3	1	4	1	2	1	14
23	3	4	3	4	2	1			17
計	9	8	12	17	20	14	9	18	131

八三

年齢	保護者			計
	實 母	實 父	保 護 者	
九	1	1	1	3
十	1	1	1	3
十一	2	2	2	6
十二	1	3	5	9
十三	1	1	10	12
十四	4	1	6	11
十五	1	2	8	11
十六	3		9	12
計	13	8	42	63



計	な保 き護 者者	家 族の	其 他	祖 母	養 父 母	繼 父 母	實 母 父	繼 父 母
9	1	3	2	1				
11	2		2		5			
7				2	1			
15	1			1	3	1		
21		2		1	4	2		
18				1	4	2		
18	1			1	3	2		
22		3		2	4	1		
121	5	8	4	9	24	3		

四、保護者の職業

荷飲會官諸古商農 馬食社公職物 車業員吏人商業業	一 一 一 二 二 四 一 九 九 二 五 二	產下相姿墓山被車 宿場 芋備 婆業師 守州人夫	一 二 一 一 一 二 六 三	不醫植金無漁教 計 木貸職 育 詳者業業業夫家	一 二 一 一 一 三 二 三 一 一
--------------------------------	----------------------------	-------------------------------	-----------------	-------------------------------	---------------------

五、改善退院者現況

豆大軍會菓商農 腐 社子 屋工人員屋業業	三 四 四 五 六 七 一	市鐵家電印製中 電道庭 刷米 從省に 工屋業學 業備ある者 員員者	一 一 三 二 二 二 四	機染製海按下活 械物銅 駟 動 職屋職員摩屋士
----------------------------	---------------	---	---------------	-------------------------------

持續するときを以て改良生と認め退院せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得て本院より直に本人の性行に適する職業見習の家へ紹介し就業せしむることになし居れり此場合に於ても其家庭及周圍に十分の注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり本院の最も心勞するは實に此の退院後の成績効果なり何となれば入院中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとすも退院後の境遇若しくは動機により動もすれば逆戻りをなし其効果を破壊せらるゝ恐あればなり故に本院に於ては退院後の成績効果に對し周到なる注意をなすと共に油断なく左記の保護視察をなせり

第一本院職員の視察 第二本院と書面の往復 就中書面の往復は本院の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる効果あり尙事情の許す限り退院者とは親戚様の關係を持續し行く事に努力し居れり

◎生徒の入院

明治二十一年前本院の未だ成田山の經營に移らざる以前は専ら他の寄附金に因り本院事業を維持するの必要を有し此場合に於ては熱心に搜索勸誘の方法を採り多數の生徒を收容するの實勢を存し生徒の少數は其外觀を損し生徒の多少は維持上頗る大關

六、改善退院者入院時の年齢と在院期間

計	年 齡					計
	一年未滿	二年未滿	三年未滿	四年未滿	五年未滿	
5	1	2	3	1	1	九 歲
9		1	3	2	3	十
8	2	2	1	1	2	十一
11	3	2	3		3	十二
17		1	5	5	5	十三
14			1	4	8	十四
14		2	1	6	3	十五
15		1	2	6	6	十六
83	3	6	12	18	30	計

左 コ植ア靴棒 ツ木リキ 官ク屋ヤ屋屋	鐵硝雇電析織 金子 球 職屋人屋工工	理自不 計 變車死 屋屋詳亡	九 三 一 一 二 九
---------------------------	--------------------------	----------------------	-------------

◎退 院

生徒の改良を認め退院を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度第二院外に使用し時々金錢を携帯せしめ毫も不都合なきとき及日常の操行右半年以上乃至一年間同様に

係を爲したるものなり今日と雖も維持本位を主とするとせば亦如此き必要を生ずるや知る可らず然るに新勝寺の經營に歸したる以來漸次教育本位に移り本院維持の如きは新勝寺の自營に屬し亦勉強して他の寄附金に依らざるを得ざる必要なきに至れるを以て自然維持上の關係より強て生徒の多數を集むるの要なく遂に今日の如く依頼人の要求のみにより寧ろ少數の生徒に對し及ぶ丈け良好なる成績を擧ぐるの方針を採り靜かに且つ正直に斯道に盡しつゝある處なるが近來此種の兒童次第に増加し社會も亦此の方面に目醒むるに及び時代の要求は此本院從來の方針に多少の變化を來さしめつゝあるの實情なり殊に先年少年法の施行せられてより此種兒童は自立して社會の表面に出で來れり然れ共此法律によりて即ち少年審判所を通過する兒童は大抵年長にして本院の教育には適せざる者多かるべしと思料し暫く之が爲めに門戸閉ぢるたるも一昨年より同所に於て本院に適當なる者なりと認むるの少年ありたる時は先づ其通知を受け職員出張の上之を考查し其教育は本院教育の方針に一任する約を以て其の委託に應ずる事とせり爾來同所より受託したる者極めて少數にして未だ誇りとするに足らざるも撰擇收容の爲めならんか成績幸に良好なるを喜びつゝあり

新に入院生ある時は先づ入院前の非行に對し懇篤訓誡を加へた後本院生活の要項を知らしめ最早不動明王の恵により全く生

れかわりたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを諭し講堂に於て命名式を行ひ本院生活の人とならしむ尙入院の際は左記の書面を差出さしむ

(第一號)

入院 依頼書

何府縣何市郡何町村大字何番地  
族籍職業何某何男(弟或は……)

何

某

右者父兄親戚等の教に背き教育の途を失し候に付今尙親戚會議の上(孤兒にして悪化の恐あるものに付)貴院の感化矯正を受度別紙履歴書誓約書並に戸籍謄本相添へ此段御依頼仕候也

何府縣何市郡何町村大字何番地

族籍職業(父母親戚若くは町村長)

年月日

依頼人

何

某印

成田山感化院長 荒木照定殿

(第二號)

履歴書

何府縣何市郡何町村大字何番地  
族籍職業何某何男(弟或は……)

何

某

一年 月 日生

二 祖父母存亡若し死亡したる時は其年月日病名

三 父母存亡並に年齢生計の程度「上、中、下」と單記すべし

(第三號)

印紙

在院誓約書

拙者儀今般入院御許し被下候に付ては在院中は職員一同の教訓に従ふべきは勿論諸規則は堅く遵守可仕候也

年月日

何

某印

前書何某一身に關しては在院中如何様の儀出來候とも拙者等引受決して御院へ御迷惑相掛申間敷は勿論尙左の條堅く相守り申すべく候

一 規定の院費及食費は毎月三日限り前納致すべく候事

二 在院中本人諸規則命令に違背致し候節は相當の罰に處せらるゝも異存申間敷事

三 本人不正の爲め感化方法執行上に必要なる親權は總て委任致し候事

右の三ヶ條約定致し候處確實也仍て保證人連署を以て誓約書差入候也

年月日

住所

依頼人

某印

住所

依頼人

某印

成田山感化院長荒木照定殿

備考 入院の手續は前記の書面を本院に差出すを以て其手續を終るものにして此他何等面倒の方法無く又此の書面と雖も依頼人希望に

(實父母或は養父或は養父母の別)若し死亡したる時は其年月日並に其病名

四 實父母は飲酒するや否や其概略の分量

五 如何にして生育せしや假令は(父母死亡後祖母に養はる或は父母生存するも祖父母大に本人を愛し云々或は何年何月本人何歳の時何職某方徒弟に出し云々

六 學業履歴本人學業を好むや否や

七 兄弟姉妹有無(内兄姉何人弟妹何人)

八 性質特質並に不良と認むべき行動詳細

九 不良の原因と認むべき事由及不良行為開始の年時

十 本人の最も嗜好するもの

十一 如何なる地方に生活せしや

十二 里子に出せし事ありとすれば其年月及歸家せし時の年月並に其行先きの職業住所氏名生計の程度

十三 身體の健否若し病氣ありとせば如何なる病症なるや及其發病の原因並に時期

十四 現に健康體なりとても曾て大病に罹りしことありや否や若しあれば其年月及病名

十五 癡小便する惡習ありや否や

十六 改善退院後に於ける豫定業務

右の通り相違なし

年月日

依頼人

何

某印

よりにて本院にて代書するも差支なし從來參觀せられたる諸君の中より本院は單に本山信徒の希望のみに限り其依頼に應ずるものか又は千葉縣下の依頼者のみに限り入院せしむるものかとの質問を受けたることあれ共固より加斯き制限すべき理由なし本院は成田山新勝寺の私立經營しつゝある感化事業なれば何れの家庭何れの地より依頼せらるゝも差支なきなり

本院基本金の蓄積

明治四十一年三月本院を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本院へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を探り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本院へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本院より進んで寄附金を受けんとするの方法を探るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金五千八百二圓五十八錢と勸業債券(十圓券)七十枚(三月三十一日調)を有するに至り殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に死者あるときは其追善供養の爲に大抵本院に金圓を寄附し其意を表せられることになり居れり尙ほ此基金蓄積の外本院は銀行預金九百八十九圓五錢を貯蓄せり右は本山御開帳の折該御開帳を記念すべく右施設費として本山主より寄附せられたる金員及特に此内へと寄附せられたる金員となり依つて本院は本金を基礎として將來本院附屬の果樹園を建設するの見込を以て本金を預金しつゝあるものなり



私立成田山感化院一覽

本院は不動本堂脇、本院門前、並に成田停車場内三ヶ所へ立捨箱の設置あり大正十五年四月一日より昭和二年三月卅一日に至る各慈善家より本院に寄附せられたる金品並に該芳名尙篤志家より投入せられたる喜捨箱の金額左の如し但し本金は全部基本金として貯蓄し毫も本院給費に使用せざるなり

寄附金の分 (但し各團體より寄附せらるゝ雜誌等は之を略せり)	
一金參圓五拾錢	無名氏殿(銚子)
一金拾圓	青柳 恭殿(成田)
一金拾五圓	石川ふで 子殿(成田)
一金貳拾圓	瀧澤 利一殿(成田)
一金拾圓	小野寺 勢ん 子殿(成田)
一金貳圓(生徒菓子料)	長竹 彦治 郎殿(成田)
一金貳圓(全上)	久保田 千代 子殿(成田)
一金貳圓(全上)	石井りう 子殿(成田)
御菓子澤山	山口金太郎殿(成田)
一理髮(毎月一回以上)	平澤 晃 殿(成田)

以上の中特に生徒菓子料として寄附せられたる分は其品に更へ若くは生徒旅行費に供し居れり

喜捨函の分

一金壹圓五十三錢五厘	四月
一金二圓二十五錢五厘	五月
一金三圓八十錢五厘	六月
一金二圓三錢	七月
一金壹圓六十四錢	八月

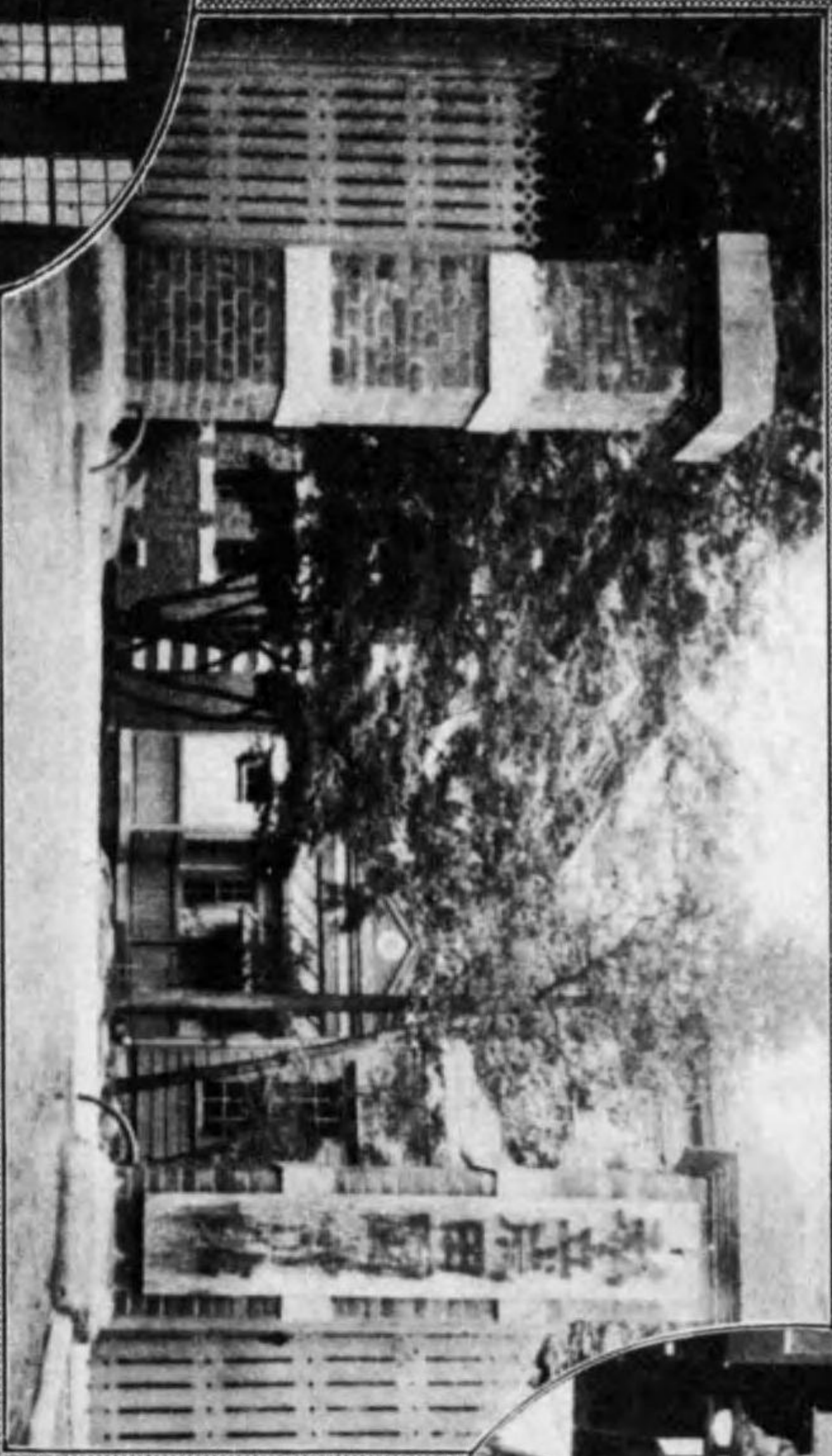
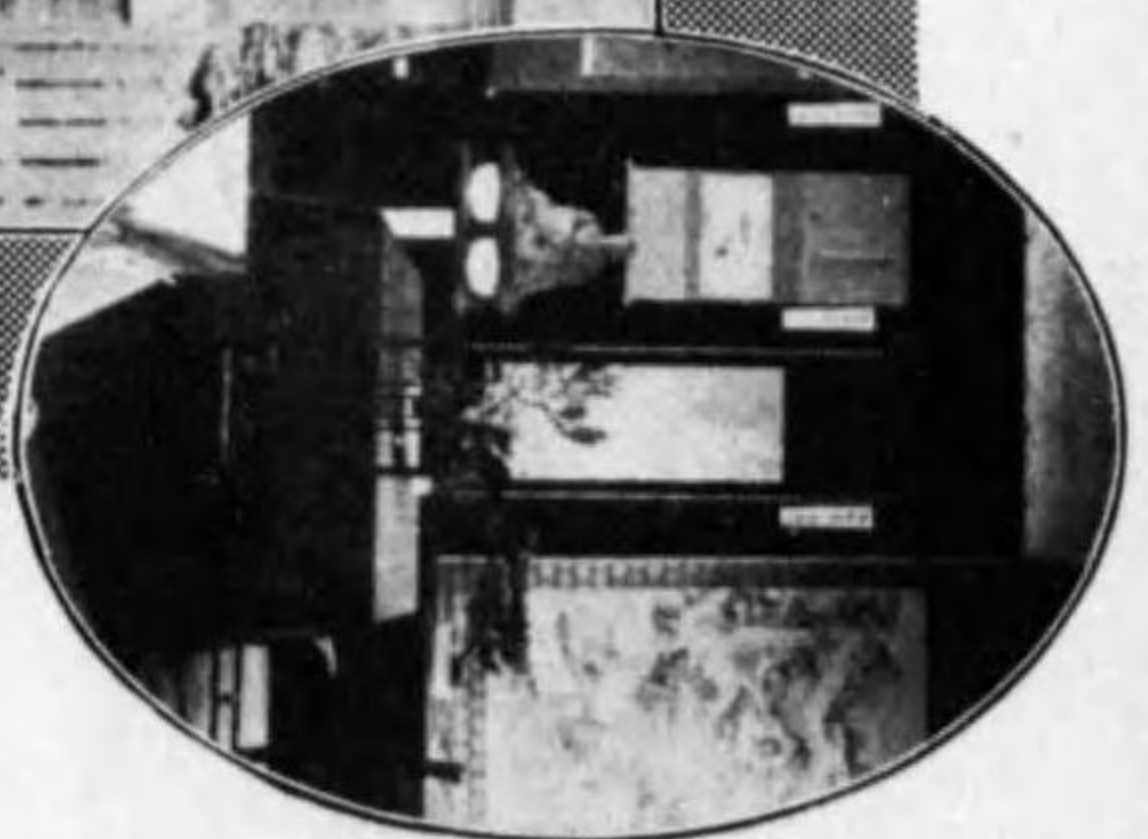
一金壹圓三十五錢	九月
一金壹圓四十九錢	十月
一金貳圓十八錢壹厘	十一月
一金一圓二十二錢	十二月
一金貳圓二十六錢	一月
一金壹圓四十四錢	二月
一金壹圓六十五錢	三月
合計金二十二圓八十五錢六厘	

終りに臨み各入院生の金額を舉げんに  
 ○自費生は食費文具書籍等の費用として毎月三日迄に左の頭書金額を依頼人より本院へ差出せしむ  
 一金拾圓 年齢滿八歳以上十歳まで  
 一金拾貳圓 同十一歳以上十三歳まで  
 一金拾參圓 同十四歳以上十六歳まで  
 ○減費生は家計の都合上前記の金額支出し能はざる向きに限り本院に於て其幾分を補助するもの  
 ○院費生は全部補助するもの  
 ○委託生の費用は一名に付總て一日五十錢の定を以て毎月東京少年審判所より本院へ交付あり  
 入院の際は各本人現所持する衣類書籍文具等費用に適するものは持参せしむ 以上

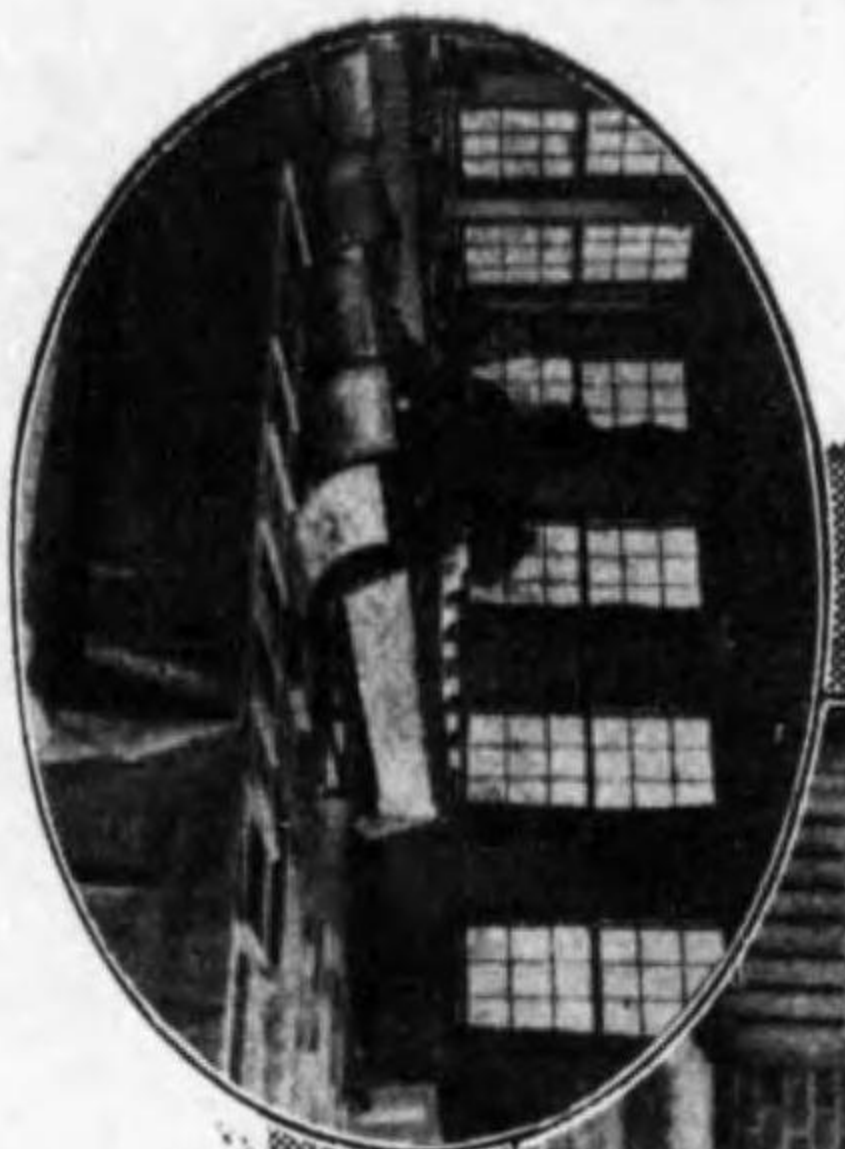
成田圖書館一覽

千葉縣圖書館協會の成立	八九
ミネルバの記事に就て	八九
建築	九一
經費	九一
職員	九二
藏書	九二
閲覧人員及貸付圖書	九三
圖書帶出一覽	九三
閲覧狀況一覽表	九四
規則	九五
館外帶出規則	九六
圖書寄贈者芳名	九七
雜誌新聞寄贈者芳名	九八

東洋美術展覽會



成田圖書館



東洋美術展覽會



## 成田圖書館一覽

(昭和貳年四月現在)

### ○千葉縣圖書館協會の成立

從來本縣下に於ける圖書館事業は、忌憚なく言へば餘り振はなかつた。然るに縣立に敏腕家の片岡君を迎ひ、銚子公正會館に小山君來り、近く本年の紀元節に野田圖書館の表彰あり、今や縣内圖書館は黎明期に達した。

昨年初冬の候、縣學務部の主催で、縣下圖書館關係者總會が開かれ、其席上に於て「千葉縣圖書館協會」發起の提案あり、滿場異議なく直に決定せられた。而して全出席者は悉く其會員たることを快諾せられた。私は斯業に従事する二十六年、能無能を別として、半生を斯業に捧げたるもの。此機運に際會して、無限の快感に打たれた。

回顧すれば私が本館の創立に携はりたる頃は、今の日本圖書館協會も「日本文庫協會」と稱し、その會員も殆んど東京在住者に限られ、大會の如きも、多くも三十名に滿たぬ有様であつたそれが今日單に千葉縣だけの協會で、昨年末の發會以來既に百人に近き同人を得た。縣立圖書館も愈々時節到來、起工の運びに至るらしく、野田の如きも、近く新築の噂を聞けり。斯くして縣下の圖書世界も、漸次堅實の發達を遂げるであらう。

本館は新たに荒木山主の歸朝を迎えた。山主は特に圖書前に理解と趣味とを有せられた方であるから、海外視察中にも、相當注意を拂はれたことと憶ふ。隨て將來の施設には、何彼と新時代に應じたお指圖があらう。斯く觀來れば、本縣に於ける趨勢は、前途頗る洋々たるものがある。我々は唯我獨尊的に、唯自分の従事する圖書館にのみ偏するものでないが、直正の國民教育、直正の社會文化、その進歩發達には、どうしても圖書前が中心とならねばならぬ。此意味に於て、全縣下に亘り、如何なる山村僻邑と雖も、苟も小い學校の設けある地方には、必ず一圖書館を有するまでに進めた。

### ○「ミネルバ」の記事に就て

「ミネルバ」は御案内の如くベルリン及ライプツヒにて發行せらるゝ、世界的の學界年鑑である。同年鑑には既に十數年來本館の記事があるが、昨年度(一九二六年)分には左の如く掲載せられて居る。

「成田(日本、千葉縣、下總國)成田圖書館(成田山新勝寺、一九〇一年創立)毎年増加五千冊!豫算壹萬參千七百貳拾圓、藏書九萬一千四百餘冊—館長僧正荒木照定 司書長高津親義」

只これだけのことである。併しながら「ミネルバ」は既に二十八年來繼續刊行せられ、苟も外國圖書を取扱ふ者、殊に現代の學問上の著述を選択する場合には、唯一の羅針盤とせらるゝ權威あるものだ。隨て全世界の有名な大學、圖書館、學會、及各種高等教育機關を網羅し、毎年改版せられて其時代の變遷を窺ひ得るものである。

序に今少しく蛇足を加ふれば「ミネルバ」とは希臘の神話中にある女神の名で、此神は専ら學問藝術を司さる神で、日本なれば差し向き辨才天と見てよからう。由て此女神の名を假りたものだとのこと。

既記の如く此年鑑は全世界の學界を網羅せる故に、全世界の學界に頒布せられ、隨て學界の大番附とも云ふべき觀がある。本館の如き地方の小圖書館が、此權威ある大番附に掲載せられ居ることは、一面甚だ名譽であるが、他面には頗る忸怩たらしざるを得ない。

なんととなれば此檜舞臺に登場せるものは、學校でも、圖書館でも學會でも、乃至學者としての個人でも、所謂幕ノ内格、千兩役者格でなければならぬ。

成る程本館は、先代石川僧正の心血を注がれたるものゝ一であり。而して現荒木山主は、其遺業を繼紹して、將來益々其發展を企圖せらるゝの人なれば、それは寧ろ當然であらうが、獨

り老骨司書長高津親義に至りては、少々痛み入る次第である。兎に角十數年來、既に世界的に認識せられ居る我圖書館の使命は重大である。將來に於て此重大なる使命を果し、設立の効果を完ふすることは、學識、經驗、人格、手腕俱に相應せる良材を撰ばねばならぬ。

何分我成田山には事業が多過ぎる。まだく經營して見たいものもあり、又宗教家として、將た成田山の立場として、當然企畫すべきものもあちう。殊に新歸朝の荒木山主として、相當理想も抱負もあらせらるゝことと想ふ。故に吾人の如き單に一方面のみを分擔して、唯自分の與えられたる仕事のみを見て居るものも、充分其邊を斟酌省察せねばならぬ。此に於て理想と事實、希望と實行との扞格が起つて来る。

今や新たなる昭和の光輝と、新歸朝の荒木山主を迎ひ、我五事業の益々隆運なるを祝福し、本館が世界的に認識せられ居ることを披瀝致し置く。  
(三柿園生)

◎建物及敷地

本館 延百十五坪餘  
書庫 煉瓦造 延九十坪  
附屬建物 木造、煉瓦造 延百十四坪餘  
敷地 千二十八坪

本館境地は、不動明王御本堂の東隣、石礎を下りたる廣場にして、西北は所謂奥山公園の丘陵に圍まれ、東は高等女學校に隣し、南方市街に莅み、成田町に於ける最好適地たるを誇りとする。之れに反し本館の建造物は、素と圖書館として設計したるものでなく、廢物利用が既に二十六年に及びたるにて、頗る不便なるを免れず。

書庫は建築當時に在りては、相當注意を拂ひたるものなれども、進歩せる今日より觀れば、多少の不便もあり、不經濟もある。然も其書庫は、既に十萬餘冊を收容せるを以て、滿喫飽喫庫腹將に綻びんとするの状態である。故に第二書庫の建造は、急務中の急務に迫れり。况や日々間斷なく流入せらるゝ、購入寄贈の書冊は、其處置に困却して居る。

館員住宅を構内に設けたるは、他館に類例少き所であるが、圖書館の如き夜間勤務ありて、殊に住宅不便の地方に在りては、痛切に其必要を認めたるに依れり。

◎經費

- 大正十四年度決算額
  - (一) 職員給、雜給 六、〇二〇、一五
  - (二) 需用費其他 一、八三五、五四
  - (三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等) 四、六七一、〇四
  - (四) 營繕費 二、九七九、三四
- 計 一五、五〇六、〇七
- 大正十五年年度豫算額
  - (一) 職員給、雜給 六、三五四、〇〇
  - (二) 需用費其他 二、一三〇、〇〇
  - (三) 圖書費 四、〇〇〇、〇〇
  - (四) 營繕費 二、八〇〇、〇〇
  - (五) 豫備費 一、〇〇〇、〇〇
- 計 一六、二八四、〇〇

本館經費も逐年累進、開館當時を回顧すれば、約十倍に近きものとなれり。蓋し何れの圖書館に於ても、亦他の教育事業に於ても、免れ能はぬ趨勢なるべし。本館は元來豫算なかりしが、數年前より一定の標準を立て、事業を進むることとなれり。輓近圖書館界の脅威は、書價割引の全廢と、酷似叢書の洪水である。敢て賢明なる當事業者の一考を煩す。

◎職員

館主兼館長	荒木照定
主事	高津親義
司書	成田善亮
司書補	高田定吉
事務員	小川益藏
助手	海瀨健廣
同手	武士田文哉
同	大木登

職員は前年の通り變化なく、只石橋廣が圖書講習所を卒へて歸館し、現に館務に従事しつゝあり。圖書、閱覽人の増加は自然事務の繁忙を來たし、加ふるに從來手不足の爲め、整理未了のもの頗る多く、是等事務上の負債を償却すべく、高田、小川等の新進は、専らそれに執掌し、他は常務に忙殺、殊に館主の歸朝を迎ひて、活氣横溢、老主事を除く外は若手揃へ、縣下圖書館勃興の氣運に乗じて、折角努力中である。

尙昨年七月以降、客員として足立栗園氏あり。同氏は著述家として。倫理問題殊に東洋倫理學に精通せるの人として、世に知られたる篤學の士であることを紹介して置く。

◎閱覽人員及貸付圖書

年度	開館日數	閱覽人員	貸付圖書
明治三十八年度	三三	二二	三三
明治三十九年度	三三	二二	三三
明治四十年度	三三	二二	三三
明治四十一年度	三三	二二	三三
明治四十二年度	三三	二二	三三
明治四十三年度	三三	二二	三三
明治四十四年度	三三	二二	三三
大正元年度	三三	二二	三三
二年度	三三	二二	三三
三年度	三三	二二	三三
四年度	三三	二二	三三
五年度	三三	二二	三三
六年度	三三	二二	三三
七年度	三三	二二	三三
八年度	三三	二二	三三
九年度	三三	二二	三三
十年度	三三	二二	三三
十一年度	三三	二二	三三
十二年度	三三	二二	三三
十三年度	三三	二二	三三
十四年度	三三	二二	三三
昭和元年度	三三	二二	三三
合計	三三	二二	三三

◎圖書帶出一覽

私立成田圖書館一覽

年度	回数	冊數
明治三十八年度	一一〇八回	二九一五冊
明治三十九年度	一二八八回	三〇二〇冊
明治四十年度	一三五三回	三一七一冊
明治四十一年度	一四二一回	三三二九冊
明治四十二年度	一四九二回	五九八五冊
明治四十三年度	三四四〇回	一一九七四冊
明治四十四年度	七〇二〇回	二〇〇六四冊
大正元年度	八八四六回	二〇〇六四冊
二年度	八〇三八回	二二八六〇冊
三年度	九一八〇回	二〇五五六冊
四年度	一六二一六回	三〇二〇六冊
五年度	一四六一〇回	二五〇九八冊
六年度	一六七一〇回	二八〇五四冊
七年度	一六五八四回	二九四六九冊
八年度	一七三四六回	三二四六一冊
九年度	一七九七二回	二八一〇冊
十年度	一九五八六回	二九〇六八冊
十一年度	二〇七八〇回	三〇七三六冊
十二年度	二一九二四回	三三三六二冊
十三年度	二二〇二〇回	三三七八四冊
十四年度	二四二八三回	三四六一冊
昭和元年度	二四七六八回	三五三八四冊
合計	二七九九〇回	四〇一三八三冊

◎藏書

昭和貳年度增加書	千六百十六冊
和漢書	三十六冊
計	千六百五十二冊
昭和貳年三月末日現在圖書數	
和漢書	八萬九千八百九十五冊
洋書	四千八百九十三冊
合計	九萬四千七百八十八冊

回顧すれば、本館創立以來二十六年を超へ、開館後既に滿二十五年を過ぎたり。人生なれば元氣尤も旺盛なるべき壯年時代である。然るに藏書稍やく十萬冊、諸般の設備も亦全からず、省みて自ら赦然たらざるを得ぬ。併し乍ら無限の性命を有する圖書館としては、二十五年は猶孩兒に齊しく。本館が一人前の偉丈夫として、圖書館界に潤歩するの期は、尙數年若しくは數十年の後なるべし。本館圖書費の如きは頗る寛大であるが、一面現在の求覽者の要望を滿たし、他面良書保存も亦圖書館の重大任務なることを考慮せざるべからず。而して此兩面は一致を缺く場合甚だ多く圖書の撰擇も亦至難である。



昭和元年度 閱覽狀況一覽表

種別	月別												合計	百分比例	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月			
開館日數	二六	三〇	二六	三〇	二九	二八	二八	二七	二二	二二	三〇	三二	三二	三二	三二
宗 教	三一	三三	三五	四八	二四	二四	二六	三六	一四	二〇	一六	一四	一四	一四	一四
哲學・教育	四九	四〇	七〇	三九	四九	三〇	四四	四七	四六	九三	九二	五九	五〇	六〇	六〇
文學・語學	二五	二五	二六	三〇	二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
歴史・傳記	七九	六二	六七	六五	九三	六七	六八	六八	七二	六八	五八	六六	六九	七九	七九
地誌・紀行	六九	三九	三三	三九	三三	二七	三〇	三九	三六	三九	四〇	四〇	四九	四九	四九
社會・統計	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
法學・經濟	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
醫學・衛生	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
工業・兵事	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
諸書・叢書	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
隨筆・叢書	四三	三九	四三	三三	三二	四三	五五	三九	四二	三六	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
合 計	六〇九	五四四	五七二	五八五	七四三	四四三	四三三	五七二	五七六	五二二	四三三	四三三	五七二	五七二	五七二
一日平均	二二・八	一八・五	二二・〇	一九・六	二五・九	一五・三	一八・一	二一・二	二〇・二	一七・七	一四・六	一五・八	一九・七	一九・七	一九・七
館内閱覽	一五〇	一五七	一四四	一四八	一〇〇	一六二	一五五	一〇九	一〇九	一〇八	一八二	一九九	一九九	一九九	一九九
館外帶出者	一九七	一八七	二二八	二〇四	二二二	一〇二	一〇二	一六三	一六七	一〇四	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
合 計	三四七	三四四	三七二	三五二	三二二	二六四	二五七	二七二	二七六	二一二	二一三	二〇四	二〇四	二〇四	二〇四
一日平均	一二・三	一二・七	一二・四	一二・六	一二・四	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三	一二・三

私立成田圖書館規則

第一條 本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智徳啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス

第二條 何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得

第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

開館時限 閉館時限

四月 午前八時 午後九時

五月 午前九時 午後八時

六月 午前九時 午後八時

七月 午前九時 午後八時

八月 午前九時 午後八時

九月 午前九時 午後八時

十月 午前九時 午後八時

十一月 午前九時 午後八時

十二月 午前九時 午後八時

一月 午前九時 午後八時

二月 午前九時 午後八時

三月 午前九時 午後八時

第四條 本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス

歳首 自一月一日 館内掃除 毎月一日

紀念日 二月十一日 天皇祭 四月廿九日

六月九日 明治天皇祭 十一月三日

九月十日 中 末 自十二月廿八日

凡十日内外 至同三十一日

第五條 本館圖書閱覽ハ總テ無料トス

第六條 圖書閱覽希望者ハ圖書閱覽證(求需ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所へ提出シテ書冊ヲ借受クベシ

私立成田圖書館一覽

第七條 貸附圖書ノ員數ハ求覽人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過クルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス

第八條 借受ノ圖書ハ閱覽室外へ携帶スルコトヲ得ズ

第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ本館臨時ノ揭示ニ從ハズ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條 閱覽席チ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥褻ニ他席チ侵スベカラズ

第十二條 閱覽所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ

第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラル、トキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ之ヲ支辨ス

第十四條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館へ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ

委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ

委託ノ圖書ハ厚ク保護スト雖モ不幸火難盜難其他大災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責任ニ任セス

第十五條 館外圖書貸出特許規則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

成田圖書館圖書貸出規則

- 第一條 本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ
- 一 圖書帶出願書ヲ差出スベシ
- 二 圖書帶出願書ハ保證人ヲ要ス
- 三 圖書帶出願書ノ保證人ハ一應本館ノ承諾ヲ經タル者ニ限ル
- 四 保證金五圓ヲ預納スベシ
- 五 成田中學校、成田高等女學校、成田幼稚園、成田山感化院教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 六 新勝寺徒弟及詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同校長保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 七 五、六項ノ場合ニハ四項ノ保證金ヲ要セス
- 第二條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス
- 第三條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ二種十冊以內洋裝ハ二種二冊以內トス和洋併借ノ時ハ各半數以內トス
- 第四條 貸出期間ハ一週間以上三週間以內ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
- 第五條 期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
- 但他ニ同書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第六條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ
- 第七條 帶出權ヲ得タル者ニシテ他所ヘ轉居スルカ其他事故アリテ本

- 館圖書ノ借覽ヲ要セザル時ハ其旨届出ツベシ
- 第八條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ
- 第九條 左記事項ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
  - 一 大部ノ圖書
  - 二 各學科ノ事彙、字書、類書、書目、新聞
  - 三 館内閱覽人ノ請求多キ圖書
  - 四 貴重高價ナル圖書
  - 五 新刊圖書ハ二ヶ月乃至三ヶ月後定期刊行書ハ裝釘ノ上ニアラザレハ貸出セズ
- 第十條 借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニ依リ再び之ヲ付與セザルベシ此場合ニ於テハ保證金ヲ以テ帶出圖書ノ代金及其費用ニ充テ尙不足ラズル時ハ保證人ニ辨償セシムベシ
- 第十一條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ
- 第十二條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
- 第十三條 圖書帶出ヲ中止セントスル時ハ直ニ保證金ヲ還附スベシ以上

昭和元年度 圖書寄贈者芳名

秋山次郎	三	樺太廳	澤田重	二	高宮家
淺井儀助	二	川村昌助	重野紹一郎	八	武岡豐太
安達一郎	七	簡島保險局	思想社	三	田中清一
足立四郎	五	君島鐵三郎	實業同志會關東本部	二	千葉縣廳
安房郡役所	一	協調會	島村治助	二	中央職業紹介所
石川甚兵衛	三	京都帝國大學	下村宏	一	中央大學學員會
石橋廣	一〇	桐島像	修道會	二	朝鮮總督府
板倉保之助	二	宮内省	蕉門珍書百種刊行會	一	貯金局
市原郡役所	二	久保田章	白鳥庫吉	一一	月富太郎
印旛郡役所	二	啓明會	神宮皇學館	二	帝國圖書館
上田恭輔	一	高知高等學校	新勝寺納戸方	三九	帝國發明協會
上田健二	一	神戶高等工業學校	杉浦謙太郎	一	遞信省郵便局
エウヘニオ、オレゴ、ビクニヤ	一	國際信託株式會社	菅健次郎	二	手塚岸衛
大阪朝日新聞社	一	互尊文庫	青山文庫	一	鐵道省運輸局
大阪毎日新聞社	一	小沼義康	生命保險會社協會	一	鐵道省運輸局
大谷大學圖書館	一	近藤記念海事財團	關川順道	一	天帝教會本部
落合伊三郎	一	埼玉縣立圖書館	淺草寺社會部	二	東京朝日新聞社
柿花啓正	一	埼玉縣立圖書館	第一銀行	一	東京市社會局
片倉啓助	一	佐賀圖書館	臺灣總督府	一	東京帝國博物館
上塚司	一	佐藤彌榮	臺灣總督府圖書館	一	東京帝國博物館

東北帝國大學	一	日 露 協 會	六	三 橋 誠 一	三	山 口 照 道	一
富山市立圖書館	二	日本興業銀行	二	三 橋 善 藏	二	山 梨 縣 久 龍	二
東洋生命保險會社	一七	日本工業俱樂部	一	墨 西 哥 總 領 事 館	一	山 本	一
東 一 洋 文 庫	二	日本赤十字社千葉支部	一	最 上 慶 隆	六	山 本 久	一
內 閣 統 計 局	四	忍 頂 寺 務	一	森 田 棟 太 郎	二	橫 濱 市 圖 書 館	一
中 野 顯 三 郎	二	日 比 谷 圖 書 館	八	森 永 製 菓 製 茶 部	二	林 業 試 驗 場	三
行 方 喜 一	一	古 谷 榮 一	一	森 谷 義 正	二	露 西 亞 通 信 社	一
奈良縣立圖書館	一	堀 川 三 四 郎	一	諸 岡 蕭	三	小 川 欣 一 郎	一
奈良女子高等師範學校	一	本 多 元 俊	一	文 部 省	二	小 川 源 三 郎	一
南 葵 音 樂 圖 書 館	一	前 田 家	一	安 原 康	二	小 倉 運 送 店	一
西 島 九 州 男 子 協 會	一	前 橋 市 立 圖 書 館	一	矢 野 恒 太	一	小 野 幸	一
日 米 協 會	一	三 橋 金 太 郎	二	山 口 縣 立 圖 書 館	一		七

雜誌新聞寄贈者芳名(每號寄贈者のみ掲ぐ)

荒木 照定	水産の安房	三田評論	英語青年
アサヒグラフ	石川甚兵衛	三 越	大木登
大阪朝日新聞	外交時報	石川富士雄	松 竹
國民精神	國家學會雜誌	潮田健司	大阪出版社
自働道話	實 業	土 上	英文大阪毎日學習號
修養世界	昭和日日新聞	運輸時報	大阪商船株式會社
神 變	新愛知	運輸時報	海
中外日報	內 觀	英語青年社	岡田長次郎
安房郡 産會	日本及日本人		無產者新聞

加藤文一	時事新報	千葉醫學會雜誌	鐵道新報社
科學畫報	而眞會	東京醫事新誌	鐵道新報
無線と實驗	密宗學報	日本消化機病學會雜誌	東亞協會
鎌田共濟會	史談會	皮膚科及泌尿器科雜誌	東亞之光
鎌田共濟會雜誌	史談會速記録	大成會	東京市養育院
河村泰太郎	十善會	大日本農報社	東京市養育院月報
禪 宗	十善寶窟	大日本農報	東京堂
久保田章	淨化會	高田芳枝	新刊圖書雜誌月報
齒科醫報	淨 化	婦人俱樂部	同人社
齒科學報	新興社	千葉縣教育會	同人
齒科新報	新 興	千葉縣教育會	東洋協會
日本口腔衛生	新教佛社	千葉庶民新報社	東 洋
日本之商界	愛と力	千葉縣新報	特許公報
研究社	杉山晴耕園	千葉縣農會	特許公報
研究社月報	露	千葉縣聯合青年團	內閣統計局
高野山時報社	生活社	千葉縣青年處女	統計時報
高野山時報	凡人の力	智識新報社	奈良縣立圖書館
高野山大學密教研究會	關川雅司	智識新報	奈良縣立圖書館月報
密教研究	十字街	帝國火災保險會社	成田高等女學校
國際勞働局東京支局	關川博道	帝國火災保險會社	成田中學校
世界の勞働	結 核	帝國圖書館	校友會雜誌
國母社	細菌學雜誌	帝國圖書館	校友會雜誌
法 施	兒科雜誌	帝國圖書館	日新時報社
時事新報成田專賣所	社會醫學雜誌	帝國圖書館	日新時報

258  
101

私立成田図書館一覽

- |   |  |  |
|---|--|--|
| 日本岳友會<br>友<br>日本弘道會<br>弘道<br>日本赤十字社<br>博愛<br>圖書館協會<br>圖書館雜誌<br>忍頂寺務<br>清元研究<br>野田町圖書館<br>野田讀書會報<br>野村教育研究所<br>教育ペンフレット<br>ばんだれ社<br>日比谷圖書館<br>市立圖書館と其事業<br>藤崎平三郎<br>實驗治療<br>治療及處方<br>治療藥報<br>日新治療<br>日本婦人科學會雜誌 | ミューンヘンネル、メジチ<br>ニツシエチツヘンシユリフ<br>臨床醫學<br>佛教聯合會<br>正教新論<br>古川與一耶<br>ホケツト<br>奉公會<br>奉公<br>法律新聞社<br>法律新聞<br>菩提樹社<br>我<br>法華會<br>法華<br>前橋市立圖書館<br>前橋市立圖書館報<br>松田芳郎<br>隣人の友<br>松戸高等女學校<br>松戸高等女學校々友會雜誌<br>丸善株式會社<br>學燈<br>新刊月報 | マルゼンスプナウンス<br>メンツ<br>滿鐵社員會<br>讀書會雜誌<br>若溪會<br>教育<br>無水庵<br>日本思想<br>森江書店<br>三寶<br>諸岡薰<br>アサヒスポーツ<br>謡曲界發行所<br>謡曲界<br>陽明學會<br>陽明學<br>聯合青年團<br>千葉市聯合青年團報<br>六大新報社<br>六大新報<br>早稻田大學<br>早稻田學報<br>和融社<br>第一義 |
|---|--|--|

昭和貳年六月三十日印刷  
昭和貳年七月四日發行

(非賣品)

發行所

成田山新勝寺

編輯人

淺井照次  
千葉縣印刷部成田町百九十三番地

印刷人

森久一

印刷所

ぎんざ社印刷部  
東京市京橋區國崎町一丁目廿五番地

私立成田図書館一覽

- |           |              |            |
|-----------|--------------|------------|
| 日本岳友會     | ミューンヘンホル、メジチ | マルゼンスアナウンス |
| ！本弘道會     | 臨床醫學         | メンツ        |
| 弘道        | 佛教聯合會        | 滿鐵社員會      |
| 日本赤十字社    | 正教新論         | 讀書會雜誌      |
| 博愛        | 古川與一郎        | 著漢會        |
| 圖書館協會     | ホケツト         | 教育         |
| 圖書館雜誌     | 奉公會          | 無水庵        |
| 忍頂寺務      | 奉公會          | 日本思想       |
| 清元研究      | 法律新聞社        | 森江書店       |
| 野田町圖書館    | 法律新聞         | 三寶         |
| 野田讀書會報    | 菩提樹社         | 諸岡黨        |
| 野村教育研究所   | 我            | アサヒスポーツ    |
| 教育ペンフレット  | 法華會          | 諸曲界發行所     |
| ぼんだい社     | 法華會          | 諸曲界        |
| 辭         | 前橋市立圖書館      | 陽明學會       |
| 日比谷圖書館    | 前橋市立圖書館報     | 陽明學        |
| 市立圖書館と其事業 | 松田芳郎         | 聯合青年團      |
| 藤崎平三郎     | 隣人の友         | 千葉市聯合青年團報  |
| 實驗治療      | 松戸高等女學校      | 六大新報社      |
| 治療及處方     | 松戸高等女學校々友會雜誌 | 六大新報       |
| 治療藥報      | 丸善株式會社       | 早稻田大學      |
| 日新治療      | 學燈           | 早稻田學報      |
| 日本婦人科學會雜誌 | 新刊日報         | 和融社        |
|           |              | 第一義        |

2582  
101

昭和貳年六月三十日印刷  
昭和貳年七月四日發行

(非賣品)

編輯人兼

淺井照次

千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人

森久一

印刷所

ぎんざ社印刷部  
東京市京橋區岡崎町一丁目廿五番地

發行所

成田山新勝寺

終

